

文部科学省委託事業

学校事故対応に関する調査研究  
調査報告書

平成 27 年 2 月

国立大学法人 大阪教育大学



## 目次

<b>1 次調査</b> .....	<b>3</b>
1. 事件・事故災害の概要 .....	5
1-1. 事件・事故災害が発生した場面.....	6
1-2. 被災した生徒が所属していた部活動 .....	9
1-3. 部活動以外の場面で被災した児童生徒が実施していたスポーツの種目.....	10
1-4. 事件・事故災害の分類 .....	11
1-5. 事件・事故災害が発生した時間帯 .....	12
2. 事件事故災害後の対策 .....	13
2-1. 初期段階・発生後 1 週間 .....	13
2-1-1. 初動の対応 .....	13
2-1-2. 関係者からの情報収集 .....	15
2-1-3. 教育委員会等関係機関への情報の伝達.....	16
2-1-4. 被災した児童生徒等の家族への情報の伝達 .....	16
2-1-5. 在校生への情報の伝達 .....	18
2-1-6. 在校生に対する心のケア .....	19
2-1-7. 在校生の保護者への情報の伝達.....	19
2-1-8. マスコミへの情報の伝達.....	20
2-2. 検証委員会 .....	22
2-2-1. 検証(調査)委員会設置の有無 .....	22
2-2-2. 検証(調査)委員会設置の時期 .....	22
2-2-3. 検証(調査)委員会設置の事務局.....	22
2-2-4. 検証(調査)委員会の委員.....	23
2-2-5. その他検証(調査)委員会の活動.....	23
2-2-6. 検証委員会を設置しなかった場合の検証方法.....	24
2-3 検証終了後 .....	25
2-3-1. 検証報告の公開について.....	25
2-3-2. 再発防止策 .....	25
2-3-3. 関係者への対応 .....	26
2-3-4. 事後対応における課題 .....	26
3. 当該学校園における安全対策 .....	27
3-1. 事件・事故災害発生前の状況 .....	27
3-2. 現在の状況 .....	29
4. 当該学校園における緊急対応訓練の実施状況.....	32

## 目 次

4-1. 児童生徒・教職員対象の緊急対応訓練の実施状況 .....	32
4-2. 教職員対象の緊急対応研修の実施状況.....	34
<b>2次調査 .....</b>	<b>37</b>
1. ヒアリング調査概要.....	39
2. ヒアリング結果.....	40
2-1. 概要 .....	40
2-2.個別事例.....	44
事例1：公立・高等学校・課外指導(部活動・柔道)・死亡事故.....	44
事例2：公立・高等学校・課外指導(部活動・ラグビー)・死亡事故.....	55
事例3：私立・小学校・学校行事(卒業旅行)・死亡事故.....	57
事例4：公立・中学校・課外指導(ソフトテニス)・死亡事故.....	60
事例5：私立・高等学校・課外指導(部活動・ラグビー)・障害.....	62
事例6：公立・中学校・課外指導(部活動・サッカー)・死亡事故.....	65
事例7：公立・高等学校・課外指導(部活動・ソフトテニス)・死亡事故.....	68
事例8：公立・中学校・課外指導(部活動)・死亡事故.....	70
事例9：公立・中学校・課外指導(部活動・サッカー)・死亡事故.....	72
<b>1次調査・2次調査を踏まえての分析.....</b>	<b>77</b>
1. 学校・学校設置者の事件・事故災害後の対応と遺族・家族との関係 .....	77
2. 検証委員会の設置.....	79
<b>全国調査.....</b>	<b>81</b>
1. 調査概要 .....	83
2-1. 市町村 .....	85
2-2. 都道府県.....	90
<b>参考資料.....</b>	<b>95</b>
事件・事故災害対応に役に立つリンク集.....	97
<b>別 添.....</b>	<b>103</b>
【別添1】 事件事故災害が発生した場面時間帯区分(内訳) .....	105
【別添2】 事件事故災害発生時に実施していたスポーツ(内訳) .....	106
【別添3】 2-1-4 設問 4-14 自由記述.....	107
【別添4】 2-3-4 事後対応における課題 .....	109
【別添5】 調査票(1次調査).....	111
【別添6】 調査票(2次調査).....	120
【別添7】 調査票(全国調査).....	126

1 次調査



## 1. 事件・事故災害の概要

平成 17 年度～25 年度に、(独)日本スポーツ振興センター(以下「JSC」という。)が死亡見舞金及び障害見舞金(第 7 級以上の障害に限る。)の災害共済給付を行った事件・事故災害 832 件を調査対象とし、学校園の設置者に「学校事故対応に関する実態調査票(1 次調査)」を送付した結果、565 件の回答があった。得られた回答のうち、調査対象期間以外の事案について回答がなされているものや故意による死亡とみなされる事例を除外した結果、有効回答数は 558 件(67.1%)となった。ただし、被災年が古く記録が残っていない等の事情から未回答の項目が多い回答もあった。<sup>1</sup> 男女別に集計してみると、男子の事例は回答数 558 件中 420 件(75.3%)であった。「回答者は、調査対象となっている事件・事故災害の対応に直接関与されましたか。」に対して、「はい」と回答のあった事例は 558 件中 95 件(17.0%)であった。私立学校園の回答は 558 件中 82 件(14.7%)で、事件・事故の分類については 525 件中 11 件(2.1%)が「事件」と回答されていた。さらに、何らかの持病があったと記載があった回答は、事件・事故災害との因果関係が不明なものも含めて 70 件であった。

調査回答率(学校区分)

上段：件数  
下段：回答有無の率(%)

	学校区分			合計
	公立	国立	私立	
対象総件数	662	16	154	832
回答あり	461	15	82	558
	69.6%	93.8%	53.2%	67.1%
回答なし	201	1	72	274
	30.4%	6.3%	46.8%	32.9%

<sup>1</sup> 本報告書においては、特に記載があるものを除いては、無回答を除いて集計を行っている。

表の左端に記載されている数字は、調査票(別添 5)の番号である。4-1 は質問 4 の 1 を示す。

自由記述の設問についても全体の傾向を把握しやすくするために、出来る限り分類し集計した。自由記述の分類項目は次のことを指す。

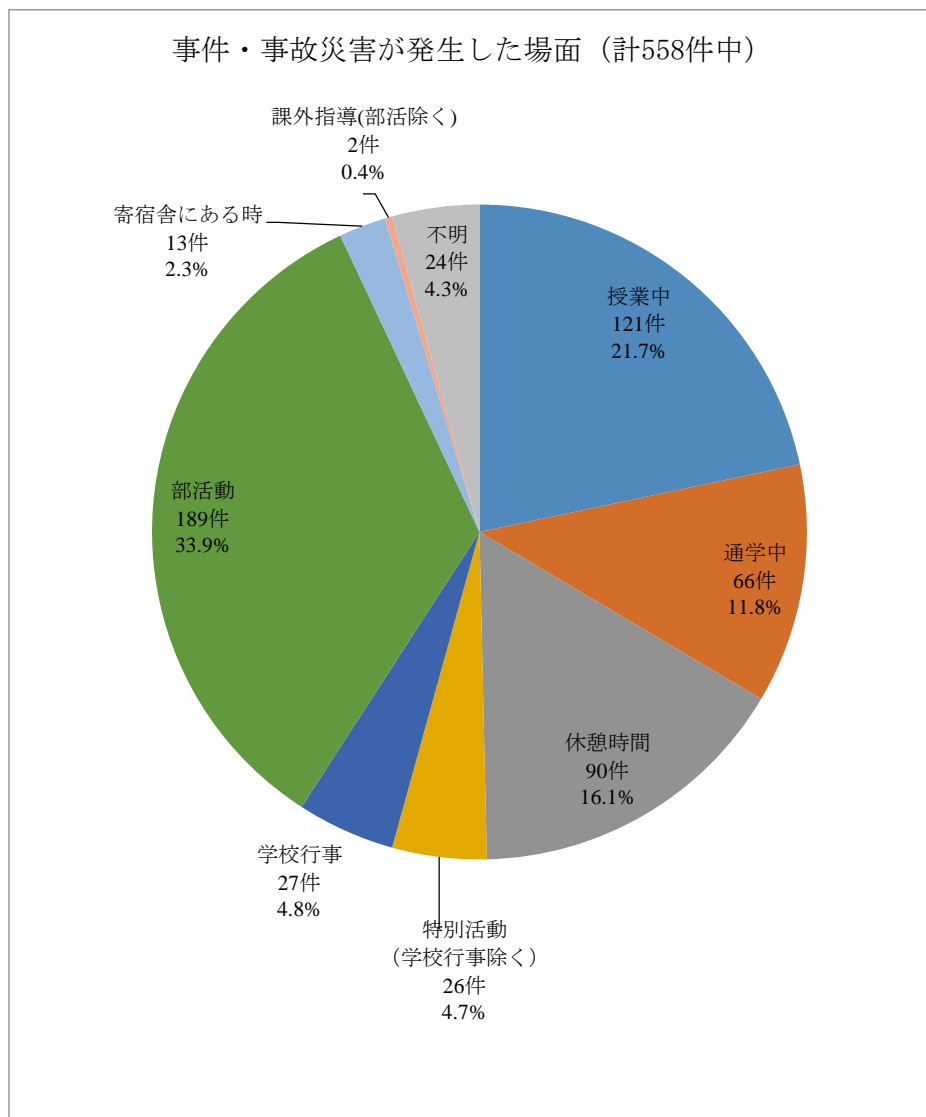
「分類不可」: 誤字脱字がある、主語述語が明確でない、設問と違う回答としていると推測される等の理由により、回答があったが分類できなかったもの

「不明」: 記録が残っていない、記憶が定かでない等の理由により不明と記載があったもの

## 1 次調査

### 1-1. 事件・事故災害が発生した場面

事件・事故の発生状況について記述された内容を発生場面別に分類<sup>2</sup>した結果、部活動、授業中、休憩時間中に発生した事件・事故災害が多く、遊びや運動を伴う事例が全体の約6割を占めていた。このうち授業中の事例では、121件中94件が体育(保健体育)の授業中であつた。また部活動中においては、日常的な活動が189件中119件であつた。



<sup>2</sup> 質問1の質問項目のうち「当該事件・事故災害の発生状況について、以下になるべく詳しく記載して下さい。」と「事件・事故災害が発生した場面」から分類を行った。ただし、判断が難しい場合は、その他の質問項目の内容を参照した。分類方法は別添1に示すとおり。



事件・事故災害が発生した場面（詳細）

場面		件数	割合 (%)
授業中	体育	94	16.8
	体育以外の科目	14	2.5
	総合的な学習の時間	1	0.2
	実習中	3	0.5
	保育中	2	0.4
	授業中(詳細不明)	7	1.3
通学中	登校中	29	5.2
	通学中	2	0.4
	帰宅中	35	6.3
休憩時間	登校後	14	2.5
	休み時間	24	4.3
	給食	14	2.5
	昼休み	17	3.0
	掃除	7	1.3
	放課後	12	2.2
	休憩時間(詳細不明)	2	0.4
特別活動 (学校行事除く)	特別活動(運動含む)	6	1.1
	特別活動(運動含まない)	5	0.9
	特別活動(学外)	14	2.5
	特別活動(詳細不明)	1	0.2
学校行事	学校行事(運動含む)	23	4.1
	学校行事(運動含まない)	4	0.7
部活動	部活(日常的な活動)	119	21.3
	部活(試合・合宿・練習試合等)	70	12.5
寄宿舎にある時	寄宿舎	13	2.3
課外指導(部活除く)	課外指導(詳細不明)	2	0.4
不明	不明	24	4.3
合 計 (558件)		558	100.0

## 1 次調査

被災した児童生徒の学年を3学年ごとに区分し、幼稚園、小学校低学年、小学校高学年、中学校、高等学校(高等専門学校1-3年含む)、高等専門学校4-5年に分けて集計を行った。小学校では授業中及び休憩時間中が主たる事件・事故発生場面であったが、中学校及び高等学校では部活動中によるものが多くなっていった。また、高校では部活動中の事故が一番多く、通学中の事故も他の学年群に比べて多くなる傾向が観察された。

学年区別にみた事件・事故発生場面（件数）

場面	学年区分							合計
	幼稚園	小学校 (低学年)	小学校 (高学年)	中学校	高校	高専 (4/5年)	不明/ 未回答	
授業中	2	14	23	27	54	1	0	121
通学中	0	9	5	10	42	0	0	66
休憩時間中	0	13	29	25	22	1	0	90
特別活動	0	3	4	6	12	0	1	26
学校行事	0	1	2	9	13	2	0	27
部活動	0	0	1	59	127	1	1	189
寄宿舎にあるとき	0	0	1	2	9	1	0	13
課外指導（部活動除く）	0	0	0	2	0	0	0	2
不明/未回答	0	2	2	7	13	0	0	24
合計	2	42	67	147	292	6	2	558

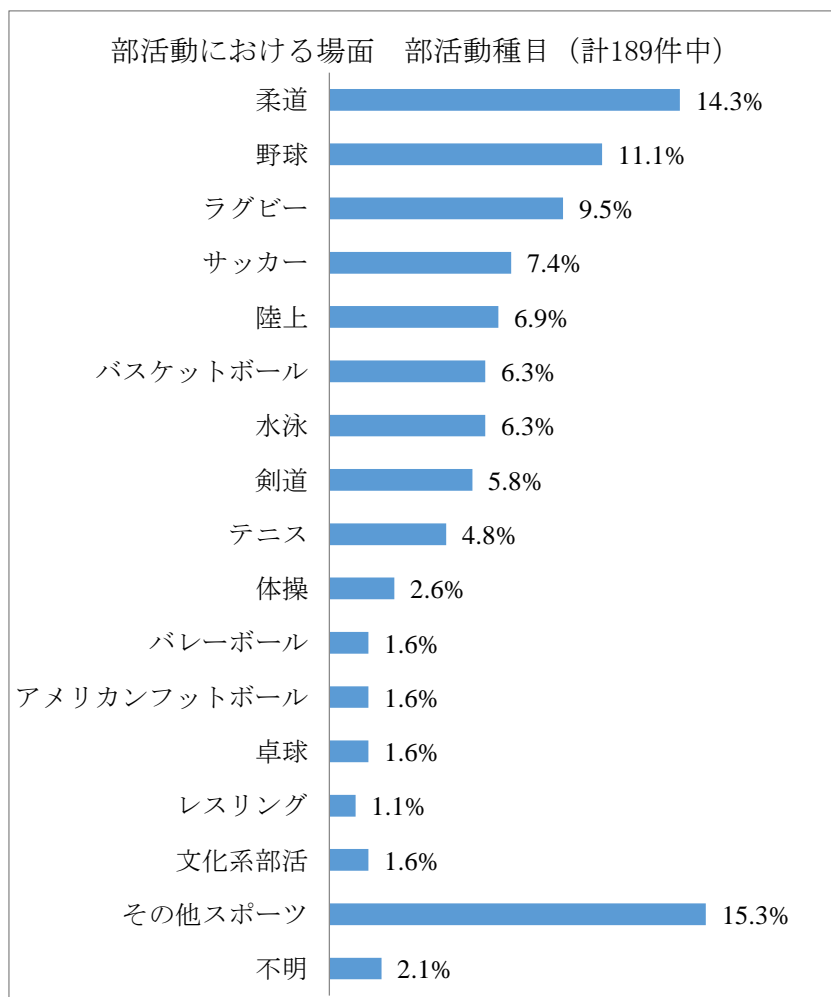
死亡・障害等級を分類したところ、死亡が全体の6割以上を占めた。

死亡・障害種別にみた事件・事故発生場面（件数）

場面	死亡・障害種別									合計
	死亡	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明/ 未回答	
授業中	68	13	3	5	1	6	1	24	0	121
通学中	47	5	5	0	1	3	1	4	0	66
休憩時間中	65	11	1	3	0	3	2	5	0	90
特別活動	21	3	0	0	0	0	0	1	1	26
学校行事	14	6	0	3	1	1	0	1	1	27
部活動	105	44	1	7	2	4	5	17	4	189
寄宿舎にあるとき	11	0	0	1	1	0	0	0	0	13
課外指導（部活動除く）	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
不明/未回答	17	1	2	0	0	0	2	2	0	24
合計	349	84	12	19	6	17	11	54	6	558

## 1-2. 被災した生徒が所属していた部活動

部活動中における事件・事故災害について、部活動種目別に集計した結果、柔道、野球、ラグビーが上位を占めた。<sup>3</sup>

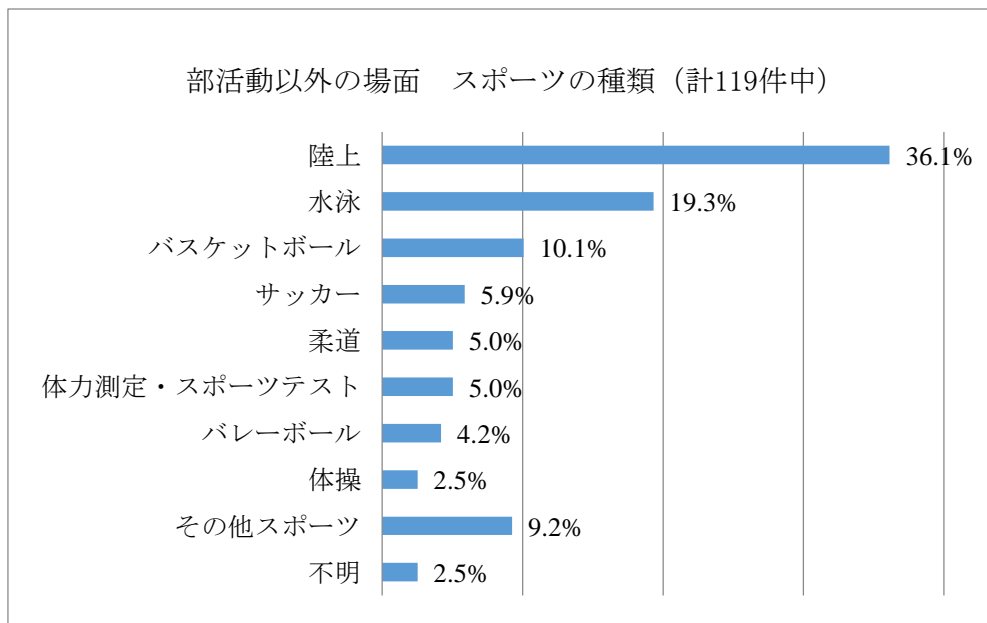


<sup>3</sup> 質問1の質問項目のうち「当該事件・事故災害の発生状況について、以下になるべく詳しく記載してください。」から分類を行った。ただし、判断が難しい場合は、その他の質問項目の内容を参照した。分類方法は別添2に示すとおり。

## 1 次調査

### 1-3. 部活動以外の場面で被災した児童生徒が実施していたスポーツの種目

部活動以外の場面でスポーツを実施していて被災した事例について、行っていた種目を細分化して集計した結果、短距離・長距離走を含む陸上が一番多かった。次いで、水泳、バスケットボールの順となっていた。



## 1-4. 事件・事故災害の分類

死亡事例について「事件・事故災害の分類」をみると、突然死が約半数を占め、次いで、負傷、溺水の順となっていた。また、障害の主たる原因は負傷となっていた。その他の詳細を確認した結果、「突然倒れる・突然体調不良を訴える」ものが多くなっていた。

事件・事故災害の分類別にみた発生場面（件数）

場面	事件・事故災害の分類								合計
	1. 負傷	2. 中毒	3. 熱中症	4. 溺水	5. 異物の嚥下	6. 突然死	7. その他	不明/未回答	
授業中	24	0	1	8	0	42	42	4	121
通学中	20	0	2	11	1	9	16	7	66
休憩時間中	32	0	1	1	7	26	21	2	90
特別活動	3	0	0	3	0	13	5	2	26
学校行事	8	0	0	0	0	8	9	2	27
部活動	75	1	14	3	0	48	44	4	189
寄宿舎にあるとき	3	0	0	1	1	4	4	0	13
課外指導（部活動除く）	1	0	0	0	0	1	0	0	2
不明/未回答	11	0	1	1	0	1	5	5	24
合計	177	1	19	28	9	152	146	26	558

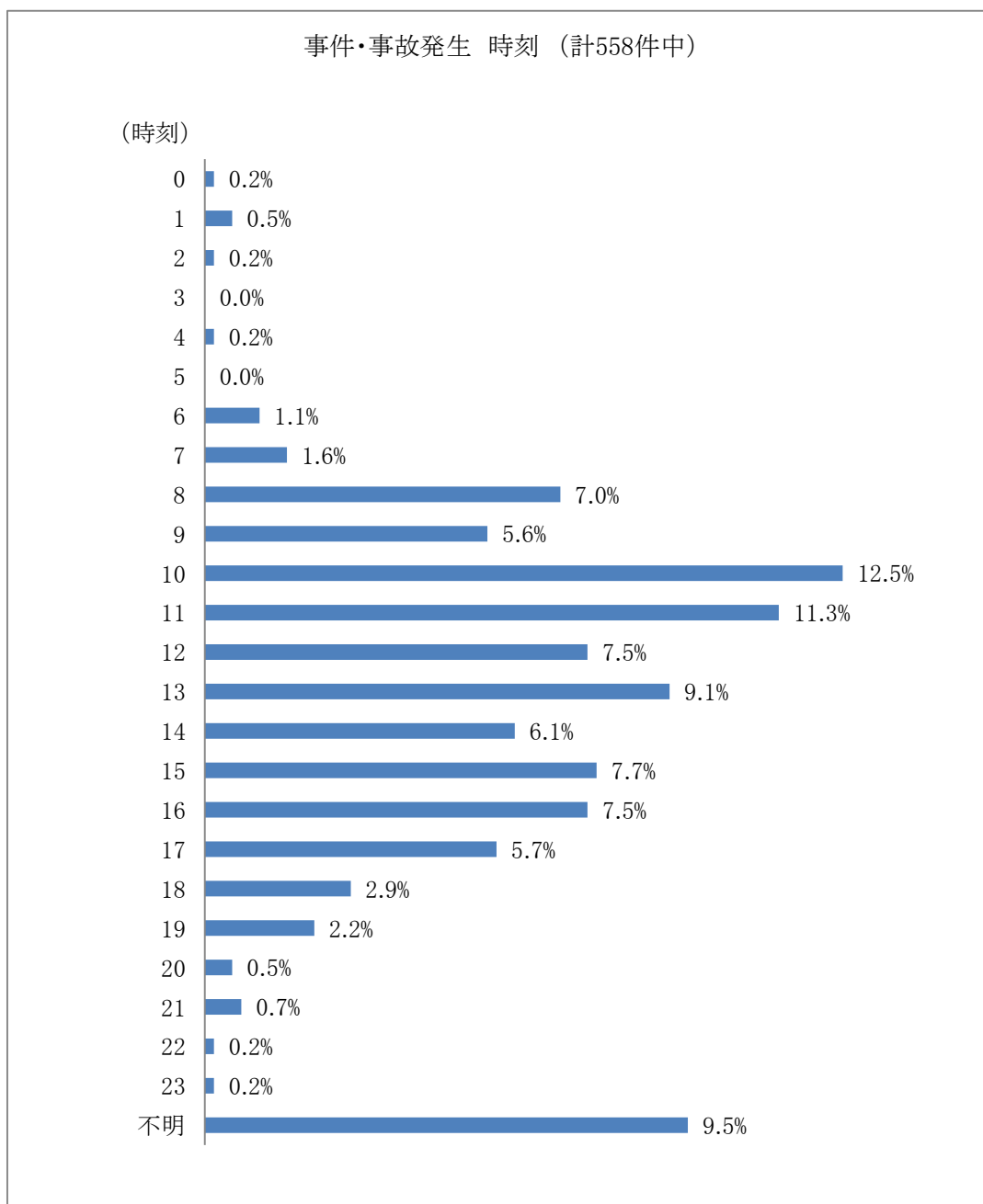
事件・事故災害の分類別にみた死亡・障害種別（件数）

死亡・障害種別	事件・事故災害の分類								合計
	1. 負傷	2. 中毒	3. 熱中症	4. 溺水	5. 異物の嚥下	6. 突然死	7. その他	不明/未回答	
死亡	54	1	17	25	8	152	78	14	349
1級	62	0	0	2	1	0	16	3	84
2級	8	0	0	0	0	0	1	3	12
3級	14	0	0	1	0	0	4	0	19
4級	4	0	0	0	0	0	2	0	6
5級	7	0	2	0	0	0	8	0	17
6級	6	0	0	0	0	0	3	2	11
7級	20	0	0	0	0	0	31	3	54
不明/未回答	2	0	0	0	0	0	3	1	6
合計	177	1	19	28	9	152	146	26	558

## 1 次調査

### 1-5. 事件・事故災害が発生した時間帯

「事件・事故災害が発生した時間帯」では、授業中や休憩時間中にあたる 10 時から 13 時が最も事件・事故災害の発生割合が高くなっていた。次いで、通学や放課後・部活動中にあたる 8 時と、15 時から 16 時が多くなっていた。



## 2. 事件事故災害後の対策

### 2-1. 初期段階・発生後 1 週間

事件・事故災害の発生直後から 1 週間の対応状況について調査を行った。

#### 2-1-1. 初動の対応

「事前に何らかの兆候が観察されていきましたか」への回答割合は、「とても思う」と「少し思う」で計 18.3%であった。「被害者の遺族・家族への対応は適切に行えましたか」については「あまり思わない」と「全く思わない」で計 2.0%であるのに対し、「教職員による応急対応(救急救命活動)は適切に行えましたか」では、「あまり思わない」と「全く思わない」で計 7.9%、「救急車の出動要請は適切に行えましたか」では、「あまり思わない」と「全く思わない」で計 6.5%、「事件・事故対策本部を設置する等、学校として組織的に適切な対応が行えましたか」では、「あまり思わない」と「全く思わない」で計 6.2%が「適切に行えなかった」と回答していた。

<初動>

		1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
4 1 1	当該の事件・事故災害は、事前に兆候（ヒヤリハットを含む）と考えられるような状況が観察されていきましたか。	28	50	101	248	427
		6.6	11.7	23.7	58.1	100
4 1 2	当該の事件・事故災害発生直後、被害者の遺族・家族への対応は適切に行えましたか。	368	68	7	2	445
		82.7	15.3	1.6	0.4	100
4 1 3	当該の事件・事故災害発生直後、教職員による応急対応（救急救命活動）は適切に行えましたか？	348	50	16	18	432
		80.6	11.6	3.7	4.2	100
4 1 4	救急車の出動要請は適切に行えましたか？	380	23	4	24	431
		88.2	5.3	0.9	5.6	100
4 1 5	事件・事故対策本部を設置する等、学校として組織的に適切な対応をとることができましたか？	313	80	19	7	419
		74.7	19.1	4.5	1.7	100

上段：件数 下段：割合(%)

そこで、「被害者の遺族・家族への対応は適切に行えましたか」との設問において、「とても思う」という回答を選択した回答者に対して、「選択した理由」について記述による回答（複数回答を含む）を求め、その記述内容をもとに改めて分類して集計を行った。その結果、「保護者への連絡が早かった」、「迅速な対応」、「保護者との密な連絡」、「状況説明ができています」、「保護者の理解が得られた」、「保護者より謝辞あり」の記述があった。一方、「全く思わない」という回答を選択した事例では、「もう少し早い段階で対応について保護者と相談ができた」という記述があった。

次に、「教職員による応急対応(救急救命活動)は適切に行えましたか」との設問に「とても思う」の回答を選択した理由では、「迅速な対応であった」、「状況から判断し適切な対応を行った」、「心肺蘇生法を行った」、「情報伝達、連携がうまくできた」という記述があっ

## 1 次調査

た。一方、「全く思わない」との回答の選択理由としては、「学校外で起きた事故のため応急対応はしていない」との記述があった。

また、「救急車の出動要請は適切に行えましたか」との設問に「とても思う」の回答を選択した理由では、「迅速な対応だった」、「様態を判断し要請できた」、「事故に気付いた教職員以外の方が速やかに要請してくれた」という記述があった。しかし一方で、「全く思わない」との回答の選択理由として「学校外で起きた事故のため教職員は要請していない（教職員以外の方が要請した）」、「救急車以外で搬送した」の記述があった。

「事件・事故対策本部を設置する等、学校として組織的に適切な対応が行えましたか」との設問に「とても思う」の回答を選択した理由では、「校長を中心に組織的な体制をとった」、「学外関係組織と連携をとった」、「対応会議を開いた」、「学内情報共有・連携に努めた」という記述があった。一方「全く思わない」との回答の選択理由では、「学校外で起きた事故であったため対策本部を設置していない」、「訴訟に発展してしまったため」という記述があった。

なお、本調査においては、通学中を含む学校管理下の事件・事故災害を対象に調査を行っている。回答のあった 558 件においては、通学中の 66 件をはじめ、学校敷地外での事件・事故災害が含まれていることも考慮しなければならない。



## 2-1-2. 関係者からの情報収集

「教職員からの情報収集は速やかにかつ十分に行われましたか」については、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合が計 96.4%、「在校生からの情報収集は速やかにかつ十分に行えましたか」では計 88.3%、「その他関係者からの情報収集は速やかにかつ十分に行われましたか」では計 87.9%であった。「被災した児童生徒からの情報収集は速やかにかつ十分に行われましたか」については、被災した児童生徒が死亡した場合を除くと、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合が計 74.8%であった。

情報収集をした人は「管理職」が 193 件で、情報収集の方法は「聞き取り」が 249 件と最も多くなっていた。

<情報の収集>

		1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
4 1 6	被災した児童生徒から情報収集は速やかにかつ十分に行われたと思われませんか？	68	27	9	23	127
		53.5	21.3	7.1	18.1	100
	在校生から情報収集は速やかにかつ十分に行われたと思われませんか？	302	45	19	27	393
		76.8	11.5	4.8	6.9	100
	教職員から情報収集は速やかにかつ十分に行われたと思われませんか？	370	34	6	9	419
		88.3	8.1	1.4	2.1	100
	その他関係者から情報収集は速やかにかつ十分に行われたと思われませんか？	266	53	14	30	363
		73.3	14.6	3.9	8.3	100

上段：件数 下段：割合(%)

4 1 7	情報収集はどのような形で行われましたか？ 情報収集をした人について	管理職	養護教諭	顧問	担任	その他学校教員・職員	教育委員会	警察
	有効回答数：330（複数回答）	193	37	55	79	130	25	17
		58.5	11.2	16.7	23.9	39.4	7.6	5.2

上段：件数 下段：割合(%)

4 1 7	情報収集はどのような形で行われましたか？ 情報収集の方法について	関係者への聞き取り	現場・病院等で状況把握	アンケート調査	文書による報告	警察からの聴取	詳細不明
	有効回答数：355（複数回答）	249	41	4	5	26	76
		70.1	11.5	1.1	1.4	7.3	21.4

上段：件数 下段：割合(%)

## 1 次調査

### 2-1-3. 教育委員会等関係機関への情報の伝達

「教育委員会等関係機関への通報・連絡は適切に行えましたか」では、「とても思う」と「少し思う」と回答のあった割合が計 97.3%となり、ほとんどのケースで適切に行われたと考えられている結果が示された。

#### <情報の伝達>

4 1 8	教育委員会等の関係機関への通報・連絡は適切に行われましたか？	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
		404 90.4	31 6.9	9 2.0	3 0.7	447 100

上段：件数 下段：割合(%)

### 2-1-4. 被災した児童生徒等の家族への情報の伝達

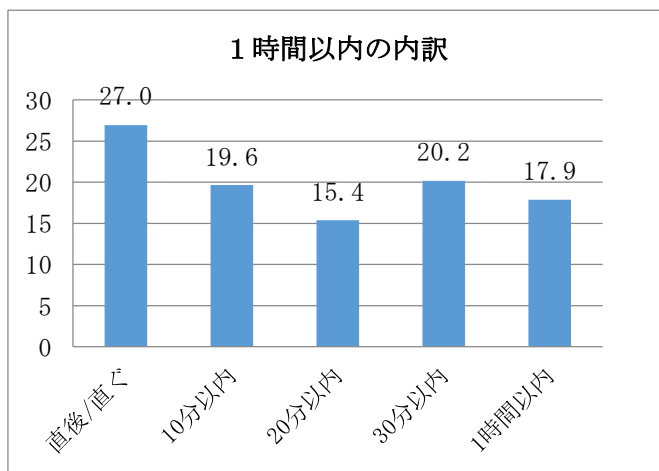
「被災した児童生徒等の家族への第一報はいつ行われましたか」では、全体の 96.4%が 1 時間以内に行ったと回答した。

4 1 9	被災した児童生徒等の家族への第一報はいつ行われましたか？	1時間以内	2時間以内	3時間以内	12時間以内	48時間以内	合計
		397 96.4	8 1.9	2 0.5	3 0.7	2 0.5	412 100

上段：件数 下段：割合(%)

4 1 9	1 時間以内の内訳	直後/直ぐ	10分以内	20分以内	30分以内	1時間以内	合計
		107 27.0	78 19.6	61 15.4	80 20.2	71 17.9	397 100

上段：件数 下段：割合(%)



被災した児童生徒等の家族への「学校側からの具体的な経緯の説明」では、1 時間以内に 64.2%、24 時間以内に計 90.3%の割合で、説明が行われていた。

1 次調査

4   10	遺族・家族に対して、学校側から具体的な経緯を説明したのはいつ頃でしたか？	1時間以内	2時間以内	3時間以内	12時間以内	24時間以内	48時間以内	3日目以降	合計
		238	46	22	27	2	19	17	371
		64.2	12.4	5.9	7.3	0.5	5.1	4.6	100

上段：件数 下段：割合(%)

「被災した児童生徒等の遺族・家族への学校側からの最初の説明は、だれがどのような内容について話されましたか。」という自由記述形式の問いに対して、分類し集計した結果、話をした人については「学校長」が116件で最も多かった。

4   11	被災した児童生徒等の遺族・家族への学校側からの最初の説明は、だれがどのような内容について話されましたか？ 話した人 有効回答数：363（複数回答）	学校長	教頭・副校長	担任	顧問	養護教諭	学校関係者	加害者	その他
		116	73	90	84	48	97	2	11
		32.0	20.1	24.8	23.1	13.2	26.7	0.6	3.0

上段：件数 下段：割合(%)

話した内容については、「事故概要・発生時の説明」が351件で最も多かった。また少数ながら、「謝罪」との記述もあった。ただし、本調査では、謝罪に関する具体的な質問を実施していないため、他にも「謝罪」を行っているが記載されていない事例が含まれている可能性がある。

4   11	被災した児童生徒等の遺族・家族への学校側からの最初の説明は、だれがどのような内容について話されましたか？ 話した内容 有効回答数：356（複数回答）	事故概要・発生時の説明	事故直後の対応	事故前の様子	今後の対応	謝罪	その他
		351	57	32	2	8	5
		98.6	16.0	9.0	0.6	2.2	1.4

上段：件数 下段：割合(%)

「教職員や学校関係者間における情報共有は十分でしたか」という設問に対しては、「とても思う」と回答した割合が61.9%、「少し思う」と回答した割合が27.6%であった。また「被災した児童生徒等の遺族・家族への学校側からの面談による説明」は、64.0%が「6回以上」実施されていた。

4   12	遺族・家族に対して、学校側から経緯を説明する前に、教職員や学校関係者間における情報共有は十分でしたか？	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
		253	113	36	7	409
		61.9	27.6	8.8	1.7	100

上段：件数 下段：割合(%)

4   13	事件・事故災害発生後、遺族・家族への学校側からの面談による説明は合計何回行われましたか？	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	合計
		26	37	35	18	11	226	353
		7.4	10.5	9.9	5.1	3.1	64.0	100

上段：件数 下段：割合(%)

## 1 次調査

「4-14 学校側からの事件・事故災害に関する説明に対して、被災した児童生徒等の遺族・家族からの理解が得られにくかった説明内容としてはどのようなことがありましたか。」という自由記述形式の設問に対して、無回答や不明と記入した回答を除いて 304 件の回答があった。回答内容により以下の 8 項目に分類した結果、「特になし」、「理解が得られている」という回答が最も多く 202 件であった。その一方、「原因やそれに至った経緯」が 35 件、救急対応の遅れなど「事件事故発生時の学校側の対応」が 25 件あげられており、約 3 割の遺族・家族から理解が得られにくかったという結果であった。なお、詳細な記述内容については別添 3 を参照されたい。

分類	件数	割合(%)
特になし・理解が得られている	202	66.4
事前の状況の把握・事件事故災害防止の対応について	8	2.6
原因やそれに至った経緯	35	11.5
事件事故発生時の学校側の対応	25	8.2
被災した児童生徒の対応	2	0.7
マスコミに関すること	2	0.7
補償・金銭面	13	4.3
その他	17	5.6
合計	304	100

### 2-1-5. 在校生への情報の伝達

「在校生を対象とした事件・事故災害に関する説明会」を開催した割合は 68.2%で、そのうち、54.6%が事故発生の翌日中までに開催していた。

4   15	在校生を対象とした事件・事故災害に関する説明会は開催されましたか？	はい	いいえ	合計
		289	135	424
		68.2	31.8	100.0

上段：件数 下段：割合(%)

以下、4-15「はい」の場合

4   15	開催された場合、在校生を対象とした説明会はいつ実施されましたか？	24時間以内	48時間以内	1週間以内	1か月以内	6か月以内	合計
		42	109	103	21	2	277
		15.2	39.4	37.2	7.6	0.7	100

上段：件数 下段：割合(%)

4   15	在校生説明会等を開催する前に、教職員や学校関係者間における事件・事故災害に関する情報共有は十分に行われましたか？ 「はい」の場合	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
		251	25	5	0	281
		89.3	8.9	1.8	0.0	100

上段：件数 下段：割合(%)

4   15	被害者本人、その家族・遺族からの理解を十分に得て開催しましたか？	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
		188	54	18	10	270
		69.6	20.0	6.7	3.7	100

上段：件数 下段：割合(%)

## 2-1-6. 在校生に対する心のケア

「4-16 在校生に対する心のケアに対して留意した点はありますか。体制構築やケアの方法について出来るだけ具体的な内容について回答してください。」という設問に対して、ケアの方法では、「カウンセリング」が 155 件で最も多かった。次いで、「学級、集会等でのケアや命の大切さについて説明する」が 60 件であった。

	件数	割合(%)
カウンセリング	155	51.8
観察	37	12.4
学級、集会等での心のケアや命の大切さについて説明する	60	20.1
家庭との連携(保護者への文書配布、家庭訪問等)	20	6.7
声かけ	5	1.7
その他	18	6.0
特になし	32	10.7
不明	15	5.0
アンケート	22	7.4
カウンセラー等専門職による対応(詳細不明。カウンセリング、相談、面談を行ったものを除く)	15	5.0
分類不可	22	7.4

有効回答数 : 299 (複数回答)

## 2-1-7. 在校生の保護者への情報の伝達

「在校生の保護者を対象とした事件・事故災害に関する説明会」を開催したと回答のあった割合は 42.1%で、そのうち、翌日までに実施された割合は 25.2%であった。「保護者説明会などを開催する前に教職員や学校関係者間における情報共有は十分であったか」という設問では、「とても思う」と回答した割合が 92.2%、「少し思う」と回答した割合が 7.2%であった。一方、「被害者本人、その家族・遺族からの理解を十分に得て開催しましたか」という設問に対しては、「とても思う」と回答した割合が 76.4%、「少し思う」と回答した割合が 17.8%であった。

4   17	在校生の保護者を対象とした事件・事故災害に関する説明会は開催されましたか？	はい	いいえ	合計
		175	241	416
		42.1	57.9	100

上段：件数 下段：割合(%)

以下、4-17 「はい」の場合

4   17	在校生の保護者を対象とした説明会はいつ実施されましたか？ 「はい」の場合	24時間以内	48時間以内	1週間以内	1か月以内	6か月以内	合計
		12	30	81	38	6	167
		7.2	18.0	48.5	22.8	3.6	100

上段：件数 下段：割合(%)

## 1 次調査

4   17	保護者説明会等を開催する前に、教職員や学校関係者間における事件・事故災害に関する情報共有は十分に行われましたか？	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
		154	12	1	0	167
		92.2	7.2	0.6	0.0	100

上段：件数 下段：割合(%)

4   17	被害者本人、その家族・遺族からの理解を十分に得て開催しましたか？	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
		120	28	6	3	157
		76.4	17.8	3.8	1.9	100

上段：件数 下段：割合(%)

### 2-1-8. マスコミへの情報の伝達

「マスコミ等の取材に対する当該の学校側の窓口は一元化され、効果的に機能しましたか」という設問に対しては、「とても思う」と回答した割合が79.6%、「少し思う」と回答した割合が16.5%であった。また「児童生徒に対するマスコミ等の取材に対して、何らかの対応をとった」割合は56.1%であった。

4   18	事件・事故災害に関するマスコミ等の取材に対する当該の学校側の窓口は一元化され、効果的に機能しましたか？	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
		284	59	3	11	357
		79.6	16.5	0.8	3.1	100

上段：件数 下段：割合(%)

4   19	事件・事故災害に関する児童生徒に対するマスコミ等の取材に対して、何らかの対応をとりましたか？	はい	いいえ	合計
		201	157	358
		56.1	43.9	100

上段：件数 下段：割合(%)

「事件・事故災害に関するマスコミ等の取材への対応について苦勞した点はありませんか。できるだけ具体的な内容を回答してください。」という自由記述形式の設問で、苦勞した点があるか否かについて集計を行った結果、苦勞した点があったとの回答は262件中58件(22.1%)であった。

4   20	事件・事故災害に関するマスコミ等の取材への対応について苦勞した点はありませんか。				
	苦勞した点がある	特になし	取材・対応なし	不明	合計
	58	107	85	12	262
	22.1	40.8	32.4	4.6	100

上段：件数 下段：割合(%)

なお、主な苦勞した点としては以下の内容が記載されていた。

- マスコミのマナーをわきまえない取材があった
- 事件事故対応に追われる中、体制が整っていない中で数多い取材を受けた
- 児童生徒に対して取材されることがあった
- 事件性や、学校の責任を追及された
- 記者会見を設定すること

## 1 次調査

### 2-2. 検証委員会

#### 2-2-1. 検証(調査)委員会設置の有無

検証委員会を「設置した」との回答は、403 件中 78 件(19.4%)であった。

5	事件・事故災害の原因究明のための検証（調査） 委員会を設置されましたか？	はい	いいえ	合計
1		78	325	403
1		19.4	80.6	100

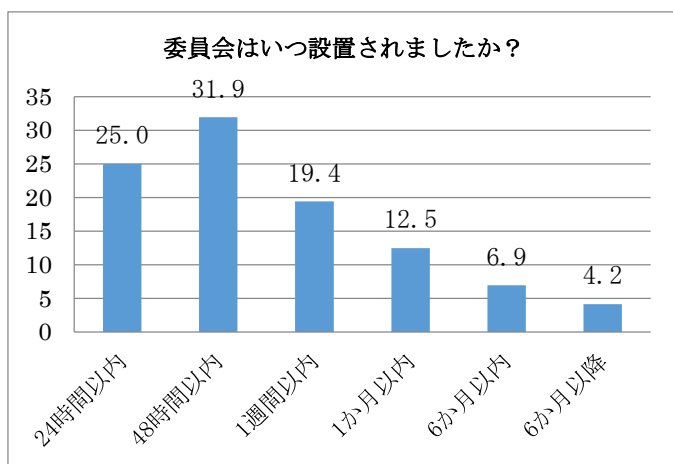
上段：件数 下段：割合(%)

#### 2-2-2. 検証(調査)委員会設置の時期

検証(調査)委員会の設置の時期では、76.3%が1週間以内に設置されていた。

5	委員会はいつ設置されましたか？	24時間以内	48時間以内	1週間以内	1か月以内	6か月以内	6か月以降	合計
1		18	23	14	9	5	3	72
2		25.0	31.9	19.4	12.5	6.9	4.2	100

上段：件数 下段：割合(%)



#### 2-2-3. 検証(調査)委員会設置の事務局

検証委員会の設置にあたって、当該学校が事務局を担当した割合は66.7%と最も多く、次いで、学校設置者が51.3%であった。

5	検証(調査)委員会の事務局はどの組織が 担当されましたか？(複数回答可)	学校設置 者(教育 委員会 等)	当該学校	首長の直 轄組織 ・部局	その他 外部の 第三者
1		40	52	4	5
3		51.3	66.7	5.1	6.4

上段：件数 下段：割合(%)



## 2-2-4. 検証(調査)委員会の委員

検証委員会において、当該学校職員が委員となった割合が 76.9%と最も多く、次いで、学校設置者が 62.8%、外部有識者が 26.9%であった。委員の選定方法では、学校設置者の推薦によるものが 64.1%で最も多かった。

5 1 4	検証(調査)委員会はどのようなメンバーで構成されましたか？(複数回答可)	学校設置者	当該学校職員	当該学校保護者(PTA等)	当該遺族・家族	外部有識者
		49 62.8	60 76.9	11 14.1	7 9.0	21 26.9

外部有識者内訳 (21件中)	弁護士	医者	大学教員	その他
	11 14.1	17 21.8	5 6.4	14 17.9

上段：件数 下段：割合(%)

5 1 5	検証(調査)委員会の委員はどのようにして選定されましたか？(複数回答可)	学校設置者推薦	遺族推薦	首長推薦	その他
		50 64.1	3 3.8	6 7.7	23 29.5

上段：件数 下段：割合(%)

## 2-2-5. その他検証(調査)委員会の活動

検証委員会において、被災した児童生徒等の遺族・家族から事故の内容や調査方法に対する要望・意見等を聴取した割合は 84.3%であったものの、被災した児童生徒等の遺族・家族が検証(調査)委員会の活動に積極的に参加した割合は 52.1%であった。また審議経過をマスコミに公表した割合は 20.0%であった。

		はい	いいえ	合計
5 1 6	検証(調査)委員会では、被災した児童生徒等の遺族・家族から事故の内容や調査方法に対する要望・意見等を聴取しましたか？	59 84.3	11 15.7	70 100
5 1 7	被災した児童生徒等の遺族・家族は検証(調査)委員会の活動に積極的に参加しましたか？	37 52.1	34 47.9	71 100
5 1 8	検証(調査)委員会における審議経過はマスコミに公表されましたか？	14 20.0	56 80.0	70 100

上段：件数 下段：割合(%)

## 1 次調査

### 2-2-6. 検証委員会を設置しなかった場合の検証方法

「検証(調査)委員会を設置しなかった場合、どのような方法で事件・事故の検証を行ったか、できるだけ具体的な内容を回答してください。」との設問では、275 件の回答があった。その記述内容を分類した結果、「学校関係者(教職員)による検証」が行われたものが 194 件と最も多かった(この項目では、その記述内容から「学校」か「学校設置者」の区別が明記されていないものが含まれている)。また「医者(医師)の診断結果や警察による現場検証で十分である」や「持病があった」等の理由により検証が行われなかったとの回答があった。警察による現場検証が行われたことや医師・医療機関が診断したことにより検証(調査)委員会を設置しなかった件数は、それぞれ 33 件と 22 件であった。

	5-1で「いいえ」の場合、どのような方法で事件・事故の検証を行ったか、できるだけ具体的な内容を回答してください。		
	検証を行った機関(複数回答あり)	件数	割合(%)
	学校関係者(設置者、教職員等)	194	70.5
	警察	33	12.0
5	医者・医療機関	22	8.0
1	消防	2	0.7
1	交通会社等	2	0.7
	その他	3	1.1
	検証は行われなかった	39	14.2
	分類不可	6	2.2
	不明	14	5.1
	有効回答	275	

## 2-3 検証終了後

### 2-3-1. 検証報告の公開について

検証（調査）委員会を設置したと回答のあった78件のうち、検証結果を公開したのは39件であった。公開の範囲については遺族・家族(31件)や学校関係者(30件)が多くなっていた。

6 1 1	当該の事件・事故災害に関わる検証結果（報告書）は公開されましたか？	はい	いいえ
		39	34
		53.4	46.6

上段：件数 下段：割合(%)

「はい」の場合				
検証結果（報告書）の公開対象ほどの範囲までですか？（複数回等可） 有効回答39件中	遺族・家族	学校関係者	マスコミ	その他
	31	30	9	9
	79.5	76.9	23.1	23.1

上段：件数 下段：割合(%)

### 2-3-2. 再発防止策

「事件・事故検証結果(報告書)の中で、再発防止策として挙げられた内容の特徴について、具体的に回答してください」という自由記述形式の設問において、主な再発防止策として以下の内容が記載されていた。

- 健康観察の徹底 53 件
- 授業・部活動・校外活動の見直し（練習・メニュー・時間・時期・競技廃止・精査）  
36 件
- 危機管理マニュアル等、ガイドラインやルールの徹底・改善・再確認 35 件
- 施設設備改修等（事故現場の改修工事・用具等の修理・購入等） 49 件
- 施設設備管理体制・指導体制の見直し（見回り強化、立入禁止区域の設定等） 32 件
- AED の使用体制の強化（増設・点検・訓練） 33 件

## 1 次調査

### 2-3-3. 関係者への対応

「関係者への対応が速やかにかつ適切に行われたか」という設問では、「とても思う」という回答割合が、「遺族・家族」に対しては 90.6%、「在校生」には 79.3%、「マスコミ」には 67.8%であった。「遺族・家族と当該の学校及び学校設置者との関係は良好ですか」という設問については、74.7%が「とても思う」と回答していた。一方、「あまり思わない」と「全く思わない」との回答が計 8.5%あった。

		1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
6 1 3	被災した児童生徒の遺族・家族等への対応は速やかにかつ適切に行われたと思われませんか？	376	31	5	3	415
		90.6	7.5	1.2	0.7	100
	在校生への対応は速やかにかつ適切に行われたと思われませんか？	315	68	9	5	397
		79.3	17.1	2.3	1.3	100
	マスコミへの対応は速やかにかつ適切に行われたと思われませんか？	211	61	18	21	311
		67.8	19.6	5.8	6.8	100
6 1 4	現在、遺族・家族と当該の学校及び学校設置者との関係は良好ですか？	290	65	26	7	388
		74.7	16.8	6.7	1.8	100

上段：件数 下段：割合(%)

### 2-3-4. 事後対応における課題

「当該事件・事故災害への対応後、新たに明らかになった事後対応における課題や当該の事後対応において苦慮されたことがあれば、具体的に回答してください。」という自由記述の設問では、無回答や不明と記入した回答を除き、229 件の回答があった。回答内容について以下の 7 項目に分類した結果、「特になし」という回答が最も多く 136 件であったが、「当該生徒との関係・フォロー」が 16 件、「被害者家族との関係」が 13 件と課題があげられた。記述内容については別添 4 を参照されたい。

分類	件数	割合(%)
特になし	136	59.4
当該生徒との関係・フォロー	16	7.0
被害者家族との関係	13	5.7
マスコミの対応	4	1.7
教員への対応	2	0.9
補償・金銭面	10	4.4
その他	48	21.0
合計	229	100

### 3. 当該学校園における安全対策

事件・事故災害発生時と現在の状況を比較するために、当該の事件・事故災害の発生前及び現在の「学校安全委員会及び地域学校安全委員会等の設置状況」、「安全点検の実施状況」、「危機管理マニュアルの活用状況」等について回答を求めた。

#### 3-1. 事件・事故災害発生前の状況

「2-1 学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能していたか」について、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合は計 79.1%であった。他方、「2-2 地域住民や関係機関との連携を図るため連携組織（地域学校安全委員会等）が設置され、機能していたか」について、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合は計 50.4%であった。「2-3 学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されていたか」について、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合は計 67.0%であった。

「2-4 毎学期 1 回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていたか」について、「とても思う」と回答した割合は 78.0%、「2-5 安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていたか」について、「とても思う」と回答した割合が 74.5%であった。一方、「2-6 安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされていたか」について、「とても思う」と回答した割合は 59.1%、「2-7 事件・事故災害の予防を目的とした安全教育を実施する際、学校園内で過去に発生した事件・事故災害データを活用していたか」について「とても思う」と回答した割合は 36.9%であった。

「2-8 危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれていたか」について、「とても思う」と回答した割合は 61.8%であったが、「2-9 危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されていたか」については、「とても思う」と回答した割合は 38.0%、「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合は計 29.4%であった。「2-10 危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されていたか」について「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合は計 12.3%、「2-11 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていたか」について「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合は計 14.2%、「2-12 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていたか」について、「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合は 30.4%であった。

## 1 次調査

		1. とても 思う	2. 少し思 う	3. あまり 思わない	4. 全く思 わない	合計
2 1 1	学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能していたか。	167	159	56	30	412
		40.5	38.6	13.6	7.3	100
2 1 2	地域住民や関係機関との連携を図るための連携組織(地域学校安全委員会等)が設置され、機能していたか。	81	122	131	68	402
		20.1	30.3	32.6	16.9	100
2 1 3	学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されていたか。	123	148	99	34	404
		30.4	36.6	24.5	8.4	100
2 1 4	毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていたか。	333	69	22	3	427
		78.0	16.2	5.2	0.7	100
2 1 5	安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていたか。	315	85	21	2	423
		74.5	20.1	5.0	0.5	100
2 1 6	安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされていたか。	247	137	31	3	418
		59.1	32.8	7.4	0.7	100
2 1 7	事件・事故災害の予防を目的とした安全教育を実施する際、学校園内で過去に発生した事件・事故災害データを活用していたか。	150	164	82	10	406
		36.9	40.4	20.2	2.5	100
2 1 8	危機等発生時対処要領(以下、「危機管理マニュアル」)には、事件・事故災害発生後の対応が含まれていたか。	256	107	33	18	414
		61.8	25.8	8.0	4.3	100
2 1 9	危機管理マニュアルに「事故対応や事故の検証方法」について明確に規定されていたか。	155	133	91	29	408
		38.0	32.6	22.3	7.1	100
2 1 10	危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されていたか。	235	124	35	15	409
		57.5	30.3	8.6	3.7	100
2 1 11	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていたか。	189	142	55	0	386
		49.0	36.8	14.2	0.0	100
2 1 12	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていたか。	142	139	97	26	404
		35.1	34.4	24.0	6.4	100

上段：件数 下段：割合(%)

### 3-2. 現在の状況

「7-1 学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能しているか」について、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合は 91.1%であった。他方、「7-2 地域住民や関係機関との連携を図るため連携組織（地域学校安全委員会等）が設置され、機能しているか」について、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合は計 63.3%であった。「7-3 学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されているか」について、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合は計 85.6%であった。

「7-4 毎学期 1 回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されているか」について、「とても思う」と回答した割合が 85.2%、「7-5 安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われているか」についても、「とても思う」と回答した割合が 82.8%であった。一方、「7-6 安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされているか」について、「とても思う」と回答した割合は 76.6%、「7-7 事件・事故災害の予防を目的とした安全教育を実施する際、学校園内で過去に発生した事件・事故災害データを活用しているか」について、「とても思う」と回答した割合は 58.0%であった。

「7-8 危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれているか」について、「とても思う」と回答した割合は 83.5%であったが、「7-9 危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されているか」について、「とても思う」と回答した割合は 53.4%、「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合は計 15.8%であった。「7-10 危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されているか」について「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合は計 3.6%、「7-11 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されているか」について、「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合は計 9.3%、「7-12 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われているか」について、「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した割合が計 14.0%であった。「7-13 上記の取組等により、当該学校園における同様の事件・事故の再発防止ができているか」について、「とても思う」と「少し思う」と回答した割合は 98.0%であった。

## 1 次調査

		1. とても 思う	2. 少し思 う	3. あまり 思わない	4. 全く思 わない	合計
7 1 1	学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能しているか。	294	133	25	17	469
		62.7	28.4	5.3	3.6	100
7 1 2	地域住民や関係機関との連携を図るため連携組織（地域学校安全委員会等）が設置され、機能しているか。	147	142	106	62	457
		32.2	31.1	23.2	13.6	100
7 1 3	学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されているか。	231	163	44	22	460
		50.2	35.4	9.6	4.8	100
7 1 4	毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されているか。	403	61	8	1	473
		85.2	12.9	1.7	0.2	100
7 1 5	安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われているか。	389	78	3	0	470
		82.8	16.6	0.6	0.0	100
7 1 6	安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされているか。	360	93	15	2	470
		76.6	19.8	3.2	0.4	100
7 1 7	事件・事故災害の予防を目的とした安全教育を実施する際、学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用しているか。	271	148	45	3	467
		58.0	31.7	9.6	0.6	100
7 1 8	危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれているか。	395	61	13	4	473
		83.5	12.9	2.8	0.8	100
7 1 9	危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されているか。	251	145	60	14	470
		53.4	30.9	12.8	3.0	100
7 1 10	危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されているか。	361	93	14	3	471
		76.6	19.7	3.0	0.6	100
7 1 11	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されているか。	312	113	34	10	469
		66.5	24.1	7.2	2.1	100
7 1 12	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われているか。	229	171	54	11	465
		49.2	36.8	11.6	2.4	100
7 1 13	上記の取組等により、当該学校園における同様の事件・事故の再発防止ができていますか。	331	126	5	4	466
		71.0	27.0	1.1	0.9	100

上段：件数 下段：割合(%)

### 3-3. 事件・事故災害発生前と現在の状況の比較

事件・事故災害発生前と現在の状況について比較するために 12 項目の質問肢を設定し、それぞれの質問に対して「とても思う」を 3 点、「少し思う」を 2 点、「あまり思わない」を 1 点、「全く思わない」を 0 点として得点化し、集計を行った。3 点が最大となり、得点が高いほど状況を高く評価していると考えられる。それぞれの質問への回答状況について、「対応のある t 検定」を用いて、事件・事故災害発生前と現在の状況を統計学的に比較した。その結果、全ての項目において統計学的に有意な差が観察され、事件・事故災害発生前に比べ現在の状況が改善していると評価している傾向が示された。項目別にみていくと「3 活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されている」が 0.408 点、「7 学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用している」が 0.394 点、「1 学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能している」が 0.374 点上昇しており、改善状況が他の項目と比べて高くなっていた。



## 事件・事故災害発生前と現在の状況の比較

質問項目	①事件・事故災害発生前の状況	②現在の状況	対応サンプルの差(②-①)	
	平均値	平均値	平均値	標準偏差
1 学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能している	2.181	2.555	0.374	0.712 ***
2 地域住民や関係機関との連携を図るため連携組織（地域委員会等）が設置され、機能している	1.592	1.858	0.266	0.799 ***
3 活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されている	1.946	2.354	0.408	0.818 ***
4 毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されている	2.737	2.833	0.096	0.435 ***
5 安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われている	2.714	2.827	0.113	0.438 ***
6 安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされている	2.547	2.776	0.229	0.570 ***
7 学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用している	2.153	2.547	0.394	0.735 ***
8 危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれている	2.535	2.802	0.266	0.668 ***
9 危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されている	2.085	2.377	0.292	0.806 ***
10 危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されている	2.516	2.748	0.232	0.571 ***
11 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されている	2.354	2.629	0.275	0.636 ***
12 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われている	2.099	2.405	0.306	0.701 ***

n=353

\*\*\*は統計的な有意水準1%(p&lt;.01)を意味する。

## 1 次調査

### 4. 当該学校園における緊急対応訓練の実施状況

事件・事故災害発生時と現在の状況を比較するために、当該の事件・事故災害が発生した前年度及び現在の危険対応訓練及び研修の実施状況について調査を行った。

#### 4-1. 児童生徒・教職員対象の緊急対応訓練の実施状況

地震避難訓練及びその他の訓練を実施している学校園の割合が大幅に増加していた。保護者や住民が参加した学校園の割合も増えていた。

＜児童生徒・教職員対象の訓練＞ 具体的な危機対応訓練等の実施状況<sup>4</sup>

児童生徒・教職員対象の訓練		事件・事故災害発生前年度			現在		
		有効回答数 ①	実施・参加数 ②	割合 (②/①)	有効回答数 ①	実施・参加数 ②	割合 (②/①)
実施訓練の	A 不審者対応訓練	415	139	33.49%	473	165	34.88%
	地震避難訓練	415	293	70.60%	473	416	87.95%
	火災避難訓練	415	399	96.14%	473	453	95.77%
	その他の訓練	415	88	21.20%	473	167	35.31%
の参加者へ	B 保護者PTA	318	37	11.64%	356	67	18.82%
	地域住民	318	17	5.35%	356	50	14.04%
	警察	318	101	31.76%	356	127	35.67%
	消防	318	300	94.34%	356	319	89.61%

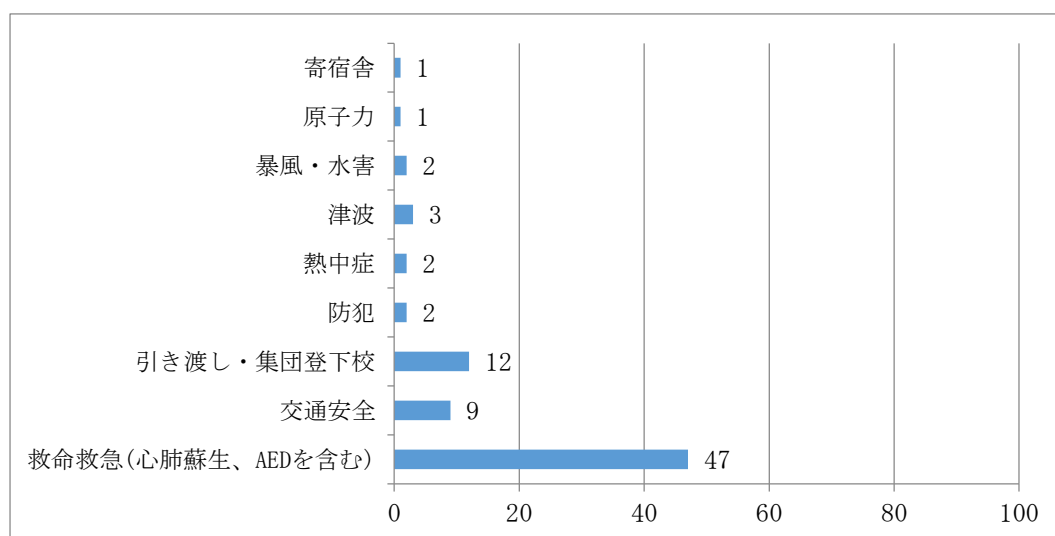
児童生徒・教職員対象の訓練		事件・事故災害発生前年度			現在		
		有効回答数	平均	標準 偏差	有効回答数	平均	標準 偏差
の C 実施一 回年 数間	不審者(回数)	139	1.04	0.24	166	1.10	0.41
	地震(回数)	291	1.35	0.93	411	1.45	1.18
	火災(回数)	397	1.29	0.74	456	1.31	0.76
	その他(回数)	78	1.14	0.48	167	1.41	1.10
D	1回当たりの平均訓練時間(時間)	393	1.03	0.40	436	1.06	0.41

<sup>4</sup> 「A 訓練の実施」は各訓練を実施している学校園の割合、「B 訓練への参加者」は訓練の種類を問わず、訓練への参加者の割合、「C 1年間の実施回数」は、Aで各訓練を実施していると回答があったサンプルのうち、実施回数の回答があったサンプルから平均値、「D 1回あたりの平均訓練時間(時間)」は訓練の種類を問わず平均訓練時間の平均値を算出した。

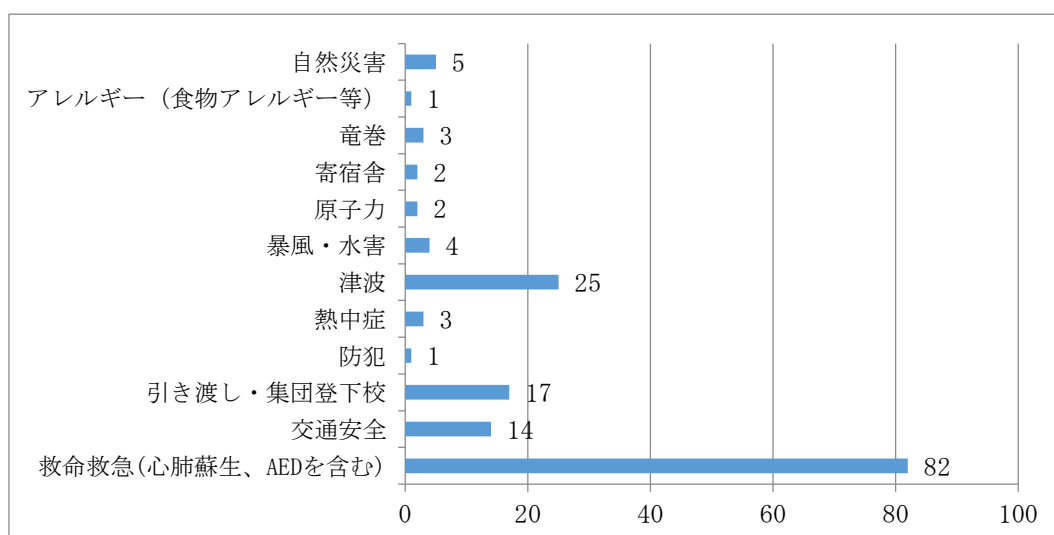
その他の訓練として記述欄に記載があった内容について分類した結果、心肺蘇生・AEDを含む救命救急訓練を実施する学校園の割合が大幅に増加していた。また、津波対応訓練を実施する学校園の割合も増加していた。

○その他訓練の内訳(児童生徒・教職員対象)

(件数・複数回答あり)



事件・事故災害発生前年度



現在

## 1 次調査

### 4-2. 教職員対象の緊急対応研修の実施状況

4-1 の児童生徒・教職員を対象とした訓練と同様に、地震避難訓練及びその他の訓練を実施している学校園の割合が大幅に増加していた。一方、不審者対応訓練を実施している学校園の割合が減少していた。

＜教職員対象の研修＞ 具体的な危機対応訓練等の実施状況<sup>5</sup>

教職員対象の研修		事件・事故災害発生前年度			現在		
		有効回答数 ①	実施・参加数 ②	割合 (②/①)	有効回答数 ①	実施・参加数 ②	割合 (②/①)
A 実施訓練の	不審者対応訓練	349	149	<b>42.69%</b>	423	165	<b>39.01%</b>
	地震避難訓練	349	171	<b>49.00%</b>	423	260	<b>61.47%</b>
	火災避難訓練	349	239	<b>68.48%</b>	423	282	<b>66.67%</b>
	その他の訓練	349	149	<b>42.69%</b>	423	264	<b>62.41%</b>
B 研修への参加者	校長	344	332	<b>96.51%</b>	420	397	<b>94.52%</b>
	教頭・副校長	344	334	<b>97.09%</b>	420	402	<b>95.71%</b>
	安全担当教諭	344	325	<b>94.48%</b>	420	396	<b>94.29%</b>
	養護教諭	344	329	<b>95.64%</b>	420	397	<b>94.52%</b>
	その他教諭	344	330	<b>95.93%</b>	420	394	<b>93.81%</b>
	職員	344	277	<b>80.52%</b>	420	342	<b>81.43%</b>
	保護者PTA	344	22	<b>6.40%</b>	420	42	<b>10.00%</b>
	地域住民	344	6	<b>1.74%</b>	420	19	<b>4.52%</b>

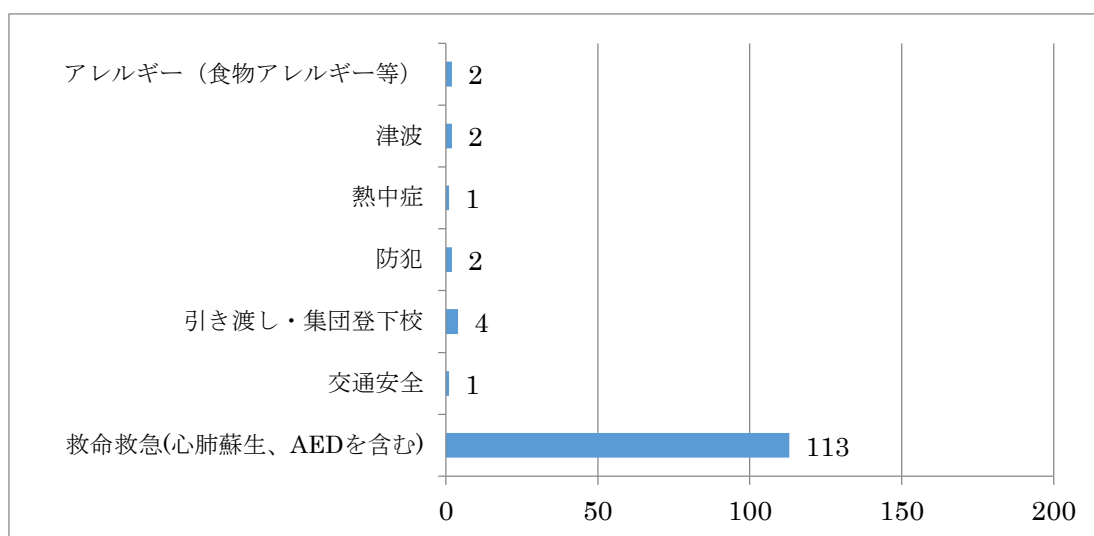
教職員対象の研修		事件・事故災害発生前年度			現在		
		有効回答数	平均	標準 偏差	有効回答数	平均	標準 偏差
C 実施一回年数間	不審者(回数)	143	<b>1.03</b>	0.22	174	<b>1.02</b>	0.38
	地震(回数)	173	<b>1.23</b>	0.64	257	<b>1.31</b>	0.84
	火災(回数)	234	<b>1.24</b>	0.68	281	<b>1.24</b>	0.63
	その他(回数)	135	<b>1.10</b>	0.38	252	<b>1.34</b>	0.96
D	1回当たりの平均訓練時間(時間)	326	<b>1.18</b>	0.63	388	<b>1.23</b>	0.72

<sup>5</sup> 「A 訓練の実施」は各訓練を実施している学校園の割合、「B 訓練への参加者」は訓練の種類は問わず、訓練への参加者の割合、「C 1年間の実施回数」は、Aで各訓練を実施していると回答があったケースのうち、実施回数の回答があったケースの平均値、「D 1回当たりの平均訓練時間(時間)」は訓練の種類を問わず平均訓練時間の平均値を算出した。また、Dの現在で24及び30時間と回答があったケースについては、回答間違いか連日に渡る訓練を実施しているか判断が付かないが、極端に中央値・最頻値から外れているため異常値として除外した。

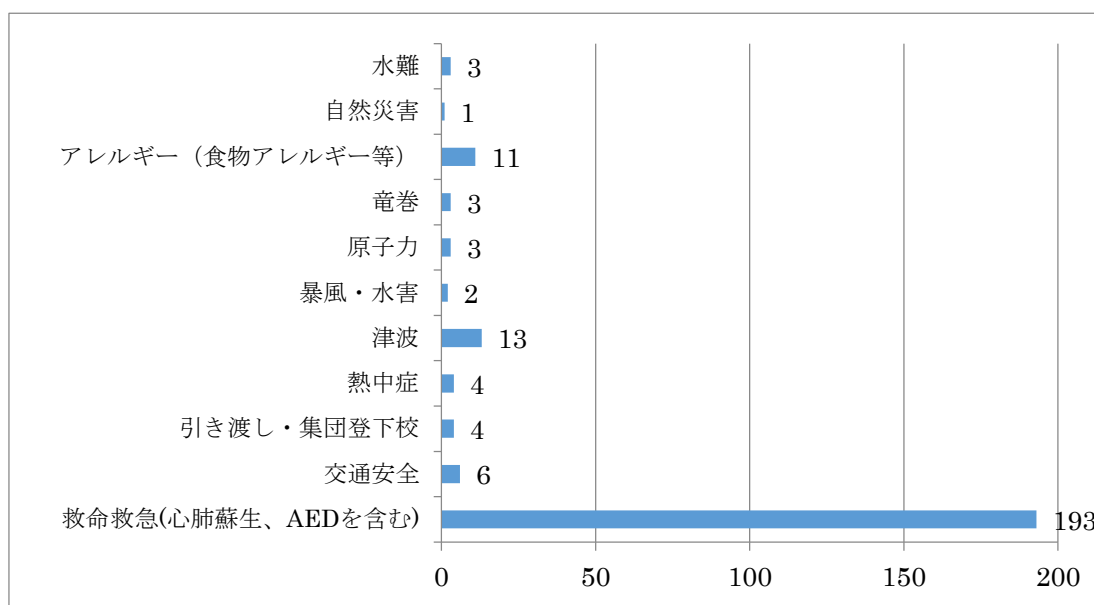
4-1の児童生徒・教職員を対象とした訓練と同様に、その他の訓練として記述欄に記載があった内容を分類した結果、心肺蘇生・AEDを含む救命救急訓練を実施している学校園が大幅に増加していた。また、津波やアレルギー対応訓練を実施している学校園も増えていた。

○その他訓練の内訳(児童生徒・教職員対象)

(件数・複数回答あり)



事件・事故災害発生前年度



現在



2 次調査





## 1. ヒアリング調査概要

1次調査に加え、より具体的に学校事故対応の在り方について検討するため、学校及びその設置者、事故遺族・家族等に対しヒアリング調査を実施した。

1次調査で、「ヒアリングに協力できる」として連絡先の提示のあった事例65件から、死亡障害種別、校種別、地域別、事故発生状況別を考慮のうえ、ヒアリング調査事例として14件を選定し、公立の場合は学校設置者を通じて、私立の場合は学校を通じてヒアリング調査への協力を依頼した。ヒアリング調査への協力の了解が得られた事例10件のうち、9件については調査員との対面によるヒアリング調査を行い、1件は質問票を用いた調査を実施した。ただし、この調査票による調査事例については、調査票の全項目の質問に対して「特になし」との回答で、今回のヒアリング調査に関わる有効なデータを得ることはできなかった。そのため、今回の報告書では事例1から事例9のみを分析することとした。

ヒアリング調査の対象は、死亡が8件、障害が1件であった。校種別にみると、小学校1件、中学校4件、高等学校4件で、公立学校が7件、私立学校が2件であった。学校行事中の事故が1件で、残りは課外指導(部活動)中の事故であった。2件のみ被害者家族にヒアリングを実施することができた。このうち事例1については、学校設置者、学校、被害者家族の3者全員にヒアリング調査を実施することができた。

事例	死亡・障害	事故の分類	公立・私立	被災学校種	発生場面	場合別	2次ヒアリング対象者可否			検証委員会設置
							学校設置者	学校	被害者家族	
事例1	死亡	負傷	公立	高等学校	課外指導	柔道	○	○	○	○
事例2	死亡	熱中症	公立	高等学校	課外指導	ラグビー	○		-	-
事例3	死亡	突然死	私立	小学校	学校行事	卒業旅行	-	○	-	-
事例4	死亡	突然死	公立	中学校	課外指導	ソフトテニス	○	-	-	-
事例5	障害	突然倒れる	私立	高等学校	課外指導	ラグビー	-	-	○	-
事例6	死亡	突然死	公立	中学校	課外指導	サッカー	○		-	-
事例7	死亡	突然死	公立	高等学校	課外指導	ソフトテニス	○		-	-
事例8	死亡	肺出血	公立	中学校	課外指導	部活	○	-	-	-
事例9	死亡	突然死	公立	中学校	課外指導	サッカー	○		-	-
事例10	死亡	負傷	公立	高等学校	課外指導	プール飛び込み	-	質問票送付方式	-	○

## 2 次調査

### 2. ヒアリング結果

#### 2-1. 概要

ヒアリングを実施した事例 9 件(総ヒアリング件数 11 件)を通じて得られた情報や知見について記述する。別添 6 の調査票の項目に基づいてヒアリングを行ったが、事故直後に対応した関係者へのヒアリングができなかったり報告書に残っていない場合、事実が不明、当時の記憶が曖昧である等の理由で詳細な情報を聞くことができなかった事例もあった。

#### 1. 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期：概ね発生後 1 週間以内)において課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったこと

##### 被害者の遺族・家族との関わり方

事故直後に、保護者に連絡し、学校関係者が当日中に事故の経緯を説明している事例が多かった。しかし、遺族の意向を尊重し、遺族が聞ける状態になるのを待って説明した事例もある(事例 9)。また、確実な状況を確認することができなかった事例もあるが、事故直後に搬送先の病院や自宅等で校長が何らかの形で謝罪を伝えていた事例は 5 件であった(事例 1、2、5、6、8)。

##### 在校生との関わり方

教育委員会もしくは学校からヒアリングすることができた事例 8 件中 7 件では、カウンセラーが児童生徒の心のケアをしていた(事例 1、2、3、6、7、8、9)。また 1 件は様子を見届けていた結果、カウンセラーに依頼するに至らなかった(事例 4)。ケア方法については、カウンセリングに加え、アンケートの実施(事例 1)や、カウンセラーによる観察(事例 9)が行われていた。

事故発生時に被害生徒と直接関わった生徒がいた事例では、当該の生徒及びその保護者と面談を行い、ケアを行った(事例 9)。

##### 教職員等との関わり方

事故に関係する教職員等(部活動顧問等)が精神的なショックを受けたと報告があった事例がいくつかあった。また、教職員に対してスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施した学校は 4 件であった(事例 1、6、8、9)。

##### その他

マスク対応については、学校と教育委員会で協力して行っている事例が多かった。マスク対応の窓口を教育委員会と事前に調整していたが、学校に直接連絡が入ったケースがあった(事例 8)。

2. 中期段階(混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階 概ね発生後1週間以降)において課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったこと

#### 検証(調査)委員会の設置

検証(調査)委員会を設置した事例は1件(事例1)、当該事故独自の検証委員会は設置せずに、既設の第三者委員会で検証した事例が1件(事例6)であった。全ての死亡事例において、検証委員会設置の有無にかかわらず、事故後に再発防止に向けた取組を行っている。

#### 被害生徒復学時のケア

学校側から病院の医師と復学後の体制について確認したいと要望し、教職員と医師とで話し合いが行われた(事例5)。

3. 後期段階(検証終了後)、現時点で残された課題や、今後の学校の管理下における事件・事故対応における教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったこと

#### 再発防止について

全ての死亡事例において、検証委員会設置の有無にかかわらず、再発防止に向けた取組を行っていた。

特にAEDについては、学校外での活動でも常にAEDが使用できるよう、AEDをレンタルして携帯したり、学校外の設置場所を事前に確認したりしていた。また、講習会に参加し、誰でも使用できるようにしていた。(事例3、4、6、7、8、9)

#### 被害者児童生徒の遺族・家族との関わり方

全ての死亡事例において、被害児童生徒が在籍していた学年の卒業時に、何らかの卒業に関わる対応を行っていた。6件の事例(事例1、2、3、6、7、9)では卒業証書を遺族に渡し、1件(事例4)では卒業アルバムのみ遺族に渡していた。

#### 事故対応を通じて得られた教訓

今回のヒアリングを行った事例で、挙げられた教訓は以下のとおりである。

- 事故が起きてからの対応ではなく、普段から保護者との信頼関係を築く(事例2、6、7、9)
- 事後対応として学校で何か行う時は、必ず事前に遺族に確認する(事例1、6、8、9)
- 事実を隠ぺいしない(事例1、6)
- 正確に意志疎通するため、重要な事項については文書化する(事例8、9)
- マニュアルどおりではなく、遺族の意向を優先し、誠意を持って対応する(事例8、9)

## 2 次調査

### 残された課題や提言

- ・既往症の把握が非常に大切である。私学では入学試験の際、既往症をたずねるが、マイナスになってはいけないという保護者の意識により、きちんと答えてくれているのかということが、大きな課題である。(事例 3)
- ・事故発生後、時間が経過し、危機意識が薄れてしまわないようにしていくこと。(事例 1)
- ・教職員は事故を予見し、防止することが求められているが、それを認識していない教職員もいる。教員養成の授業の中で、法規的な部分のみならず、事例を学ぶ場があってもいいと思う。(事例 1)
- ・教育委員会が事務局となり、当該事故に関する検証を行って、柔道部の顧問を集めて柔道の安全な指導について話をしているが、話を聞くだけで終わってしまうことが多い。(事例 1)
- ・役所は縦割りで事故が発生した場面等によって担当する部署が違うため、重篤な事故が起きたときにはすぐに召集される事故担当指導主事のようなポストを各課に置くと経験が共有されるので良いのではないかと思う。(事例 1)

### 被害生徒の遺族・家族からの要望

- ・卒業後も障害と付き合いがいかないといけないことから、学校と継続的にコミュニケーションを取れる仕組みがあればいいと思う。(事例 5)
- ・教職員は心配して、様々な相談にも乗り、心のケアにあたってくれたが、後で思えば専門的なケアを受けられればよかったと思う。学校からカウンセラーの派遣などの話はなかったため、情報提供などのアドバイスをしてくれるところがあればよかった。(事例 5)
- ・障害を負いながら、様々な資格をとって頑張っている人はたくさんいるので、ハローワークのように、関連する情報を提供してくれるような場所があれば良いと思う。このような場所から学校にも情報提供してくれれば、学校からも教えてくれると思うが、そういった窓口がない。保護者たちの立場で窓口を探していくのは難しい。また、今後も相談に乗ってもらえる場所があれば良いと思う。(事例 5)
- ・激しい運動を伴う部活動では、一般的な健康診断だけでなく、負荷をかけたときにどうなるのかという健康診断が必要ではないかと思った。それをもとに、本当に運動できる

体力があるのか、運動できる体なのかを判断してから入部させるようにしたら良いのではないかと思う。(事例5)

- ・ 検証委員会の設置が事故の約半年後の設置だったので、振り返ってみると、もっと早くやるべきだったのではないかと思うが、当時は四十九日が済んでもしばらくは、訳が分からず、マスコミにも知られたくない、そっとしておいてほしいと思っていた。ただ、そのときに教育委員会から、学校を通じて「事故の検証をやるべきだ。犯人探しではなく、何が原因で事故が起きたかということ、様々な分野の有識者を入れて検証することによって、今までより事故の原因がはっきりわかる。そうすると、再発防止にもつながる。」と説明してくだされれば、訳が分からない状態でも、納得して、四十九日が済んだ頃からでも始められたのではないかと思う。(事例1)
- ・ 再発防止のためには、知識の普及、啓発活動が非常に大事だと感じた。(事例1)
- ・ 風化を防ぐという観点で重要なことは、横に広く、縦に長くということだと思う。当地域で事故が起こった時に、どういう事故か、これから何をしていくか、何をしていこうとしているのかなど、この地域が取り組んでいることを、他の地域にも伝えていかないといけない。(事例1)

## 2 次調査

### 2-2.個別事例

#### 事例 1：公立・高等学校・課外指導(部活動・柔道)・死亡事故

##### 【事故の概要】

柔道部の練習中、大外刈りの技をかけられ、畳で頭部を打撲した。意識がなかったため、すぐに救急車で病院に搬送し、手術を受け、入院治療を続けていたが、意識が戻らず、約 1 ヶ月後に死亡した。事前に頭痛を訴えて複数回医療機関を受診しているが、医師から練習参加への制限はされていなかった。約半年後に第三者による検証委員会を設置した。

##### 学校（事故後に着任した校長と教頭）

##### 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)

##### 被害者の遺族・家族との関わり方

いち早く保護者にご連絡して、把握している状況をご報告し、すぐ来ていただくことが重要となる。学校にとって不利益であるとかいうことは度外視して、事実が何であったかを正確に把握し、保護者の方に包み隠さず話すことが最初に行われた。

##### 在校生との関わり方

柔道部の生徒から話を聞くということが学校としては一番難しかったと聞いている。事実確認については、事故直後に実施する必要があるが、生徒や顧問は事故があって精神的な衝撃があると思うので、事実を追求するというのは大変であったと推察する。事故後現在も引き継がれているのは、事実関係を正確に聞くこと、カウンセラーをすぐに入れてメンタル面をサポートしていくことである。事故発生翌日からスクールカウンセラーと対応について相談して、打ち合わせを行いつつ生徒の心のケアを行った。また、スクールカウンセラーから提供があったアンケートをもとに「心と身体を大切にするためのアンケート」を作成し、身近にいた生徒(部活動及びクラス)に対して調査を行った。その結果に基づき、支援の仕方についてカウンセラーに判断していただいて、スクールカウンセラーによるカウンセリングが必要な生徒を呼んで話をしたり、教員や養護教諭による面接や見守りを行ったりした。その後、期間を置いて前回と同じアンケートで調査を行い、心の変化を観察し、支援を継続した。また、教員が生徒の心のケアを出来るようにカウンセラーから提供があった事故対応の心構えが書かれた用紙を配布した。

##### 教員との関わり方

教員にも専門的な観点からのメンタルサポートを最初の段階からやっていただいていた。生徒も担当したスクールカウンセラーによるカウンセリングが実施された。

**その他**

初期の段階における管理職の役割は、様々な指示をすることだと思う。指示のあとは情報が一本化され、もし、顧問が保護者対応ができないということであれば、当然そこに管理職が入るということになるだろう。初期段階でマスコミ対応が必要になった場合、管理職、おそらく教頭が窓口になると思う。ただ、生徒への事実確認に関しては、生徒と関係のある先生方から話を聞いた方が生徒も多少なりとも緊張感もほぐれると思っている。

**後期段階(検証終了後)****部活動における事故の対応について**

事故当時、セカンドインパクト症候群（同日または短期間に 2 回以上の脳震盪（脳しんとう）を起こし、脳に異常をきたすこと。）の知識がなかったことが、今回の事故に対する痛切な反省点かと思う。現在は、柔道に限らず部活動全体で、脳震盪が起きれば、顧問の判断で強制的に部活動は休ませている。最近、当該校であったケースでは、フィールドホッケーの公式試合中に頭に瘤ができる怪我をした生徒がいたので顧問は試合に再出場させなかった（ホッケーのルールでは、同じ選手が何度でもベンチに戻ったり試合に出場したりできる）。これはセカンドインパクト症候群に関する知識が浸透してきたということだと思う。また、注意しないといけないのは、生徒からの「大丈夫」という言葉である。生徒も迷惑をかけたくないという気持ちがあるのだろうが、「大丈夫」と言って、それで顧問が安心してしまうことがある。そのため、現在本校では首より上の怪我については、本人が「大丈夫」と言っても、平日であれば養護教諭が脳震盪の有無等症状についてフィジカルアセスメント（実際に患者の身体に触れながら、症状の把握や異常の早期発見を行うこと）を行い、必要に応じて医療機関を受診し、保護者にもすぐ連絡して、現地で合流等の対応を取っている。その後、全て教頭へ報告され、報告書にまとめられ保健室で保管している。指等の捻挫で、本人が大丈夫と言って、腫れ具合等、外から見て大丈夫そうで、緊急性がなければ、帰宅後保護者の管理下で判断をしてもらっている。

**教職員の課題**

事故発生後、時間が経過し危機意識が薄れてしまわないようにしていくことが課題である。首より上の怪我は報告することになっているが、異常がなかったから安心するのではなく、「どうすればその怪我を防止することができたか」など、教員養成系大学のように裁判事例から問題がどのように発生していくか学ぶのも一案である。教職員には事故を予見し、防止することが求められているが、それを知らない教職員もいる。授業の中で、法規的な部分のみならず、事例を学ぶ場があってもいいと思う。また、教育委員会が事務局となって当該事件に関する検証を行って、柔道部の顧問を集めて柔道の安全な指導について話をしているが、そのときで終わってしまうことが多い。各学校に戻って顧問が「体育の授業の中でこうしよう」、「職員会議でこの前聞いてきた話をしよう」という段階までいっ

## 2 次調査

ていない現状があると思う。受け身ではなく、主体的に関わっていくということを意識づけるような形が必要である。

### 被害者生徒・遺族との関わり方

被害者生徒は名簿上クラスに所属し、欠席をしているという形を取った。行事予定や、例えば修学旅行に行けば、お土産を担当が持っていき、遺族の方と連絡を取った。また、月命日にはお参りもさせていただいた。卒業式では卒業証書を生徒の代わりに受け取っていただいた。現在は、年に 2 回程柔道の専門家を迎えて安全確認指導を実施しているが、遺族の方も見学をされて、その機会に管理職と話をさせていただいている。また、図書室に文庫を作っていた。

### 学校設置者（教育委員会 本事故の事後対応・再発防止に関わっている指導主事）

#### 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)

##### 教育委員会の対応

事故発生から約 1 時間 15 分後に最初に報告を受けて、学校からの聞き取りを行った。その後の状況についてはほぼ毎日報告を受けていた。また、事故が発生したこと及び安全指導の徹底を高校校長会で提示し、文書を管区内の学校関係機関に通知した。公表する準備も並行して行っていたが、初期段階では保護者の方が希望をされなかったため、報道機関への公表は控えた。

#### 中期段階(混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階)

##### 検証委員会の設置

事件から数か月後に保護者の方から、今後、同様の事故が起きないために公表してくださいと申し出があったため、教育委員会として事故を公表し、それと同時に検討委員会の設置を発表し、2 月から翌年度の 6 月まで検討委員会で検討をした。検討委員会は 1) 本事故の検証、2) 教育課程の見直し、3) 部活動の指導、4) 緊急体制の 4 部構成で行われ、委員の提案で被害者生徒のプライバシーを考慮し 2~4 のみ公開された。委員については多面的に検証するためにそれぞれの専門の方に入っていただきたいという方針を教育委員会で決定し、教育委員会で第三者の委員を選出し、事前に保護者に確認を取った。保護者は傍聴した。実地調査が実施され、検討委員による校長、教頭、顧問、学級担任、養護教諭、生徒への聞き取りが行われた。6 月に検討委員会の結果を公表し、併せて文部科学省、全日本柔道連盟、脳神経外科学会、教育委員会宛てに報告書が提出された。教育委員会に出された検討委員会からの提言については、全て実施した。また、検討委員会からは、1 年後に進捗状況の報告を義務付ける事項があったため、翌年 6 月に公表した。



### 再発防止の取り組み

頭痛を訴えて複数回程通院していたことをクラス担任は把握していたが、柔道部の顧問には伝わっていなかった。家庭で起きたことを、学校が把握し、学校で起きたことを家庭に把握でしていること、また、部員同士、生徒間でも情報が共有されているということが非常に重要だということを検証の作業を通じて実感した。また、検討委員会からチェックカード、連絡表を用いて情報の共有に努めることが大事と提言がなされた。教育委員会が所管する小中高で部活動における家庭との連絡表を導入した。

また、2学期に予算を特別に組んで、柔道部を設置している中学高校に対して、柔道の専門家による巡回指導を行った。また、武道における安全指導講演会を計画し、翌1月に実施した。現在も継続して実施されている。

### 後期段階(検証終了後)

#### 被害者の遺族との関わり方

情報を全て公開することが遺族の望みだと思うので、有利・不利とは別に、公開していく姿勢が大事だと思う(今回の事件では証言が一致し情報収集上の混乱は起きていなかった。)。事実は1つしかないと思うので、事実をきちんと説明する。例えば、何か1つを隠すということは、様々な検証から新たな事実が出てきた時に、隠したことがまた1つ、ご家族やご遺族の方に不信感を抱かせることになると思うので、それがいいのか悪いのかは、その後検証していただくとして、事実はきちんと公表するべきではないかと思う。

ご遺族と良好な関係を築くには、最初の学校の対応で信頼関係を築くところがポイントだと思う。現場の校長、教頭はすぐに行動し、学校内で起きたことに対する誠実な謝罪をし、入院中にも継続的にお見舞いをされており、月命日にはお参りに行かれていた。そういう姿勢や学校の考えがご遺族に伝わったからではないかと思う。また、教育委員会が行った本事故に関連する対応についても、ご遺族に事前に全て確認を取った。

#### 組織上の体制の構築について

この事故を契機として、重篤な事故が起きた場合には、第三者委員会を設置することが当該自治体の方針として定められたが、委員選定基準については定められていない。役所は縦割りで事故が発生した場面等によって担当する部署が違うため、重篤な事故が起きたときにはすぐに召集される事故担当指導主事のようなポストを各課に置くと経験が共有されるので良いのではないかと思う。

#### 風化させない取組

毎年2月に全学校の教頭が集まる場があるが、必ず本事故に関する話を話している。また、教育センターが主催する初任者研修においても、必ず本事故に関するコマ

## 2 次調査

を設定して、事故を風化させないように話をしている。研修の中にコマがあれば、担当が代わっても記録は残っているので、伝わっていくと考えている。

### 遺族（母親）

学校等の初期段階(発生後 1 週間以内)における事故対応への評価や要望・課題、事前に行っておいた方がよかったこと

#### 事故以前の状況

事故が起こる前は、起こることを全く想定しておらず、学校の練習、柔道部の練習に対して疑問を抱いたことがないぐらい柔道事故について知らなかった。もちろん学校で、柔道部の事故があれば耳に入っているはずだが、それまでの同じ練習方法で事故はなかった。日本では、柔道事故で毎年 4 人子供が亡くなっていて、毎年 10 人ぐらい障害が残るような重い事故が起きているということが報道で出ていたらしく、新聞で読んでいた方もいたようだが、私は全く見たこともないし聞いたこともなかった。それが悔やまれるが、どこかで何十年も続いてきたことなので、大々的に知らせてくれていればという思いが一番強い。友人に自分の後悔を話すと「うちの子供はサッカーをやっているけれど、私はサッカーのことを全然知らないよ。」と言われることがあるので、親がやってきたスポーツでなければ、知識がなくてもおかしくないと思った。把握するべきところは、文科省だったのではないかと思う。早い段階で、即ち重篤な事故が起きた時点で分析をして、柔道をやっている現場に知らせてほしかった。子供のいた学校は、先生方が大変誠実な対応をしてくださった真面目な学校で、隠蔽もなかったし、何とかしようという姿勢もあったため、学校に知らせてくださり、柔道部の先生が今の状況を知っていたら、事故について注意をされたであろうし、特に頭部外傷については、「絶対先生に話せよ、何かあったら知らせろよ」ということに重点を置いていたと思う。(補足：文部科学省から平成 22 年 7 月 14 日付け 22 ス企体第 7 号「学校等の柔道における安全指導について（依頼）」において、柔道事故の防止や事故対応について適切な措置を講ずるように依頼している。)

息子は、事故前の 5 月 21 日に頭痛を訴えて受診し、5 月 24 日に「医師から異常なしと診断を受け、柔道を行ってもよいと言われた」と養護教諭に伝えた。さらに 6 月 14 日に頭部打撲で受診した際も「医師に柔道をやっても良いと言われた」と、翌日 15 日に日本スポーツ振興センターへの申請用紙を保健室に取りに行った際に話している。しかし、養護教諭から顧問にその情報が伝わっていなかった。また大きな病院に行くために、「柔道部の練習で頭を打って、頭痛が続くので病院に行くから遅刻します」という連絡はその都度していたので、担任の先生もご存じだった。ただ、担任の先生は顧問の先生に一度そのことを話されたようだが、その前にこむら返りを起こして病院に行っているため、顧問はそのことと勘違いされて、うまく伝わっていなかった。他の先生からも、柔道部の顧問に、「こういうことがあるみたいだけど大丈夫なのか」、「先生、気をつけてね」と、一言でも情報が入っていれば、顧問の対応も違ったのではないかと思う。顧問も気をつけて、子供たちにも

「頭を打ったら大変なことになるから、すぐ先生に言えよ」、「ちょっとでも具合が悪かったら病院に行けよ」、「ご両親に言うんだぞ」ということを言っていれば、子供たちも頭部外傷の怖さを知ることができた。息子が頭を打っているのは、部員で何人か見ていた子がいたらしいが、それを先生に言わなければ、大変なことになるかもしれないなど、そこに結びつけた子供はいなかった。親の私も、最初に「頭を打って何日もたつのに、頭痛がとれない」と言われたときに、これは心配だと思って、すぐ救急外来に連れて行ったが、専門の先生に見てもらおうと、安心してしまい、「様子を見てください」と言われたら、とりあえずいいのかと思ってしまった。「顧問の先生に念のために伝えておきなさいね」と本人に言うことまで思いつかなかった。事故を起こした日までに、病院へは救急外来と脳神経外科 2 回で計 3 回行っている。事故前日に脳神経外科に行ったときのことが大変重要だと思うが、診察をした先生も、その当時、コンタクトスポーツと脳震盪、頭部外傷とを結びつけて考えることができず、柔道事故のこともご存じなかった。一通りの問診を終えた後に、私が「柔道はやっていいんですか」とお聞きしたら、「神経症状があれば、脳震盪なので練習を休んだりしなければいけないけれども、頭痛だけなので。」ということで、部活動の停止を言われなかった。それから精密検査の話もされたが、「精密検査するとしたら CT ではなく MRI ですが、どうしますか。」というふうに、やりなさいではなく、どうしますかと素人の親と子供に振られたときに、そこまでやる必要があるのかと考えてしまった。自分も含め、様々な人の小さなミスが全部重なって死亡事故になってしまったという、柔道では数少ない、悪者がいない事故である。いじめやしごきが全くない、防げた事故の典型的な例だと思っている。

#### 事故当日の学校の対応

事故当日、病院に緊急搬送後手術が行われ、集中治療室で処置がすべて終わって、私たちが子供に面会して出てくるのが、とても遅くなった。午後 11 時すぎだったと思うが、ずっと校長先生と教頭先生が待っていらっしやって、対面したときに「学校で起きてしまったことは全て学校の責任です。お詫びの申し上げようもございません。」と、深々と頭を下げられた。私たちは子供の命のことで精いっぱいなので、「今謝られても」という気持ちで、そのときはどういう意味を持つかわからなかった。しかし学校の責任だということを管理職の先生が家族に示してくださるということは、とても重要なことだということが、他の学校の事例の話を聞いて、後になってよくわかった。最初から誠実な対応をしてくださったと思う。

#### 部員からの事故当時の状況の聞き取り

私たちは早い段階で、子供の事故がどのように起こったのか知りたいと伝えた。「犯人探しではなく、どういう状況で事故が起こってしまったのか詳しく知りたい。時がたってしまうと、みんなの記憶が薄れてしまうので、早い段階で教えてほしい。」と要望し、校長先

## 2 次調査

生が、「ご家族として、ご両親として当然のことです」ということで、直接聞き取りする日を設けてくださった。すでに生徒や顧問の先生から、事故当日の練習メニューから搬送されるまでのことを聞き取りしていたため、その時点で、大まかな経緯は聞いていた。まず、校長先生は部員の保護者に連絡をとったが、被害者の家族と生徒が直接話をするのは心理的に影響が大きいということで、少し難色を示された方がいたため、別の部屋で筆談をするという策を校長先生が考えた。水曜日に事故が起きて、その週の土曜日に、聞き取りが行われた。私たち家族が、「こういうことを聞きたい」という質問を書くと、別室に来ている生徒たちに先生がその質問を持っていき、分かる限りのことを書き出してもらい、見せてもらった。さらに分からないことを聞いて、また書いてもらうということを行った。それで、分かることはほぼ出尽くしたと思う。事故状況も、隠し事なく教えていただいた。

### 入院中の学校の対応

集中治療室に1週間いて、その後個室に移ってからは面会がいつでも自由になったので、私たちも常に誰か付き添っていた。午前と午後の2回、校長先生、教頭先生、担任の先生、顧問の先生がお見舞いに来てくださって、子供に声をかけてくれた。「意識がなくても本人には聞こえていますよ。」と病院の看護師や医師から聞いており、とにかく刺激したほうが良いという話だったので、どの先生も「〇〇君、頑張れよ」、「学校で待ってるからな」、「必ず戻って来いよ、また部活動を一緒にしよう」という声掛けを必死でされていた。用事がある日以外は毎日、土日もご自宅から出ていらっしゃって声をかけてくださり、それは亡くなる前日まで続いた。養護の先生がいらしていたときもあるし、教育委員会の方が3人来てくださったときもあった。だんだん状態が悪くなってきて、主治医から「もう危ないです。」と告げられても、学校の先生が来て、私の報告を無視しながら、「〇〇君、頑張れよ、先生待ってるからな」という言葉をかけてくださった。ひょっとしたら、子供が元に戻るかもしれないと最後まで希望を持つことができたのは、学校の先生方のそのような行動からなので、学校を憎むというより、先生方が来てくださった、嬉しい、ありがたいという気持ちが、入院しているときからあった。

**学校等の中期段階(発生後1週間以降)における事故対応への評価や要望・課題、事前に行っておいた方がよかったこと**

### 在籍と卒業

亡くなった後、校長先生が子供の遺骸に向かって「3年間学校に通わせてあげられなくてごめん」と涙を流された。主人が「3年間、学校に通わせてください」とお願いしたら、「分かりました。〇〇君に3年間学校に通ってもらいます」と言ってくださった。私たちも、子供がいなくなって、姿がなくなっても、卒業式をやってもらうまでは、「学校に行っているんだ。今、2年生になった、3年生になった、今は試験中だ」という気持ちでいた。学校に子供の居場所を残してくださったので、「うちの子はどこに行ってしまったの」というこ

とはなく、ちゃんとこの学校の学生でいられるんだという気持ちを持ち続けていられた。顧問の先生も、「〇〇が毎日道場に来ているからな」というふうに部員に言ってくださった。「〇〇君はすべて他の生徒と同じように扱う」ということが、校長先生から他の先生にも徹底されていたので、あらゆる場面でそういう対応がなされた。私が電話をかけて、どの先生が出られても「あっ、〇〇さんね」というふうに、すぐ分かってくださった。3年間毎年クラス替えをして、1年生のときの担任の先生のクラスに入れてもらっていた。出席番号をクラスの最後につけて、事務上無理なことはあるけれども、可能な限りは名前を入れていただいた。子供が入りたくて入った学校なので、校長先生も卒業証書を出してあげたいということはずっと気にかけていらっしゃったようで、通番を打たなければ出せるということに気がつかれたときに、卒業証書を出しますと教えていただいた。アルバムも、1年生の入学式の写真を、背景だけ変えると、他の子供たちと違和感なく並ぶので、3年の担任の先生が持ってきてくださったクラスに、他の子供たちと一緒に並べてもらった。本当にいるかのように扱ってくださったというのは、普通はないことではないかと思う。ほかの方の話を知ると、自分の子供が事故で亡くなった後、学校が密に連絡をとってくることはあまりないようだ。「うちの子、学校ではどうなったんですか」と聞いたら「退学です」と言われた方もいると聞いたことがある。学校をやめたくてやめたわけではなく、通いたいのに命がなくなってしまった、と同時に子供のいる場所もなくなると、親も、毎日をどう考えて過ごしていいのかわからず、本当に途方に暮れてしまうだろう。時間割や年中行事表をもらって、「今日は何があるのね、休みの日だね、何々に行く日だね」と思えるのは、残された者にとって全然違うと思う。ケースによる違いはあるだろうが、事故・事件の被害者は、とにかく最後まで在籍させてあげることが大事なのではないかと思う。

### 検証(調査)委員会の運営等に関する課題や教訓・改善点、事前に行っておいた方がよかったこと

#### 検証委員会立ち上げの経緯

設置した時期が事故の約半年後の2月だったので、振り返ってみるともっと早くやるべきだったのではないかと思う。それは今だから言えることで、当時、亡くなって、四十九日が済んでもしばらくは、訳がわからず、とにかくマスコミにも知られたくない、そっとしておいてほしいと思っていた。マスコミに対する悪いイメージもあるし、知られたら嫌だなということで、静かにしており、身の回りのことしかやっていた。ただ、そのときに教育委員会から、学校を通じて「事故の検証をやったほうがいい。やるべきだ。犯人探しではなく、何が原因で事故が起きたかということ、専門の先生方、有識者の、いろいろな分野の方を入れて検証することによって、今までより事故の原因がはっきり分かる。そうすると、再発防止にもつながる。」ということを引きちんと説明していただければ、私たちも、訳が分からない状態でも、納得して、四十九日が済んだ頃からでも始められたのではないかなと思う。当時、そういう情報がなかったもので、早くやらなければとか、そう

## 2 次調査

いうことをするべきものだということが何も知識としてなかった。検証委員会があるということを知ってから実際の立ち上げまでは早かったと思う。

### 検証委員会へ傍聴

検証委員会の中で、事故の分析と並行して、中学校、高校の柔道部の部活動、柔道の授業の仕方、緊急時の対応について、それまで学校にあったマニュアルの見直しも進めていた。前半で指導方法を見直し、後半で事故の検証をしていくという形だった。自分の子供のことから、私も傍聴したいということを伝えると、それも聞き入れてくださって、4回全て、一通り聞かせていただいている。

### 事故の発生前と発後における学校等の安全に関する取組状況に対する評価や要望・課題

#### 再発防止の取組

事故が起こった時や、中学校の武道必修化前は、社会全体が騒いでいたけれども、必修化されても重篤な事故は起きなかったからということで、現在は皆気が緩んできてしまっている。マスコミも騒がなくなったが、当自治体は変わりなくやっていると思う。当初は「柔道の事故を防ぐために」という取組だったのが、他のスポーツでも事故が多いということから、対象をスポーツ全てに向けて、冊子を作るとか、新しいことを、やっている。

学校における再発防止の取組について、初めて柔道部の練習を見たのが、11月の巡回指導だった。柔道8段の大学教授が、指導を希望する学校を順番に、1学期ごとに1回の割合で回るという形で行われた。そのときは頭部外傷ということについて、まだマスコミもあまり騒いでいなかったのも、頭をこうすると脳がこうなるということを分かりやすく説明されていた。前半は、頭と首を守るには何をしたらいいのかという話をされたが、同級生の子も先輩方も、とても真剣に聞いていたので、自分たちの仲間が起こったことを大変重く受けとめていて、気をつけようという気持ちはしっかり持っているなということを感じた。

ただ、年月が経ってくると緊迫感が薄れてきたような気がする。子供の同級生や、事故後に入部した後輩たちを、お参りにと先生が連れてきてくださるときがある。そのときの雰囲気を見ていると、真面目に練習しているし事故のことを「大変なことだ、仲間を、友だちを失った、悲しい」というのはあるが、それが自分に起こるかもしれないという危機感はないという雰囲気を感じた。熱中症にしても同じことが言えると思う。彼らは若いし、未来があるし、今元気に生きているので、病気さえしなければ、自分が今日にでも明日にでも同じような事故に遭って死ぬかもしれないということは感じていない。「こういうことがあった、気をつけなければいけない」というのと、「事故は自分にも起こるかもしれない」ということは、すぐ結びついていないので、先生方だけが知識を持ってただめだということ強く感じた。子供たちにも、「頭を打ったら自分も死ぬのだよ」「一生意識が戻らない障害が残ることがあるのだよ」ということを徹底して教えていかなければいけない。頭を

打ったということの子供が先生や親に言わなければ、先生に知識があっても何もできない。思春期だから、自分の不名誉なことは言いたがらないだろう。格好悪いことは言わなくてもいいけれど、「頭を打つなどその後で何か症状があるということは絶対大人に言わなければいけない」ということを、子供に教えていかなければいけないと、だんだん強く思うようになってきた。この知識は親も持たなければいけない。親が知っていれば、特にコンタクトスポーツをする子については、気をつけてあげられるし、子供が頭を打った時、「頭が痛い」と言ってくれていけば、顧問の先生に話をすることができる。子供が顧問の先生や親に話せば、けがや体調の情報がちゃんと伝わっていく。全てのけがについてもそうだが、特に頭部外傷については、受傷者の半分以上が死んでしまって、生きていても半分以上が重い障害になる、社会復帰できる人が少ないけがであることから、みんなが知識を持つこと、知識の普及、啓蒙活動が非常に大事だと感じた。

### 風化させない取組

風化を防ぐという観点で重要なことは、横に広く、縦に長くということだと思う。当地域で事故が起こった、どういう事故か、これから何をしていくか、何をしていこうとしているのかなど、この地域はこういう取組をしているということを、他地域にも伝えていかなければいけない。当市がやりましょうと行ってその中で頑張っているでも当市しか守れない。いいことをしているのなら、そのことを全国に発信していくべきだ。頑張っている自治体とそうでない自治体がある。あまり取組が聞こえてこない自治体は、事故があったときの対応を批判されている地域で、そこはもう先に進めない。当市がなぜ先駆的なのかというと、「事故が起こりました、じゃあ、何をすればいいのでしょうか、何が悪かったのでしょうか」と、すぐスタートして、再発防止まで考えた。やはり、他の地域でも頑張っている県や市があるので、うちはこういうことをやっているということを、全国に発信して行って、また別の地域と意見・情報交換して、いいことはまねて取り入れていけばいいと思う。そういう進歩的な地域や教育委員会が増えてくれば、そうではない地域は恥ずかしくなっていく。それで日本全体を変えていく方向に動かしていけばいいと思う。

事故が様々な場所で起こっているので、何年前の何と聞いても、思い出すことが出来ない。発生した直後だけいろんなことをやってみるのではなくて、その時関わっていた教育委員会が、やると決めたことを、人が交代しても、変わらず、長く続けていくことが大切だと思う。時々外へ発信して、知らせていくべきだ。教育委員会の管轄間の行き来のなさというのをものすごく感じた。県は県でやっているけれども、市のことは知らないと、市は市でやっているけれども、県のことは自分たちの管轄外だから、力を及ぼせないという。そうではなくて、同じ地域内の情報の行き来は、絶対必要だと思う。それをどうにかできないのかということを感じた。

市立学校に関しては、こうしてほしいということ、教育委員会の方と相談して、やりとりはできるが、私立学校はどこがどういうふうに管理しているのか、県立学校に持って

## 2 次調査

いくにはどうしたらいいのかというのが分からなくて、そこに発信していけない。

### 組織について

息子の事故が不幸な事故であるにもかかわらず、学校と教育委員会とが、再発防止にうまく向いていったのは、まず、当時の校長先生が、「家庭から預かったお子さんは、3年後に預かったときと同じ姿でお返ししなければいけない」という、教師として大切な理念をお持ちであったことが大きいと思う。事故に遭ってしまった子供を、もどに戻して返してあげなければいけないということを強く思っていたら、最後の最後まで、先生方の中に「死」という結末はなかった。

それからもう1つ大事なのは、「全てにおいて嘘はいけない。誠実に、事実をありのままに伝えなければいけない。」という考えを当時の校長先生が強くお持ちであったことだ。どこかで嘘を1回つくと、それからずっと嘘をつき続けなければいけなくなる。学校の対応がよかった理由は、校長先生も教頭先生も同じ考えをお持ちだったことだ。トップが正しい考え方、行動をしていると、他の先生方も安心して、それに右へ倣えできる。自分たちのやっていることは間違っていない。校長先生の言われるとおりに従っていればよいということで、私ども家族に対しても、皆同じように接してくださる。トップが嘘をついたり隠し事をしたりすると、箝口令が敷かれる。先生方は、正しいことをしなければいけないという気持ちはお持ちである。自分のやっていることは間違っているという葛藤を持ちながらも、言い出せず、学校の中の関係や生徒との関係も、いろいろなところがぎくしゃくして、全てがあやふやになる。本当のことを言いたいけれども言うのはだめだという、すっきりしない思いをしながらずっとトップに従っていく。再発防止にうまく向けていったのは、その違いだと思う。また学校の先生方が、「こういうふうにしたら、ああいうふうにしたら」と思ったことも、教育委員会が、「そんなことはやってもしょうがない」という考えを持っていたら、そこでストップしてしまう。私も教育委員会のことは当時よく知らなかったので、いくら先生方が一生懸命になってくださっても教育委員会でストップする可能性はあるかもしれないという懸念も抱いていた。教育委員会はそれまでの見聞きした経験から悪いイメージしかなかったので、潰されるかもしれないと思っていた。しかし再発防止策が次々と実行されていき、当市教育委員会はとても柔軟だと思った。仮に教育委員会の担当課は柔軟な頭を持っていても、教育委員会の委員長が認めないと、どこかで潰されてしまう。全ての対策案がうまく進んだのは委員会全体が同じ考えをお持ちで、同じ方向を向けたからだと思う。当時の校長先生のような考えをお持ちの方が校長先生になるべきで、逆にそのような考え方が出来ない人は学校長になってはいけないと強く思う。



## 事例 2 : 公立・高等学校・課外指導 (部活動・ラグビー)・死亡事故

## 【事故の概要】

ラグビーの練習中にランニングをしていた。その際に、気分不良になった。すぐに全身を冷やしながら、水分補給をし、救急車到着までに、意識がなくなったので心肺蘇生をした。病院に搬送したが、同日死亡した。事故が発生した高校はラグビーの強豪校で強化指定部となっていた。部員は約 80 名おり、6 名体制で指導が行われていた。

## 学校 (事故当時の監督)

## 教育委員会 (本事故の事後対応・再発防止に関わっている担当課長)

## 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)

## 事故直後の学校及び教育委員会の体制

事故当日は土曜日で、学校に管理職が不在だったが、教頭がすぐに学校に駆けつけ、速やかに教育委員会に連絡し、ご遺族、ほかの生徒・保護者、警察や報道機関等の対応を行った。また、報道機関対応については教育委員会の広報担当職員が、事故発生直後から学校に詰めて、管理職と一緒に対応した。

## 被害者の遺族・家族との関わり方

事故発生後に校長は病院に駆けつけ、その場ですぐにご遺族に謝罪した。また、顧問が事故時の状況・当日の練習内容等を説明した。また、事故当日に、ラグビー部の保護者会を緊急に開催し、監督から状況を報告した後に、保護者会の役員を通じてご遺族とのやり取りやサポートなども行われた。また、管理職の指示の下で、日頃からラグビー部の保護者や生徒と連携が取れている監督が主体となって保護者会との連携・対応を行った。また、通夜と告別式についても、ご遺族のご意向も踏まえた上で、ラグビー部を中心に生徒・教職員が積極的に関わった。告別式が終わった翌日に、保護者会がご遺族へのサポート等を行う中で、部活動再開についても話し合わせ、その上で再度保護者会を開催して部活再開の是非を議論した。告別式の 2 日後に部員ミーティングも行い、カウンセリング結果などもふまえて、監督を中心に全部員の様子を確認し、その翌日、希望者のみによる自主練習という形で部活が再開された。

## 在校生との関わり方

週明けの月曜日に全校集会で校長から事故報告を行った。また、カウンセラーが部員に対するカウンセリングを行ったが、継続してカウンセリングが必要な生徒はいなかった。

## 教職員との関わり方

関係した教職員のメンタルサポートが必要になってくるかもしれないとカウンセラーか

## 2 次調査

らアドバイスを頂いた。特に直接指導していた若い指導者が相当ショックを受けていたため、外部の専門家の支援は得ていないが、監督が出来るだけサポートできるよう配慮した。

### 中期段階(混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階)

検証委員会は設置せずに、警察の現場検証時に管理職も立ち合い、その内容を時系列に整理し、報告書を作成した。警察の要請で死因を特定するために司法解剖が行われた。また、熱中症予防を中心とする再発防止に向けたガイドラインは既存のものを補強する形で作成し、特に部員の体調を確認するための独自のチェックシートを新たに作成した。事故後数日で管理職とラグビー部の監督、保健部の教職員が主体となってガイドライン等の原案を作成し、告別式の翌日に保護者会の役員がご遺族のお宅にも持参し説明を行った。

### 後期段階(検証終了後)

#### 再発防止について

再発防止のために健康チェックや練習前の水分補給も行っている。毎朝自宅で体温を測定してチェックシートに記入し、保護者の確認印を押したものを提出させ、さらに体調に不安のある生徒には練習前に指導者が個別に確認している。チェックシートに自分で記入することによって、生徒自身の体調管理の意識づけにもなっている。ただし、この方式については毎日の保護者の協力があって成り立つものなので、全ての部活動に導入できていくわけではない。勝利至上主義になってしまうと生徒自身が体調不良であることを隠したり、指導者も無理をさせてしまうことがあるが、当該校では指導者間で安全管理への高い意識を共有し、生徒にも体調不良を隠して無理をしないよう、徹底して指導している。

教育委員会においては、熱中症の対策について、毎年全校に注意喚起の通知を行っているが、本事故の直後には改めて全市に通知文を発出し、毎年全市校園長を対象にした研修等においても、熱中症予防の注意喚起等に努めている。

#### 被害者生徒・遺族との関わり方

卒業式にはご遺族にも出席頂き、また卒業証書は改めて学級担任が自宅を訪問し、ご遺族に直接お渡しした。卒業後も、被害生徒と一緒に在籍していた生徒が卒業するまでは、ご遺族もラグビー部の試合等に顔を出されていた。現在も、月命日には毎回、ラグビー部の指導者がお参りしたり、節目(3回忌等)にはラグビー部のOBや指導者等がお参りに伺ったりするなど、交流が続いている。

#### 事故対応を通じて得られた教訓・課題

事故が起きてからの対応ではなく、普段から学校と生徒・保護者が活発にコミュニケーションを図り、緊密に連携が取れていたこと、相互の信頼が厚く、保護者会の結束が強かったことなどが、事故後の速やかな対応を可能にしたひとつの要因だと思う。

### 事例 3：私立・小学校・学校行事（卒業旅行）・死亡事故

#### 【事故の概要】

卒業旅行のレクリエーション後、自由遊びとなり、本児童は何人かの友達と遊んでいた。「疲れたから少し休む」と言って、脇の方へ座って見ていたが、友達が本児童の方を見ると、うつ伏せになっており、声をかけに行ったところ返答がなく、仰向けにしてみると、目を半開きにして、意識がなかったため、すぐに引率教員に知らせた。救急車を要請し、救急隊が到着するまで、引率看護師が、胸骨圧迫（心臓マッサージ）、人工呼吸、蘇生処置を行ったが搬送先の病院で死亡が確認された。

#### 学校（対応にあたった校長と事故発生時に現場にいた教頭）

##### 初期段階（事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期）

###### 被害者の遺族・家族との関わり方

事故発生後、現場の教員から学校に連絡があり、それを受けて校長が保護者に電話で連絡をした。校長が連絡をする前に、既に現場から保護者へ連絡が入っていたが、後日、保護者から現場は学校よりも先に保護者に連絡すべきだと指摘があった。また、保護者が現場からの連絡を受けて出かけようとしているときに校長から電話があったので、その分、現地に行くのが遅れたという指摘も受けた。

学校長が事故後すぐに現地に向かい家族に面会し、現場から遺体が家に戻されるまでずっと付き添っていた。葬儀があるまでは何回か会っており、また、学校長・教頭・学年担任 2 人の計 4 人で、何度か自宅に伺い、質問に答えた。葬儀には全教員が参列した。

###### 在校生・在校生の保護者との関わり方

卒業旅行を打ち切り、戻ってきたときに児童の保護者に対し、学院長が事情を説明した。児童らには、授業が再開されてから、カウンセラーが児童に事故の説明をした。

##### 中期段階（混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階）

###### 事故後の調査検証

小規模な学校だったため、検証委員会を設置しなかった。

###### 被害者の遺族との関わり方

ご遺族とのやりとりは教頭がかなりの回数をメールで行った。パターンとしては、ご遺族からの要望に対し学校側が「整いましたのでお伺いしたいのですが」というやりとりの流れであった。

ご遺族の意思で司法解剖をしなかったため、児童が亡くなった原因ははっきりしないま

## 2 次調査

まだだったが、司法解剖をご遺族が拒否されたということは大切にしなければならない。

最初、当然ご遺族は心穏やかではなく、さらに、原因が分からないので、学校がやってきたことについて納得されず、なかなか意思の疎通ができなかった。

少しでも早ければ命が救われたのではないかという御遺族の観点から、学校へ細かい追及があった。学校側は、時系列に沿って気にされていたことを、克明に書いてご遺族へ渡した。当然ではあるが、学校が状況を説明しても、ご遺族には素直にそれを受けとめていただくことが難しかったようだ。

また、遺族は、卒業旅行中の様子などを詳しく知りたいという気持ちがあったので、学校がアンケート調査を見童に任意で行った。約 60 名のうちの 50 名ぐらいの回答があった。内容は、健康状態、楽しく染んでいた等、どのような様子だったかなど、様々な答えがあったが、少し寝不足で眠たいということぐらいで特に具合が悪くという発言はなかった。

### 後期段階（遺族との関わり・教訓）

#### 被害者の遺族との関わり方

事故以来、翌年の 2 月までの間に 9 回お伺いした。校長・教頭・担任 2 人で連番を入れた卒業証書を自宅に持参した。

事故からちょうど 1 年後の命日に、ご遺族と校長、教頭、担任 2 人で、現地に行き、お花をささげ、礼拝を行った。その後、通常通っていた教会にて、記念礼拝（追悼礼拝）を行って、大勢の方が出席された。そこで一応、一区切りという形になったが、その後も養護教諭、理科の教諭などが折を見て家庭訪問し、話をお伺いしている。心のケアというところで、葬儀に立ち会った牧師が母親と関わった。学校は、月命日に、ご自宅へお花をお贈りしている。

#### 遺族との関わりに関する教訓

コミュニケーションの難しさはあったが、直接対話できた事はとてもよかった。

父親母親の両方と、しっかりコミュニケーションをとるために、今後、対策の委員を立てる場合は、男性・女性の対応者を置くほうが良いのではないのかと感じた。

ご遺族の方の要望は、どんどん変わっていく為、頻繁にコミュニケーションをとる必要がある。コミュニケーションをとるということは、何かを「言う」事だけでなく、「聞く」ことの大切さも感じた。

#### 再発防止

1 年生対象に実施していた心電図検査を 4 年生にも実施することにした。また、6 年生だけではなく、宿泊行事の前に健診をしっかり行っている。従来、宿泊が始まる 1 週間前の検温、排便の様子等気がついたことは記録し、それを提出してもらっている。また、旅行中も同様のことを行っている。検温は、朝、食後に必ず教員の前で検温し記録している。

宿泊のときには必ず看護師を依頼し、同行させている。事故後、学外での学校行事は従来どおり行っているが、卒業旅行は雪山から変更した。

小学校の専任の教員全員、上級の救命講習を受講した。AED は学校にあるが、行事のときには AED をレンタルして携帯するといった改善を積極的に行っている。それに加えて、行事に参加する指導者を増やしている。

屋外の活動において、教員の死角がないように分担をきちんとし、児童に目が行き届く教員配置になるよう注意しなければいけない。

#### 事故対応を通じて得られた教訓・課題

子供の日常の健康状態の把握が一番大切である。親も学校も既往症の把握が非常に大切である。入学後健康診断はあるが、過去の既往については分かりにくい。私学であるので、入学試験の際、既往症の有無をたずねるが、それがマイナスになってはいけないという保護者の意識により、きちんと答えてくれているのかということが、大変な課題であると感じる。

#### 事例 4 : 公立・中学校・課外指導 (ソフトテニス)・死亡事故

##### 【事故の概要】

地区中体連のソフトテニス大会の昼休み時間に、友人と遊んでいるときに急にうずくまるように倒れた。学校外での事故であったが、発生時、複数の教員が現場におり、被害生徒への対応、保護者への連絡、その他の生徒への対応をした。被害者生徒は、先天性疾患の発生によるもので、事故は突然であった。事故後、半年後に亡くなった。

##### 学校設置者 (教育委員会 学校教育課長・指導主事)

###### 被害者の遺族・家族との関わり

事故発生の数時間後には、複数の教員もお見舞いに行き、そのとき保護者に対し、今後のお見舞いのこと、対応の仕方等保護者の思いを聞いて、家族の思いに沿ったような対応を行った。学級では、子供たちが寄せ書きを贈り、気持ちが見える形でもメッセージを送っていた。

卒業証書について、学校長から教育委員会に相談があった。学籍がないので、卒業証書自体は、無理であるという話になった。しかし、何かしら形でということで、卒業アルバムをご両親に渡している。

###### 在校生との関わり

スクールカウンセラーの準備をし、ずっと見届けていたが、スクールカウンセラーにお願いするところまでは至らなかった。先天的な原因であることも絡んでおり、大きな混乱までには至らなかった。

###### 教育委員会の取組

###### ・風化させない取組

教育委員会としては、事件事故があった学校だけではなく、市全体としてどういう風にしていくかと言うことに意識を持ち、校長会の後に課題協議の研修会にて、事件事故対応した校長の話と共有し、もし起こった場合の課題や、意識すべき情報を共有している。校長が、レポートを用意し報告するのみではなく、必ず課題を協議する時間を設けている。時系列で細かい状況、実際に学校が対応した細部にわたる情報、学校医からの指示なども共有されている。小中一緒に校長会を行うため、市全体で情報共有できている。

###### ・緊急時において (マニュアル・AED)

緊急時に誰が見ても端的で分かりやすいマニュアル作成が大切である。養護教諭を中心に作成するが、市内の養護教諭部会は必ず毎月 2 回程度独自に研修会を開いており、情報交換・事例研究を行っている。

AED は、必ず誰でも使えるように講習している。小学校では、水泳指導時に、消防署が職員・PTA 関係者に、人工呼吸・AED の講習を行っている。中学校では、生徒は中学二年生で1時間授業がある。教員は講習を受けに行っている。

また、何かあった時は、学校で大丈夫か否かという判断はせず、救急車を躊躇せず呼んでいる。

・マスコミ対応

教育委員会が窓口になり、マスコミが学校現場へ行かないように依頼するという形をとっている。学校現場は、児童生徒や保護者対応でマスコミ対応まではできない。また、児童生徒もカメラなどを不安に感じる。

マスコミには、教育委員会から積極的に情報を投げかけ、今の状況を伝える。また、質問されたことを細かくメモし、教育委員会の中で分担し、全て学校に聞き、学校から回答があったもののみをマスコミに答えている。

**事故対応を通じて得られた教訓・課題**

教育委員会と学校等の関係、校医との関係は常に相談できる関係を築いていることが重要である。

AED について、議会でも学校外での活動時に AED が使用できるように、学校にもう一台携帯できる AED を置くという話が出たが、予算的に少しずつ取り入れ検討していきたいという現状である。

## 事例 5 : 私立・高等学校・課外指導 (部活動・ラグビー)・障害

### 【事故の概要】

ラグビー部の部活動中、ハードな練習メニューをこなしている時に、急に意識がなくなり胸を押さえながら膝から倒れ、心肺停止の状態になった。現在は、ペースメーカーを装着し、記憶障害が残っている。

### 保護者 (母親)

事故を振り返って、学校等の初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)における事故対応への評価や要望・課題、事前に行っておいた方がよかったこと

#### 事故発生直後の学校の対応

学校から携帯に電話があったが、すぐに着信に気が付かなかった。着信履歴を見たら何度も電話がかかっていた。病院に着いた時には既に搬送されていた。事故直後に校長も駆けつけてくださり、その後、何回か病院にも来てくださった。そのときに校長先生から「学校の責任ですから」という言葉があった。事故発生時から搬送までの学校の対応は AED を迅速に使って病院へ搬送してくださったので精一杯、いや、それ以上の対応だったとも思う。医師からは「もしそのまま運ばれてきていたらもう命はなかったでしょう。一度心肺停止になっているので、時間との戦いの部分で、適切な処置が執られていた。」と言われた。AED を取りに行く時点で時間が経っていたらもう無理だったと思うが、学校に AED が 10 台以上あったということと、監督、コーチが目の前にいたので助かったという部分もあった。

#### 入院中の対応

学校側から病院の医師と復帰後の体制について確認したいと要望があり、校長や学年主任、養護教諭、ラグビー関係の先生など、5 人が病院に来て医師と話し合った。

事故を振り返って、事故の発生前における学校等の安全に関する取組状況に対する評価や要望・課題、事前に行っておいた方がよかったこと

#### 事故発生以前の部活の状況

何回か練習中に意識がなくなることがあった。学校から病院に連れて行ったらどうかと言われ、病院に連れて行って、心電図などの基礎的な検査を行った。心電図は安静な状態でとるので、そのときには異常はないと言われた。学校の健診でも引っかかることはなかったので、ラグビーはさせていいと先生にもお伝えしていた。はっきりとした原因は分からないが、事故後に不整脈があることが分かった。激しいスポーツをしているので、直接練習を見ている学校側から「普通と違いますよ」、「もっと専門の病院に行ってみせたらどうですか」と助言があれば、倒れるところまでいかなかったのではと思うこともある。ただ、「あれは亡くなるくらいの事故だったので、命があるだけでもありがたいと思いたい」



と、子供が医師から言われていた。

### 当該の事故を振り返って、事故の発生後における学校等の対応に対する評価や要望・課題

#### 復学時の学校の対応について

意識が戻っても重度の記憶障害が残り、歩くこともできないかもしれないと思っていたが、日に日に回復し、完全ではないが生活面での支障はなくなっていった。復学して最初のうちは友達や先生が協力してくださったが、すぐに自分のことは自分でできるようになった。

ラグビー部担当の先生が、息子の担任を引き受けると言ってくれたため、学校とのやり取り窓口はその先生となった。また、進んで部活へ参加するなど良い環境は、学校側でしっかりつくってもらった。本人にとっても居場所があったことが良かったと思う。

大学受験を目指し、秋頃から夢と希望を持って家庭教師をつけて勉強したが、記憶障害が残る中での受験勉強は大変だった。最終的に卒業式の頃に、大学の合格が分かった。大学に入ったからと言って、授業にはなかなかついていけないというハンデもあるが、スタートラインに立てた。現在は大学に行っているので、そこで相談等はできると思う。大学へ行けたからよかったものの、状況が状況だったので行けなくて当たり前だった。

### 事故を振り返って、学校等への要望・課題、事前に行っておいた方がよいと思う事

#### 心のケアについて

学校の先生は心配して、色々な相談にも乗って心のケアにあたってくくださったが、後で思えば専門的なケアをしてあげられたらよかったと思う。自分のやりたいスポーツもできない、勉強も全然できない、行きたかった大学にも行けなくなった時に、自分はそのときなぜ死ねなかったのだろうか、生きていてよかったのだろうか、と思うほど追い込まれていた。学校からカウンセラーの派遣などの話はなかった。カウンセリング等は学校から紹介して下さるべきなのか、それとも自分がそういう病院を見つけていくべきなのか、その辺が分からなかった。子供も親も病んでいる中で、情報提供などのアドバイスをしてくれるところがあればよかった。

#### 卒業後のケアについて

卒業後も、ペースメーカーの入替えのために数年に一度手術が必要等ハンデと付き合いがいかないといけないこともあり、学校側も気に掛けてコンタクトしてほしい。卒業すればこちら側からは連絡しにくい部分があるが、継続的にコミュニケーションを取れる仕組みがあればいいと思う。

#### AEDの普及について

AEDの普及は重要だと思う。この事故ではAEDを的確に使ってくださったと思う。AEDが

## 2 次調査

ある場所によっては、それを取りに行つて帰ってくるだけでも時間がかかり、助かることは無理だっただろう。

### 健康診断について

ある程度激しい運動は、一般的な健康診断だけでなく、負荷をかけたときにどうなるのかというぐらいの健康診断が必要ではないかと思った。それをもとに、本当に運動できる体力があるのか、運動できる体なのかを判断してから入部させるようにしたら良いのではないかと思う。

### 国や都道府県などが行っていく必要があると思う支援について

障害を負いながら、様々な資格をとって頑張っている人はたくさんいるので、ハローワークのように、関連する情報を提供をするような場所があれば良いと思う。このような場所から学校にも関連する情報を提供してくれれば、学校からも教えてくれると思うのだが、そういった窓口がない。保護者の立場で窓口を探していくのは難しい。

また、今後も相談に乗ってもらえる場所があれば良いと思う。親は、子供が最後まで、自立するまで育てていかないといけないという責任感があるが、順番からいくと親が先に亡くなる。その後が親としては心配であり、障害を持った子供が 1 人で生きていくための糧というものがほしい。

## 事例 6 : 公立・中学校・課外指導（部活動・サッカー）・死亡事故

## 【事故の概要】

軽いランニング・パス等の練習を 30 分間実施し、9 時頃から 3 キロのタイムトライアルを行い、本生徒はゴール後、他の部員が全員ゴールするまで話しながら 5 分程度座って休憩していたが、飲み物を取りに立ち上った直後、急に気分不良を訴え、泡をふいて倒れる。自発呼吸はあるが、意識不明の状態だったため、救急車で搬送したが、搬送先の病院で死亡が確認された。独自の検証委員会は設置せずに、既存の第三者組織が事故の調査検証を行い、再発防止策を提言した。

## 学校(当時の生徒指導主事・養護教諭)

## 教育委員会(本事故の事後対応・再発防止に関わっている指導主事)

## 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)

## 被害者の遺族・家族との関わり方

事故発生後、直ぐに連絡したが保護者が勤務中で携帯電話が繋がらなかったため、教員が母親の職場まで迎えに行った。事故後は学校全体で緊急時にすぐに連絡が取れるように携帯電話だけでなく勤務されている場合は勤務先の住所や電話番号まで詳細に書いてもらうように徹底した。また、校長が病院で遺族に対して謝罪した。

## 在校生との関わり方

全校生徒を対象に担任が面談し、カウンセリングが必要な生徒を特定した。サッカー部員、同じ場所で部活をしていた生徒、被害生徒の親戚等 30 名強がカウンセリングを受けた。県教育委員会からカウンセラーの派遣があり、複数名で対応したためスムーズに対応することができた。最初の 1 週間はカウンセラー 4 名体制で毎日カウンセリングを行ったが、長期的にケアが必要だったのは 4 名のみであった。部活は保護者会と相談の上、事故から 10 日後に再開された。

事故の翌日に全校保護者会を開いて、保護者に説明した上で、翌朝に全校集会で生徒に伝えた。その際にサッカー部員で動揺していた生徒は参加させなかった。

## 教員との関わり方

顧問の教員は精神的なショックが多く、当面は授業担当から外れて、部活の指導は副顧問が行った。また、カウンセラーのカウンセリングも受けていた。

## その他

事故当日にサッカー部向けの保護者会、翌日に全校対象の保護者会が実施された。教頭が窓口となりマスコミ対応をした。また、学校で記者会見が行われ、校長と顧問が

## 2 次調査

対応した。説明内容については事前に市教育委員会が内容を確認した。市教育委員会からは2名同席した。

### 中期段階(混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階)

#### 学校心臓病対策委員会を利用した検証

本事故独自の検証委員会は設置せずに、既設の市学校保健会の学校心臓病対策委員会で検証した。同委員会は医学部教授、小児科医、心臓専門医等医療専門家が委員となっているため、被害生徒が小学校1年生及び中学校1年生の定期健康診断時の心電図や救急車内で記録された心電図を検証するなど事故の原因を調査したり再発防止策について提言したりした。

検証委員会を設置することで良い結果を得ることができるのであれば、検証委員会設置の意義はあると思う。しかし、誰かを加害者として責めを負わすようになる恐れもある。今回は独自の検証委員会を設置することはなかったが、当市内の全小中学校にAEDが増設されたり、市消防局との合同開催による応急手当普及員養成講習が開催されるなど救急体制が大きく改善された。

### 後期段階(検証終了後から現在)

#### 教育委員会が主体となって行った再発防止の取組

本学校では「AEDが設置されていたが、使うことができなかった」ことを課題として、再発防止に取りかかった。翌年5月に「子供の突然死を減らすために」という講演会を開催し、市長・教育長・校長等へ救命救急体制におけるAEDの重要性を訴えた。市では平成23年6月に補正予算を組み各学校に計3台(1台は屋外)設置した。また、消防署とタイアップして3日間の研修後、認定試験を受けて応急手当普及員認定書が発行される制度を作った。普及員が学校に戻って指導ができるように、貸出用トレーニング用機材も用意している。現時点では300名が普及員の認定を受けている。

学校の環境によっては3台以上設置されている学校もあるが、校外での試合に持ち出す等でAEDが足りない場合は、消防で貸与してもらえるので、必要な場合は市教育委員会で手続を行っている。また、学外へ出る場合は、ホームページでAEDがあるところを確認してから行くように周知している。

#### 学校の部活動における事故の対応について

部活動前には脈拍を計測する等の健康チェックを行うようにしている。事故後、パルスオキシメーター(指先に付けて血中酸素飽和度及び脈拍を測定する機器)を複数台購入し、生徒や教員が客観的に健康状態を把握することに役に立った。

毎年6月には救命講習会を実施していたが、事故当日にAEDを使うことができなかったため、事故1か月以内に再度教員向けに救命講習を実施し、死戦期呼吸の見分け方につい

て確認した。さらに、年度内に心臓病の専門医を招き「突然死予防」に関する学習会を実施した。また、年度内に全校生徒を対象に救命講習会を実施した。そして、翌年度からは、総合的な学習の時間を利用し、実技、講演、振り返りを含めて計 5 時間の命の講座を全学年に実施している。また、教員対象に年 3 回研修を行っている。

事故以前は職員会議や学期末の多忙な時期は教員不在で部活を行っていたこともあったが、現在は教員が部活に出られない場合は部活動自体を休みにすることとした。顧問と副顧問が同時に不在となりにくいように、校内人事では同じ学年にならないように配慮している。また宿泊を伴う遠征には必ず複数体制で対応し、保護者にも部活動を協力してもらえるように PTA 等を通じて要請した。「見てもらうだけでもいいので、足を運んでください。」と伝えて、見学に来て下さる保護者も増えた。

#### 被害者の遺族との関わり方

事故後しばらくは、校長はじめ、部活動指導者、学級担任や学年部教員等が、毎日家庭訪問を行った。その後は、少しずつ間隔をあげ、現在は年に 1 回、命日にご自宅への訪問とお墓参りに行っている。保護者の同意を得て、卒業式で名前を読み上げて、自宅で卒業証書とアルバムを渡した。生徒自身サッカーが好きだったことや事故後のサッカー部の保護者会からのサポートが大きかったこともあり、「思い切ってスポーツができる環境を作ってほしい」とご遺族からは言っていた。

被害者遺族との関わりは事故後の丁寧な対応も大事だが、普段から信頼関係を築いておくことが重要である。何度もご自宅に足を運んで遺族とコミュニケーションを取っていったことがよかったと思う。誰かが必ず訪問して、遺族の様子を共有する等チームで対応した。また、何かする時は事前に遺族の了承を得るようにした。当時の管理職が以前に水泳の授業中における生徒の死亡事故を経験したことがあったため、事故後の遺族の対応についての的確な指示のもと、行動することができた。

#### 事故対応を通じて得られた教訓・課題

再発防止のためには事故現場での事実は隠さず、情報は出さないといけない。今回の事故では情報を出したことによって、当市の救急体制は大きく変わった。本事故の 2 年後に市内で部活動中に意識を失い倒れるという事故が発生したが、AED を的確に利用し命が助かった。また、当該学校内で生徒が突然意識を失い倒れる事故が発生したが、教員が心臓マッサージを即座に開始し、生徒が直ぐに AED を取りに行くことが出来た。

## 2 次調査

### 事例 7 : 公立・高等学校・課外指導 (部活動・ソフトテニス)・死亡事故

#### 【事故の概要】

部活動中、他校との練習試合にて、試合中に小走りで次のプレーに移ろうとした瞬間、急に前のめりに倒れ込む。顧問らがすぐに駆け寄り、本生徒の状況を確認。意識・呼吸のない状態が続いたので、救急車を要請し、心肺蘇生を開始した。病院に搬送したが、同日死亡した。該当生徒は、入学後、事故までに数回、練習中に意識を失って倒れている。病院で検査を受けたところ、原因の特定できない不整脈があると診断されたが、運動制限の指示はなかったため、本人、保護者の強い意思で部活動に参加していた。もし練習中に倒れるようなことがあれば、意識が回復してもすぐ病院に行くこととその際にはすぐに管理職に連絡することを確認していた。

#### 学校(事故後に着任した校長)

#### 教育委員会(本事故の事後対応・再発防止に関わっている担当課長及び課長補佐)

#### 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)

##### 事故直後の学校及び教育委員会の体制

救急車を要請すると同時に保護者に連絡した。事故発生日は連休中であったが危機管理グループを招集し、翌日に全職員に緊急連絡網で事後対応について連絡をとった。教育委員会が出しているマニュアルに基づき、校長がマスコミ対応を行った。

##### 被害者の遺族・家族との関わり方

顧問から病院で保護者に経緯を説明した。葬儀の翌日に葬儀参列のお礼に被害生徒が入居していた寄宿舎に来られた。

##### 在校生との関わり方

連休明けに在校生への説明会を実施。また、同日予定されていた遠足を中止し全部活が活動を自粛した。その翌日、当該部活動及び所属学級の生徒に対して、スクールカウンセラーから話をし、希望のある生徒についてはカウンセリングを行うこととした。

##### 教員との関わり方

事故当日は顧問が 2 人引率して試合会場に行っているが、特にカウンセリング等は行われなかった。

#### 中期段階(混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階)

当事故に関しては、検証委員会を設置せず、職員会議、部活動顧問会で、部活動を含め、生徒の生活全般について確認をした。また、他の死亡事例が起こったため、翌年度に、第

三者委員(大学教員、臨床心理士、保護者、社会福祉法人理事長等、計9人)から成る検証委員会を設置し、提言をいただいた。

### 後期段階(検証終了後から現在)

#### 再発防止について

生徒の心と体の状況を全員で共有するために、月に1回行われる全体職員の連絡会で、心と体にサインのある生徒については状況を確認し合っている。連絡会の場で名前を出して確認しあうことで、職員全員が名前と症状を把握することができるため、何かあった時は直ぐに対応をすることができる。部活動については出来る限り顧問を2人配置し、どちらか1人は必ず部活に出られるような体制を取っている。2週間に1回は必ず部活が休みの日を作るようにしている。試合等が重なって休みが取れないこともあるが、できる限り休みを取るようにしている。また、AEDを学校体育館に配置している。学外の体育館であってもAEDが設置されているか確認し、部活動をするところには必ずAEDが確保されているようにしている。教育委員会としては早い段階で全学校にAEDを1台配置していたが、来年度の予算で各校に2台目を配置させる予定にしている。

#### 被害者の遺族・家族との関わり方

ご遺族からは植樹や備品を寄贈いただいたり、卒業式には式場の入口に花を飾っていただいたりした。卒業までは学級担任が毎月お参りし、校長自身も数回訪問した。また、生徒が修学旅行や試合に行ったらお土産を届けるなど度々訪問させてもらった。

ご遺族の意向をお伺いした上で連番を抜いた卒業証書と卒業アルバムをご自宅に校長が届けた。

#### 事故対応を通じて得られた教訓・課題

既往症があったため保護者と事前に十分な話ができていること、保護者が直ぐに病院に駆けつけ亡くなったことを確認されているので、直後の連絡が早かったこと、同じ部活やクラスだった生徒が頻繁に自宅を訪問してくれたことで事故後ご遺族と良好な関係を築くことが出来たと思う。

## 事例 8 : 公立・中学校・課外指導（部活動）・死亡事故

### 【事故の概要】

健康観察及びウォーミングアップの後、1 時間ほど練習を行い、その後、校外へ体力作り（ランニング）に出発した。目的地に到着後 30 分弱の休憩、水分補給を行った後、学校に向けて出発し、途中で休憩をとった。学校に到着し休んでいたところ倒れた。ただちに救命処置を行い、救急車で病院に搬送したが、同日死亡した。

### 学校（事故当時の教頭）・教育委員会

#### 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)

##### 被害者の遺族・家族との関わり方

事故直後に校長他が病院に行ったが、正確な情報収集をするために一旦学校に戻り、その後、教育委員会、校長、学年主任、学級担任、部活動顧問が状況説明と、管理下での事故への謝罪を行うために自宅を訪問した。その際、部活の生徒及び保護者に状況を説明したい旨了解いただいた。また、事故翌日、弔問に行き、全校集会及び臨時全校保護者会の開催について了承をいただいた。保護者や生徒にメッセージを伝えてほしいと要望があったため、ご遺族のメッセージを正しく伝えるために、文書にして事前に確認を取った。妹が在籍していた小学校へもカウンセラーを派遣し、母親及び妹のカウンセリングが行われた。

##### 在校生との関わり方

翌日は休日であったが、都道府県教育委員会より派遣されたスクールカウンセラーを待機させた。その後、カウンセラーが一週間ほど常駐したが、状況が落ち着いていたため引き上げた。

休日明け、全校集会で事故の経緯や命の尊さについて校長より説明があった。

##### 教職員との関わり方

事故当日は休日だったため、全教職員を学校へ召集し教頭から事故の状況を説明した。

顧問や事故後の対応をしていた担任も心を痛めていたため、教職員にもスクールカウンセラーのカウンセリングを実施した。

##### 在校生の保護者との関わり方

事故直後に部活動の生徒の保護者に電話で事故が発生したことを連絡した。事故翌日に当該生徒が所属していた部活の臨時保護者会を生徒同伴で開催した。「他の保護者からのメールで死亡の事実を知った。学校の連絡が遅い。」と指摘があったが、ご遺族の意向を確認してから伝えたため時間がかかったことを説明した。また、事故から 3 日後臨時全校保護



者会を実施した。

#### マスコミ対応

ご遺族から報道されることがないようにと申し入れがあり、学校からはできる限り努力すると回答した。教育委員会を窓口とすることとしていたが、学校のコメントを求めるために学校に連絡があった。その時は、教頭が対応し、事故の経緯とご遺族の意向を伝え、コメントを差し控える旨回答した。

### 中期段階(混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階)

#### 事故の調査検証

検証委員会は設置せず、医師の診断書、警察の捜査結果、関係者への聞き取り結果をもって検証した。

#### 被害者の遺族・家族との関わり方

ご遺族からは法事への出席や、倒れた場所に命日にお花を供えたいと要望があった。在籍した学年の生徒が卒業する時、学校側から卒業証書の発行等について相談したが、ご遺族が希望されなかった。

### 後期段階(検証終了後から現在)

#### 再発防止

学校では、教職員向けに AED 使用研修を毎年実施している。本年度は、マンネリ化しないように、抜き打ちで AED が使えるかをチェックしている。緊急連絡体制の再確認を行った。運動時健康観察のポイントを作成し、運動前には健康チェックを実施し、体調が悪い生徒は運動させないことを徹底している。救命処置の流れを見直した。詳細なマニュアルがあったが、緊急時にこれだけやればよいというポイントのみを書き出して、よく見えるところに張り出した。

教育委員会では、事故数日後に臨時校長会議を開催し、事故の経過説明、学校の今後の対応、各学校への配慮事項について伝えた。都道府県教育委員会発行の「安全管理の手引き」の活用を徹底している。現在は、被害生徒の月命日に安全点検を行っている。

#### 事故対応を通じて得られた教訓・課題

事故は起こり得るということを教職員に意識させることが大切である。体験された方に語ってもらうのが一番良い方法ではないかと思う。

危機管理マニュアルがあるが、事故後の対応はご遺族の意向やマスコミの反応など相手があることなので、マニュアルどおりにいかない。本件の事故後の対応においては、校長が誠実に対応をしたことが良かった。

## 事例 9：公立・中学校・課外指導（部活動・サッカー）・死亡事故

### 【事故の概要】

夏季休業中、学外のサッカー場での部活動中、試合形式の練習をしていた。本生徒の方に山なり気味に飛んできたボールが胸にあたり、数歩歩き出したところでうつぶせに倒れた。救急車を要請、救急隊員が AED を施行したが、反応はなかった。救急病院の集中治療を受けたが、約 1 週間後に死亡した。

### 学校（校長）・教育委員会（学校教育課 課長補佐）

#### 初期段階(事故直後から詳しい調査を開始するまでの時期)

##### 被害者の遺族・家族との関わり方

事故後の対応については、学校の都合でなく、ご遺族の気持ちを最優先し対応していくことが最善だと考え、様々な意見があったが、やること全てについて保護者の了解を得ながら進めた。例えば生徒や保護者に説明会を開く際、「こういう話をしたいと考えていますがいいですか」、「質問があったら、ここまで話します」等を事前に説明しご遺族の了解を得てから行った。学校は、事故直後事故発生当時の詳細な状況を遺族に対して説明させてほしいと申し出たが、聞ける状態にないということであったため、事故直後の段階では話していなかった。

##### 当該事故と関係する生徒との関わり方

市教育委員会事務局及び県教育事務所の協力を得て、サッカー部及びサッカー部のボールを蹴った生徒のためにスクールカウンセラーを要請した。スクールカウンセラーは、生徒の様子を観察し、同時に教職員がどのように生徒と接すればよいか助言をいただいた。個別に生徒に対するカウンセリングは状況を見て行わなかった。

学校は、ボールを蹴った生徒の保護者から、被害生徒保護者に対し謝りに行った方が良いかと尋ねられたが、その時点では、事故の詳細は被害者生徒の保護者に説明できていない時期でもあったため、そのような申し出があったことは伝えると話した。また、その生徒と保護者に来校いただき、事故の責任はその生徒にはないことと気持ちが落ち込まないように伝えた。

事故の翌日から、生徒には、部活動を通して、集中治療室で闘っているという話をしていた。死亡した翌日、保護者の了解を得て、全校集会を開き説明した。その場には、市教育長と指導主事、県教育事務所指導主事が同席した。

##### 教職員との関わり方

夏季休業中であったが、事故の翌日、教職員を招集し説明した。その後も校長・教頭・顧問で何をどう対応しているかを明確に教職員に示すために、校長から現状報告を行い教

職員と情報共有をした。校長の事故の捉え方と対応方針を、事故後すぐに明確にし、教職員に共有することが大切であるが、最初の時点でそれが出来ていなかった。また、情報を教職員に隠さず伝えていくことも重要である。

また、教職員が保護者や生徒から事故について問われた時に、どのように話せばよいか文書にして渡した。

サッカー部の顧問の心のケアはスクールカウンセラーに対応いただいた。カウンセリングによって顧問の気持ちが少し楽になったようだった。

#### 教育委員会との関わり方

事故の翌日に、市教育委員会、県教育事務所の職員の来校があり、その後、ほぼ毎日、市教育委員会とは直接会ったり、電話でやりとりをしたりして、連携を深め、学校の状況は市教育委員会が把握をしていた。葬儀前には、教育長・次長・課長・課長補佐でお悔やみに被害生徒宅へ伺った。学校としては、判断が難しいことや対応に苦慮することがあったが、市教育委員会の的確な指示等もあり、安心して対応できた。校長が保護者会等で発言する原稿や説明資料については、事前に市教育委員会と内容を確認した。

#### マスコミ対応

事故後の対応について、マスコミ対応は市教育委員会で行うことと事前に調整はしていた。ただ、学校へマスコミからの問い合わせがあっても対応できるように、想定される質問についてマニュアルを作成して教頭が対応することにしていった。市教育委員会へ問い合わせがあったため、市教育委員会で経緯を説明して、ご遺族にもまだ説明していないことを伝えた。報道はされなかった。通夜当日ではあったが、取材があったことを校長からご遺族に報告した。ご遺族は自分たちもまだ詳しい状況を聞いていないのに、マスコミに話すのかという思いがその時にはあったようだ。

### 中期段階(混乱期がある程度収まった時期：調査検証段階)

#### 事故の調査検証

検証委員会は設置せず、警察の検証及び司法解剖が行われた。

#### 被害者の遺族・家族との関わり方

事故発生当時の詳細な状況を説明したのは、事故発生から数週間後であった。その際、AEDに関してや、ボールを蹴った生徒の心のケア、部員全員の心のケアをしっかりと対応してほしいと保護者から要望があった。さらに、子供の命を守れるのは大人だけという意識を持って安全な学校づくりをしてほしいと要望があった。

保護者は、怒りをあらわにせず、冷静に話を聞いてくれた。以前から被害生徒は一生懸命指導する顧問を尊敬しており、その信頼関係が一番大きい要素だったと思う。

## 2 次調査

その後、終業式にて被害生徒の話をしたということや運動会で被害生徒の写真を持って行進してもよいかということも電話で確認をし、事後には学校での反応等報告した。

サッカー部の練習を見に来られることもある。また、教職員やサッカー部等生徒たちが、月に1回ぐらいお墓参りをしていることに対して感謝の言葉もいただいている。

被害生徒のいた学年の生徒が進級した場合は、「〇年〇組にいるつもりで、クラスでも〇〇がいるつもりでいます」と言う話をしている。卒業する時には、被害生徒にも卒業証書を出したいと考えている。

### 在校生徒の保護者への説明

被害生徒保護者への事故発生時の説明後に全体の保護者会を開催し、市教育委員会と県教育事務所の職員が同席した。在校生の保護者からは、開催時期が遅いと指摘があった。

## 後期段階(検証終了後から現在)

### 再発防止

学校外の場所での部活動は、保護者を含め大人が複数で引率することとし、校内においても、大人が複数いない場合は部活の練習はしない。生徒同士の健康チェックをお互いに行うように指導している。

学校外で活動する時は、AEDが設置されているかどうか確認し、なければ学校から必ず携帯するようにしている。更に、本校職員は、消防署による救急救命講習を夏季休業中に必ず全職員受けている。また、部活動の引率等があるため、PTA対象の救急救命講習を開催している。生徒については、中学2年時の保健体育の授業を使い、全員救急救命講習を受けている。何かあった時はためらわず救急車を要請することを徹底している。

被災生徒は、心臓検診の結果、2次検診があり要精密検査対象者の生徒であった。要精密検査の通知を出して間もない事故であり、精密検査は未受診であった。事故後医師は、本事故とは関係がないとの見解であった。校医と相談して、要精密検査対象者の生徒に対し、専門医にて精密検査を受診し、運動可と言われるまで運動させないことに決めた。

市教育委員会としては、事故があったサッカー場にAEDを設置した。地区大会を行う会場のAEDの有無を全部確認して、設置がないところは自治体から貸し出ししている。また死亡直後の校長会にて、事故について説明し教職員への周知を依頼した。

### 事故対応を通じて得られた教訓・課題

(学校)

応急対応の意識やスキルが必要ということが一番感じる。持ち運び用のAEDは重要である。

遺族対応に関するマニュアルはあった方がいいと思うが、ご遺族の気持ちを最優先で対応する必要がある。ご遺族の意向を確認して対応することや事故以前の普段からの信頼関

係が大切である。

教育委員会が相談しやすく連携して対応したためスムーズにいった。

最初に校長の事故の捉え方と方針を明確にし、情報を教職員に隠さず伝えていくこと、その際、重要なことは口頭ではなく文書化することが大切だと考える。

(教育委員会)

学校が遺族に寄り添ってくださったことと情報が教育委員会側に正確に伝わっていたことが大切だったと思う。



## 1 次調査・2 次調査を踏まえての分析

学校管理下で発生する事件・事故災害には、突然死や突然倒れる・体調不良を訴えるものが多いことが示されたが、既往症等がない場合も多く、事故の発生を未然に防ぐことは難しいと考えられる。しかしながら、その一方で、事前にヒヤリハットを含む事故の兆候と考えられるような状況が観察されている事例も 2 割近く見受けられることから、児童生徒の健康状態の観察や活動状況の監督を強化する等、兆候を見逃さずに事故を未然に防ぐ取組を行うことが必要である。

また、事件・事故災害が発生した後の対応については、9 割以上が適切な対応を行っていたと回答されていた。本調査は、学校及び学校設置者に対する調査であることを考慮しなければならないが、全体的に学校事故対応は適切に行われていると自己評価されている。しかしながら、1 割近い事件・事故災害では、「事後対応が適切ではなかった」、「遺族・家族との関係が良好ではない」と学校設置者が評価していることにも注目しなければならない。

本調査では、初期対応時の説明において被災児童生徒等の遺族・家族からの理解が得られにくかった説明内容（別添 3 参照）や事件・事故災害対応後に新たに明らかになった事後対応における課題や苦慮された内容（別添 4 参照）について自由記述にて回答を求めた。6 割前後は「特になし」の回答であったが、4 割近い事件・事故災害では様々な課題等が列挙されており、課題への対応如何によっては、遺族・家族との良好な関係が構築できなくなる可能性も否定できないものである。

そこで、1 次調査及び 2 次調査を踏まえて、学校・学校設置者の事件・事故災害後の対応と現在の遺族・家族との関係性に焦点を当てて分析を行った。

### 1. 学校・学校設置者の事件・事故災害後の対応と遺族・家族との関係

1 次調査の「6-4 現在、当該事件・事故災害で被災した児童生徒等の遺族・家族と当該学校及び学校設置者との関係性は良好ですか。」の設問において、「1 とても思う」及び「2 少し思う」の回答を「a. 良好」、「3 あまり思わない」及び「4 全く思わない」の回答を「b. 良好でない」と分類した結果、「a. 良好」が 91.5% (355 件)、「b. 良好でない」が 8.5% (33 件)であった。<sup>6</sup> 「b. 良好でない」の件数が少ないものの、いくつかの項目では、事故後の対応の評価に大きな差が生じた。

この分類結果と「4-2 事件・事故災害発生直後、被害者の遺族・家族への対応は適切に行えましたか。」の回答結果についてクロス集計を行った結果、「とても思う」と回答した割合は、良好な場合では 85.5%であるのに対して、良好でない場合は 53.1%であった。

<sup>6</sup> 詳細は 1 次調査の「2-3-3. 関係者への対応」参照。

## 1 次調査・2 次調査を踏まえての分析

		遺族・家族との関係	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
4 1 2	当該の事件・事故災害発生直後、被害者の遺族・家族への対応は適切に行えましたか。	a. 良好	300	45	4	2	351
			85.5	12.8	1.1	0.6	100
		b. 良好でない	17	12	3	0	32
			53.1	37.5	9.4	0.0	100

上段：件数 下段：割合(%)

また「4-12 遺族・家族に対して、学校側から事件・事故災害の経緯を説明する前に、教職員や学校関係者間における情報共有は十分でしたか。」とのクロス集計結果では、「とても思う」と回答した割合は、良好な場合が 63.8%であるのに対して、良好でない場合は 37.5%であった。

		遺族・家族との関係	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
4 1 12	遺族・家族に対して、学校側から経緯を説明する前に、教職員や学校関係者間における情報共有は十分でしたか？	a. 良好	217	91	29	3	340
			63.8	26.8	8.5	0.9	100
		b. 良好でない	12	14	4	2	32
			37.5	43.8	12.5	6.3	100

上段：件数 下段：割合(%)

「4-15 在校生を対象とした事件・事故災害に関する説明会を開催した場合、その家族・遺族からの理解を十分に得て開催しましたか。」とのクロス集計結果では、「とても思う」と回答した割合は、良好な場合が 73.6%であるのに対して、良好でない場合は 28.6%であった。

		遺族・家族との関係	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
4 1 15	15で「はい」の場合、被害者本人、その家族・遺族からの理解を十分に得て開催しましたか？	a. 良好	170	45	11	5	231
			73.6	19.5	4.8	2.2	100
		b. 良好でない	6	4	7	4	21
			28.6	19.0	33.3	19.0	100

上段：件数 下段：割合(%)

これらの集計結果から、事件・事故発生後において遺族・家族と良好な関係があると認識されている事例では、事件・事故災害発生直後、被害者の遺族・家族へ適切な対応を行い、その後も継続して適切なコミュニケーションが取られている状況が示されているところである。2次調査でヒアリングを行った全ての事例では、現在遺族・家族との関係性は良好であると回答されていたが、事故直後に、迅速に保護者に連絡し、学校関係者が当日中に事故の経緯を説明している事例が多かったことや、遺族となった保護者の意向を尊重して誠意のある対応を継続して行っていたと考えられる事例が多かったことから、事件・事故災害発生後の保護者との関係性の構築と持続が重要であることを示しているものと推測されるところである。



## 2. 検証委員会の設置

「5-1 事件・事故災害の原因究明のための検証(調査)委員会を設置されましたか。」の設問で、検証委員会を「a 設置」したとの回答は、403 件中 78 件(19.4%)であった。<sup>7</sup> また、1の分析と同様の方法でクロス集計した結果、検証委員会を設置したと回答した割合は、良好な場合が 17.4%であるのに対して、良好でない場合が 45.2%であり、良好でない場合の方が検証委員会を設置しているという結果が見受けられた。

		遺族・家族との関係	はい	いいえ	合計
5   1	事件・事故災害の原因究明のための検証(調査)委員会を設置されましたか?	a. 良好	59	281	340
			17.4	82.6	100
		b. 良好でない	14	17	31
			45.2	54.8	100

上段：件数 下段：割合(%)

この検証委員会設置の有無と「4-2 事件・事故災害発生直後、被害者の遺族・家族への対応は適切に行えましたか。」の回答状況についてクロス集計を行った結果、「あまり思わない」「全く思わない」と回答した割合は、設置した場合が計 9.1%であるのに対して、設置していない場合では計 0.6%であった。

		検証(調査)究明委員会を設置したか	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
4   2	当該の事件・事故災害発生直後、被害者の遺族・家族への対応は適切に行えましたか。	a. 設置	59	11	5	2	77
			76.6	14.3	6.5	2.6	100
		b. 設置していない	270	48	2	0	320
			84.4	15.0	0.6	0.0	100

上段：件数 下段：割合(%)

また、検証委員会設置の有無と「6-4 児童生徒等の遺族・家族と当該学校及び学校設置者との関係性は良好ですか。」の回答状況についてクロス集計を行った結果、「あまり思わない」「全く思わない」と回答した割合は、設置した場合が 19.1%であるのに対して、設置していない場合が 5.7%であった。

		検証(調査)究明委員会を設置したか	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
6   4	現在、遺族・家族と当該の学校及び学校設置者との関係性は良好ですか?	a. 設置	49	10	9	5	73
			67.1	13.7	12.3	6.8	100
		b. 設置していない	229	52	15	2	298
			76.8	17.4	5.0	0.7	100

上段：件数 下段：割合(%)

さらに、検証委員会の設置の有無と「7-13 当該学校園における同様の事件・事故の再発が防止できているか。」の回答状況についてクロス集計を行った結果では、「あまり思わな

<sup>7</sup> 詳細は1次調査の「2-2-1. 検証(調査)委員会設置の有無」参照。

## 1 次調査・2 次調査を踏まえての分析

い)「全く思わない」と回答した割合は、設置した場合が計 0.0%であるのに対して、設置していない場合が計 2.9%であった。

		検証(調査) 究明委員会を 設置したか	1. とても 思う	2. 少し思 う	3. あまり 思わない	4. 全く思 わない	合計
7   13	上記の取組等により、当該学校園に おける同様の事件・事故の再発防止 ができていないか。	a. 設置	64	13	0	0	77
			83.1	16.9	0.0	0.0	100
		b. 設置してい ない	201	101	5	4	311
			64.6	32.5	1.6	1.3	100

上段：件数 下段：割合(%)

これらの集計結果から、検証委員会については、現状では、原因を究明し再発防止につなげていこうとする積極的な理由から設置されているのではなく、初動対応において遺族・家族への対応が適切に行われなかった結果、検証委員会の設置に至った場合もあることが推測される。一方、検証委員会を設置し検証を行うことで、同様の事件・事故の再発防止に寄与することも示唆されている。2次調査でヒアリングを行った事例においても、検証委員会で事故の検証及び再発防止策を検討したことにより、現在、遺族・家族、学校設置者、学校の三者が良好な関係性を持ち再発防止に取り組んでいる事例が見受けられることから、今後、検証委員会の設置の在り方についても検討していく必要が感じられる。

学校管理下で事件・事故災害が発生した場合の遺族・家族との関係性においては、どんなに適切な対応を取っていたとしても、事故の特性や発生状況等から、良好な関係を築くことが困難な場合も見受けられるかもしれない。しかしながら、遺族・家族に二次的、三次的な被害を与えず、良好な関係を構築していくためには、学校及び学校設置者には、事故発生直後から適切な対応を取ることが求められている。

学校においては、被害にあった児童生徒の他にも多数の児童生徒が在籍していることから、在校生への対応にも配慮しながら、本調査結果を踏まえつつ、学校事故の防止に努めるとともに、事故が発生した後の適切な対応の在り方について整備していくことが必要である。

**全国調査**



## 1. 調査概要

学校の管理下で事件・事故災害が発生した経験を持つ1次調査対象校における学校安全に関わる取組の実態の特徴を明確にするために、全国の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、特別支援学校）における学校事故対応状況と課題について、市町村及び都道府県の教育委員会の学校安全担当者から管下の学校における学校安全に関わる取組の実態や具体的な学校事故対応の在り方に関する評価・意見を収集するためのアンケート調査を行った。その結果、市町村教育委員会から1782件中910件（51.1%）、都道府県教育委員会から47件中34件（72.3%）の回答があった。

まず「学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能しているか。」について「とても思う」と「少し思う」を合計した「思う」と回答した割合を比較してみると、全国調査（市町村調査と都道府県調査の合計）で89.3%、1次調査対象校の事故後の現在の状況では91.1%が「思う」と回答していた。以下同様に全国調査と1次調査対象校の現在の状況と比較してみると、「地域住民や関係機関との連携を図るための連携組織（地域学校安全委員会等）が設置され、機能しているか。」については、「思う」という回答割合は、全国調査が73.1%、1次調査対象校が63.3%で、「学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されているか。」については、全国調査で82.9%、1次調査対象校で85.6%であった。

「毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されているか。」については、全国調査で98.6%、1次調査対象校で98.1%が「思う」と回答しており、「安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われているか。」については、全国調査が98.9%、1次調査対象校が99.4%、「安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされているか。」については、全国調査で98.1%、1次調査対象校で96.4%となり、「学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用しているか。」では、全国調査の83.8%、1次調査対象校の89.7%が、それぞれ「思う」と回答していた。

また「危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれているか。」については、全国調査で97.3%、1次調査対象校では96.4%が「思う」と回答しており、「危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されているか。」については、全国調査が79.0%、1次調査対象校が84.3%が「思う」と回答していた。「危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されているか。」については、全国調査が97.5%、1次調査対象校が96.3%、「危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されているか。」については、全国調査が96.7%、1次調査対象校が90.6%、「危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われているか。」については、全国調査が90.5%、1次調査対象校が86.0%の割合で、それぞれ「思う」と回答していた。

1次調査と全国調査では、調査方法に若干の相違があるため、単純に比較できるものではないが、以上の結果からは、学校管理下における事件・事故災害の発生の有無に関わらず、事件・事故災害が発生した学校の現状とほぼ等しい学校安全の取組が全国的に実施されて

## 全国調査

いるものと考えられる。また、1次調査対象校では、「学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用している」「危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されている」割合が、全国調査の割合に比べて特に高くなっていることから、事件・事故災害の教訓を生かした学校安全の取組が実施されていることが示唆される。

2-1. 市町村

市町村			幼稚園	小学校	中学校	高校	高等専門学校	特別支援学校
1-A	学校安全委員会等が設置され、機能していますか。	平均値	2.24	2.46	2.43	2.37	1.00	2.40
		標準偏差	0.84	0.69	0.72	0.83	1.10	0.93
		有効回答	435	895	894	54	6	40
1-B	地域学校安全委員会等が設置され、機能していますか。	平均値	1.82	2.07	1.99	1.84	0.83	1.83
		標準偏差	0.88	0.86	0.86	0.95	0.75	0.88
		有効回答	433	890	889	56	6	42
1-C	それらの活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されていますか。	平均値	2.07	2.25	2.22	2.15	0.83	2.10
		標準偏差	0.85	0.75	0.77	0.87	0.75	0.91
		有効回答	432	894	893	52	6	39
1-D	教育委員会としてそれらの委員会等の設置に関する指導を行っていますか。	平均値	1.92	1.95	1.94	1.94	1.00	1.93
		標準偏差	0.92	0.92	0.92	0.98	1.10	1.06
		有効回答	435	890	891	54	6	41
2-A	毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていますか。	平均値	2.86	2.87	2.86	2.74	1.33	2.75
		標準偏差	0.43	0.37	0.38	0.68	1.21	0.74
		有効回答	435	900	901	54	6	40
2-B	安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていますか。	平均値	2.82	2.82	2.82	2.72	1.50	2.59
		標準偏差	0.44	0.40	0.40	0.72	1.38	0.87
		有効回答	435	901	901	53	6	41
2-C	安全点検の結果が学校園内で教員に共有され、指導に生かされていますか。	平均値	2.74	2.73	2.72	2.51	1.17	2.39
		標準偏差	0.50	0.48	0.48	0.76	0.98	0.82
		有効回答	433	900	900	51	6	38
2-D	教育委員会として安全点検の実施と改善に関わる指導を行っていますか。	平均値	2.60	2.57	2.57	2.35	1.00	2.46
		標準偏差	0.65	0.63	0.63	0.91	1.26	0.98
		有効回答	435	902	902	54	6	41
3-A	学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用していますか。	平均値	2.23	2.25	2.23	2.10	1.00	2.22
		標準偏差	0.74	0.74	0.74	0.91	0.89	0.92
		有効回答	434	897	896	50	6	37
3-B	教育委員会として安全教育の充実方策について指導が行われていますか。	平均値	2.45	2.39	2.38	2.36	1.17	2.46
		標準偏差	0.68	0.72	0.72	0.85	1.17	0.81
		有効回答	438	902	901	55	6	41
4-A	危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれていますか。	平均値	2.74	2.78	2.78	2.75	1.67	2.73
		標準偏差	0.54	0.47	0.47	0.64	1.37	0.72
		有効回答	436	898	901	56	6	40
4-B	危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されていますか。	平均値	2.18	2.17	2.16	2.10	0.83	1.95
		標準偏差	0.78	0.78	0.80	0.87	0.75	0.83
		有効回答	436	901	901	52	6	39
4-C	危機管理マニュアルの内容が教職員に周知されていますか。	平均値	2.67	2.70	2.69	2.58	1.50	2.46
		標準偏差	0.54	0.51	0.51	0.69	1.22	0.79
		有効回答	434	898	898	53	6	39
4-D	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていますか。	平均値	2.69	2.68	2.65	2.52	1.67	2.66
		標準偏差	0.56	0.53	0.54	0.73	1.37	0.75
		有効回答	433	897	897	52	6	38
4-E	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていますか。	平均値	2.45	2.43	2.40	2.35	1.33	2.32
		標準偏差	0.68	0.67	0.67	0.86	1.21	0.87
		有効回答	433	896	896	52	6	38
4-F	教育委員会として、危機管理マニュアルの作成・運用・改善に関する指導が行われていますか。	平均値	2.37	2.30	2.29	2.18	1.00	2.17
		標準偏差	0.72	0.75	0.75	0.86	1.15	0.93
		有効回答	432	896	896	55	7	42

全国調査

1-A	学校安全委員会等が設置され、機能していますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	199	163	52	21	435
	45.7	37.5	12.0	4.8	100
小学校	499	331	47	18	895
	55.8	37.0	5.3	2.0	100
中学校	488	326	58	22	894
	54.6	36.5	6.5	2.5	100
高校	30	16	6	2	54
	55.6	29.6	11.1	3.7	100
高等専門学校	1	0	3	2	6
	16.7	0.0	50.0	33.3	100
特別支援学校	26	6	6	2	40
	65.0	15.0	15.0	5.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

1-B	地域学校安全委員会等が設置され、機能していますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	101	185	114	33	433
	23.3	42.7	26.3	7.6	100
小学校	311	375	155	49	890
	34.9	42.1	17.4	5.5	100
中学校	277	382	178	52	889
	31.2	43.0	20.0	5.8	100
高校	16	20	15	5	56
	28.6	35.7	26.8	8.9	100
高等専門学校	0	1	3	2	6
	0.0	16.7	50.0	33.3	100
特別支援学校	10	18	11	3	42
	23.8	42.9	26.2	7.1	100

上段：度数 下段：有効パーセント

1-C	それらの活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	149	187	74	22	432
	34.5	43.3	17.1	5.1	100
小学校	366	403	104	21	894
	40.9	45.1	11.6	2.3	100
中学校	356	397	116	24	893
	39.9	44.5	13.0	2.7	100
高校	22	18	10	2	52
	42.3	34.6	19.2	3.8	100
高等専門学校	0	1	3	2	6
	0.0	16.7	50.0	33.3	100
特別支援学校	16	13	8	2	39
	41.0	33.3	20.5	5.1	100

上段：度数 下段：有効パーセント

1-D	教育委員会としてそれらの委員会等の設置に関する指導を行っていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	136	160	108	31	435
	31.3	36.8	24.8	7.1	100
小学校	282	349	189	70	890
	31.7	39.2	21.2	7.9	100
中学校	279	348	194	70	891
	31.3	39.1	21.8	7.9	100
高校	18	21	9	6	54
	33.3	38.9	16.7	11.1	100
高等専門学校	1	0	3	2	6
	16.7	0.0	50.0	33.3	100
特別支援学校	15	14	6	6	41
	36.6	34.1	14.6	14.6	100

上段：度数 下段：有効パーセント



2-A	毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	384	44	4	3	435
	88.3	10.1	0.9	0.7	100
小学校	793	98	8	1	900
	88.1	10.9	0.9	0.1	100
中学校	789	103	8	1	901
	87.6	11.4	0.9	0.1	100
高校	45	6	1	2	54
	83.3	11.1	1.9	3.7	100
高等専門学校	1	2	1	2	6
	16.7	33.3	16.7	33.3	100
特別支援学校	35	2	1	2	40
	87.5	5.0	2.5	5.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

2-B	安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	363	67	3	2	435
	83.4	15.4	0.7	0.5	100
小学校	745	150	6	0	901
	82.7	16.6	0.7	0.0	100
中学校	742	154	5	0	901
	82.4	17.1	0.6	0.0	100
高校	44	5	2	2	53
	83.0	9.4	3.8	3.8	100
高等専門学校	2	1	1	2	6
	33.3	16.7	16.7	33.3	100
特別支援学校	31	6	1	3	41
	75.6	14.6	2.4	7.3	100

上段：度数 下段：有効パーセント

2-C	安全点検の結果が学校園内で教員に共有され、指導に生かされていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	329	96	6	2	433
	76.0	22.2	1.4	0.5	100
小学校	665	223	12	0	900
	73.9	24.8	1.3	0.0	100
中学校	658	228	14	0	900
	73.1	25.3	1.6	0.0	100
高校	32	15	2	2	51
	62.7	29.4	3.9	3.9	100
高等専門学校	0	3	1	2	6
	0.0	50.0	16.7	33.3	100
特別支援学校	21	13	2	2	38
	55.3	34.2	5.3	5.3	100

上段：度数 下段：有効パーセント

2-D	教育委員会として安全点検の実施と改善に関わる指導を行っていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	291	118	20	6	435
	66.9	27.1	4.6	1.4	100
小学校	572	277	45	8	902
	63.4	30.7	5.0	0.9	100
中学校	573	276	45	8	902
	63.5	30.6	5.0	0.9	100
高校	31	15	4	4	54
	57.4	27.8	7.4	7.4	100
高等専門学校	1	1	1	3	6
	16.7	16.7	16.7	50.0	100
特別支援学校	29	6	2	4	41
	70.7	14.6	4.9	9.8	100

上段：度数 下段：有効パーセント

全国調査

3-A	学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用していますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	174	191	64	5	434
	40.1	44.0	14.7	1.2	100
小学校	371	387	128	11	897
	41.4	43.1	14.3	1.2	100
中学校	358	394	133	11	896
	40.0	44.0	14.8	1.2	100
高校	20	18	9	3	50
	40.0	36.0	18.0	6.0	100
高等専門学校	0	2	2	2	6
	0.0	33.3	33.3	33.3	100
特別支援学校	17	14	3	3	37
	45.9	37.8	8.1	8.1	100

上段：度数 下段：有効パーセント

3-B	教育委員会として安全教育の充実方策について指導を行われていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	239	158	38	3	438
	54.6	36.1	8.7	0.7	100
小学校	465	328	101	8	902
	51.6	36.4	11.2	0.9	100
中学校	462	330	101	8	901
	51.3	36.6	11.2	0.9	100
高校	31	15	7	2	55
	56.4	27.3	12.7	3.6	100
高等専門学校	1	1	2	2	6
	16.7	16.7	33.3	33.3	100
特別支援学校	25	12	2	2	41
	61.0	29.3	4.9	4.9	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-A	危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	341	78	15	2	436
	78.2	17.9	3.4	0.5	100
小学校	725	153	18	2	898
	80.7	17.0	2.0	0.2	100
中学校	725	157	17	2	901
	80.5	17.4	1.9	0.2	100
高校	46	8	0	2	56
	82.1	14.3	0.0	3.6	100
高等専門学校	2	2	0	2	6
	33.3	33.3	0.0	33.3	100
特別支援学校	33	5	0	2	40
	82.5	12.5	0.0	5.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-B	危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されていますか。				
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	合計
幼稚園	171	178	81	6	436
	39.2	40.8	18.6	1.4	100
小学校	352	370	163	16	901
	39.1	41.1	18.1	1.8	100
中学校	348	363	172	18	901
	38.6	40.3	19.1	2.0	100
高校	20	19	11	2	52
	38.5	36.5	21.2	3.8	100
高等専門学校	0	1	3	2	6
	0.0	16.7	50.0	33.3	100
特別支援学校	10	19	8	2	39
	25.6	48.7	20.5	5.1	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-C	危機管理マニュアルの内容が教職員に周知されていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	303	119	10	2	434
	69.8	27.4	2.3	0.5	100
小学校	650	227	21	0	898
	72.4	25.3	2.3	0.0	100
中学校	637	241	20	0	898
	70.9	26.8	2.2	0.0	100
高校	35	16	0	2	53
	66.0	30.2	0.0	3.8	100
高等専門学校	1	3	0	2	6
	16.7	50.0	0.0	33.3	100
特別支援学校	23	13	1	2	39
	59.0	33.3	2.6	5.1	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-D	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	315	103	12	3	433
	72.7	23.8	2.8	0.7	100
小学校	639	232	25	1	897
	71.2	25.9	2.8	0.1	100
中学校	611	258	27	1	897
	68.1	28.8	3.0	0.1	100
高校	32	17	1	2	52
	61.5	32.7	1.9	3.8	100
高等専門学校	2	2	0	2	6
	33.3	33.3	0.0	33.3	100
特別支援学校	29	7	0	2	38
	76.3	18.4	0.0	5.3	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-E	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	235	161	32	5	433
	54.3	37.2	7.4	1.2	100
小学校	469	346	76	5	896
	52.3	38.6	8.5	0.6	100
中学校	448	362	81	5	896
	50.0	40.4	9.0	0.6	100
高校	28	17	4	3	52
	53.8	32.7	7.7	5.8	100
高等専門学校	1	2	1	2	6
	16.7	33.3	16.7	33.3	100
特別支援学校	20	12	4	2	38
	52.6	31.6	10.5	5.3	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-F	教育委員会として、危機管理マニュアルの作成・運用・改善に関する指導が行われていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	217	161	51	3	432
	50.2	37.3	11.8	0.7	100
小学校	412	354	116	14	896
	46.0	39.5	12.9	1.6	100
中学校	409	356	117	14	896
	45.6	39.7	13.1	1.6	100
高校	22	25	4	4	55
	40.0	45.5	7.3	7.3	100
高等専門学校	1	1	2	3	7
	14.3	14.3	28.6	42.9	100
特別支援学校	19	14	6	3	42
	45.2	33.3	14.3	7.1	100

上段：度数 下段：有効パーセント

全国調査

2-2. 都道府県

都道府県		幼稚園	小学校	中学校	高校	高等専門学校	特別支援学校	
1-A	学校安全委員会等が設置され、機能していますか。	平均値	2.00	2.40	2.27	2.30	2.00	2.33
		標準偏差	1.00	0.89	0.80	0.88	-	0.84
		有効回答	3	5	15	30	1	30
1-B	地域学校安全委員会等が設置され、機能していますか。	平均値	1.33	2.20	1.93	1.93	1.50	1.93
		標準偏差	0.58	0.84	0.88	0.84	0.71	0.78
		有効回答	3	5	15	29	2	30
1-C	それらの活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されていますか。	平均値	2.33	2.40	2.14	2.03	2.00	2.10
		標準偏差	0.58	0.89	0.77	0.87	-	0.86
		有効回答	3	5	14	29	1	29
1-D	教育委員会としてそれらの委員会等の設置に関する指導を行っていますか。	平均値	1.67	2.00	2.11	2.18	2.00	2.16
		標準偏差	1.53	1.00	1.08	1.04	-	1.05
		有効回答	3	5	18	33	1	32
2-A	毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていますか。	平均値	3.00	3.00	2.89	2.91	3.00	2.97
		標準偏差	0.00	0.00	0.32	0.29	-	0.17
		有効回答	4	6	19	34	1	33
2-B	安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていますか。	平均値	3.00	2.83	2.79	2.85	3.00	2.91
		標準偏差	0.00	0.41	0.42	0.36	-	0.29
		有効回答	4	6	19	34	1	33
2-C	安全点検の結果が学校園内で教員に共有され、指導に生かされていますか。	平均値	2.75	2.67	2.61	2.59	3.00	2.68
		標準偏差	0.50	0.52	0.50	0.50	-	0.48
		有効回答	4	6	18	32	1	31
2-D	教育委員会として安全点検の実施と改善に関わる指導を行っていますか。	平均値	2.75	3.00	2.84	2.82	3.00	2.85
		標準偏差	0.50	0.00	0.37	0.39	-	0.36
		有効回答	4	6	19	34	1	33
3-A	学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用していますか。	平均値	2.00	2.40	2.53	2.36	2.00	2.33
		標準偏差	1.00	0.89	0.64	0.78	-	0.78
		有効回答	3	5	15	28	1	27
3-B	教育委員会として安全教育の充実方策について指導が行われていますか。	平均値	2.75	3.00	2.94	2.85	3.00	2.81
		標準偏差	0.50	0.00	0.24	0.44	-	0.47
		有効回答	4	6	18	33	1	32
4-A	危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれていますか。	平均値	3.00	3.00	2.89	2.71	3.00	2.73
		標準偏差	0.00	0.00	0.32	0.58	-	0.57
		有効回答	4	6	19	34	1	33
4-B	危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されていますか。	平均値	2.00	2.17	1.88	1.84	2.00	1.83
		標準偏差	0.82	0.75	0.99	0.86	-	0.87
		有効回答	4	6	17	31	1	30
4-C	危機管理マニュアルの内容が教職員に周知されていますか。	平均値	2.33	2.60	2.82	2.75	2.00	2.81
		標準偏差	0.58	0.55	0.39	0.44	-	0.40
		有効回答	3	5	17	32	1	31
4-D	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていますか。	平均値	2.75	2.83	2.74	2.62	3.00	2.73
		標準偏差	0.50	0.41	0.45	0.60	-	0.45
		有効回答	4	6	19	34	1	33
4-E	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていますか。	平均値	2.33	2.60	2.50	2.38	3.00	2.50
		標準偏差	1.15	0.55	0.63	0.73	-	0.64
		有効回答	3	5	16	29	1	28
4-F	教育委員会として、危機管理マニュアルの作成・運用・改善に関する指導が行われていますか。	平均値	2.50	2.83	2.84	2.82	3.00	2.82
		標準偏差	1.00	0.41	0.37	0.46	-	0.46
		有効回答	4	6	19	34	1	33

1-A	学校安全委員会等が設置され、機能していますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	1	1	1	0	3
	33.3	33.3	33.3	0.0	100
小学校	3	1	1	0	5
	60.0	20.0	20.0	0.0	100
中学校	7	5	3	0	15
	46.7	33.3	20.0	0.0	100
高校	17	5	8	0	30
	56.7	16.7	26.7	0.0	100
高等専門学校	0	1	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	17	6	7	0	30
	56.7	20.0	23.3	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

1-B	地域学校安全委員会等が設置され、機能していますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	0	1	2	0	3
	0.0	33.3	66.7	0.0	100
小学校	2	2	1	0	5
	40.0	40.0	20.0	0.0	100
中学校	4	7	3	1	15
	26.7	46.7	20.0	6.7	100
高校	8	12	8	1	29
	27.6	41.4	27.6	3.4	100
高等専門学校	0	1	1	0	2
	0.0	50.0	50.0	0.0	100
特別支援学校	8	12	10	0	30
	26.7	40.0	33.3	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

1-C	それらの活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	1	2	0	0	3
	33.3	66.7	0.0	0.0	100
小学校	3	1	1	0	5
	60.0	20.0	20.0	0.0	100
中学校	5	6	3	0	14
	35.7	42.9	21.4	0.0	100
高校	11	8	10	0	29
	37.9	27.6	34.5	0.0	100
高等専門学校	0	1	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	12	8	9	0	29
	41.4	27.6	31.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

1-D	教育委員会としてそれらの委員会等の設置に関する指導を行っていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	1	1	0	1	3
	33.3	33.3	0.0	33.3	100
小学校	2	1	2	0	5
	40.0	20.0	40.0	0.0	100
中学校	9	4	3	2	18
	50.0	22.2	16.7	11.1	100
高校	18	6	6	3	33
	54.5	18.2	18.2	9.1	100
高等専門学校	0	1	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	17	6	6	3	32
	53.1	18.8	18.8	9.4	100

上段：度数 下段：有効パーセント

全国調査

2-A	毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	4	0	0	0	4
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
小学校	6	0	0	0	6
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
中学校	17	2	0	0	19
	89.5	10.5	0.0	0.0	100
高校	31	3	0	0	34
	91.2	8.8	0.0	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	32	1	0	0	33
	97.0	3.0	0.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

2-B	安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	4	0	0	0	4
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
小学校	5	1	0	0	6
	83.3	16.7	0.0	0.0	100
中学校	15	4	0	0	19
	78.9	21.1	0.0	0.0	100
高校	29	5	0	0	34
	85.3	14.7	0.0	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	30	3	0	0	33
	90.9	9.1	0.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

2-C	安全点検の結果が学校園内で教員に共有され、指導に生かされていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	3	1	0	0	4
	75.0	25.0	0.0	0.0	100
小学校	4	2	0	0	6
	66.7	33.3	0.0	0.0	100
中学校	11	7	0	0	18
	61.1	38.9	0.0	0.0	100
高校	19	13	0	0	32
	59.4	40.6	0.0	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	21	10	0	0	31
	67.7	32.3	0.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

2-D	教育委員会として安全点検の実施と改善に関わる指導を行っていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	3	1	0	0	4
	75.0	25.0	0.0	0.0	100
小学校	6	0	0	0	6
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
中学校	16	3	0	0	19
	84.2	15.8	0.0	0.0	100
高校	28	6	0	0	34
	82.4	17.6	0.0	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	28	5	0	0	33
	84.8	15.2	0.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

3-A	学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用していますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	1	1	1	0	3
	33.3	33.3	33.3	0.0	100
小学校	3	1	1	0	5
	60.0	20.0	20.0	0.0	100
中学校	9	5	1	0	15
	60.0	33.3	6.7	0.0	100
高校	15	8	5	0	28
	53.6	28.6	17.9	0.0	100
高等専門学校	0	1	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	14	8	5	0	27
	51.9	29.6	18.5	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

3-B	教育委員会として安全教育の充実方策について指導を行われていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	3	1	0	0	4
	75.0	25.0	0.0	0.0	100
小学校	6	0	0	0	6
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
中学校	17	1	0	0	18
	94.4	5.6	0.0	0.0	100
高校	29	3	1	0	33
	87.9	9.1	3.0	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	27	4	1	0	32
	84.4	12.5	3.1	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-A	危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	4	0	0	0	4
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
小学校	6	0	0	0	6
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
中学校	17	2	0	0	19
	89.5	10.5	0.0	0.0	100
高校	26	6	2	0	34
	76.5	17.6	5.9	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	26	5	2	0	33
	78.8	15.2	6.1	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-B	危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	1	2	1	0	4
	25.0	50.0	25.0	0.0	100
小学校	2	3	1	0	6
	33.3	50.0	16.7	0.0	100
中学校	5	7	3	2	17
	29.4	41.2	17.6	11.8	100
高校	7	14	8	2	31
	22.6	45.2	25.8	6.5	100
高等専門学校	0	1	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	7	13	8	2	30
	23.3	43.3	26.7	6.7	100

上段：度数 下段：有効パーセント

全国調査

4-C	危機管理マニュアルの内容が教職員に周知されていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	1	2	0	0	3
	33.3	66.7	0.0	0.0	100
小学校	3	2	0	0	5
	60.0	40.0	0.0	0.0	100
中学校	14	3	0	0	17
	82.4	17.6	0.0	0.0	100
高校	24	8	0	0	32
	75.0	25.0	0.0	0.0	100
高等専門学校	0	1	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	25	6	0	0	31
	80.6	19.4	0.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-D	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	3	1	0	0	4
	75.0	25.0	0.0	0.0	100
小学校	5	1	0	0	6
	83.3	16.7	0.0	0.0	100
中学校	14	5	0	0	19
	73.7	26.3	0.0	0.0	100
高校	23	9	2	0	34
	67.6	26.5	5.9	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	24	9	0	0	33
	72.7	27.3	0.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-E	危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	2	0	1	0	3
	66.7	0.0	33.3	0.0	100
小学校	3	2	0	0	5
	60.0	40.0	0.0	0.0	100
中学校	9	6	1	0	16
	56.3	37.5	6.3	0.0	100
高校	15	10	4	0	29
	51.7	34.5	13.8	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	16	10	2	0	28
	57.1	35.7	7.1	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント

4-F	教育委員会として、危機管理マニュアルの作成・運用・改善に関する指導が行われていますか。				合計
	1. とても思う	2. 少し思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない	
幼稚園	3	0	1	0	4
	75.0	0.0	25.0	0.0	100
小学校	5	1	0	0	6
	83.3	16.7	0.0	0.0	100
中学校	16	3	0	0	19
	84.2	15.8	0.0	0.0	100
高校	29	4	1	0	34
	85.3	11.8	2.9	0.0	100
高等専門学校	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100
特別支援学校	28	4	1	0	33
	84.8	12.1	3.0	0.0	100

上段：度数 下段：有効パーセント



**參考資料**



事件・事故災害対応に役に立つリンク集

**熱中症**

・熱中症予防のための啓発資料「熱中症を予防しようー知って防ごう熱中症ー」平成26年3月（独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school//taisaku/nettyuusyo/tabid/114/Default.aspx](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school//taisaku/nettyuusyo/tabid/114/Default.aspx)

・熱中症に注意しよう（教職員向け）平成26年7月号「教材カード」（独）日本スポーツ振興センター

<http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H26.7.pdf>

・あつくなったらちゅういしよう（幼・保・小学校低学年向け）平成26年5月号「教材カード」（独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H26.5\\_youho.pdf](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H26.5_youho.pdf)

・熱中症を予防しよう（小学校中・高学年向け）平成26年5月号「教材カード」（独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H26.5\\_syou.pdf](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H26.5_syou.pdf)

・熱中症を予防しよう（中・高生向け）平成26年5月号「教材カード」（独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H26.5\\_cyukou.pdf](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H26.5_cyukou.pdf)

**突然死・AED**

・AEDの適正配置に関するガイドライン 平成25年9月9日 厚生労働省（一般財団法人日本救急医療財団）

<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000024513.pdf>

## 参考資料

- ・学校における突然死予防必携 第2版 平成23年2月 (独) 日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school/taisaku/sudden/tabid/228/Default.aspx](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/taisaku/sudden/tabid/228/Default.aspx)

- ・減らせ突然死 ～使おう AED～ 実行委員会 平成24年4月22日

<http://aed-project.jp/suggestion.html>

- ・救命処置の流れ (心肺蘇生法と AED の使用) 総務省消防庁

<http://www.fdma.go.jp/html/life/pdf/oukyu2.pdf>

- ・一次救命処置 (BLS) ～心肺蘇生と AED～ 日本赤十字社 (映像資料)

[https://www.youtube.com/watch?v=qYea586\\_U9s](https://www.youtube.com/watch?v=qYea586_U9s)

- ・提言「学校での心臓突然死ゼロをめざして」 日本循環器学会 AED 検討委員会

<http://www.j-circ.or.jp/cpr/suggestion.html>

- ・AED の具体的設置・配置基準に対する提言 日本循環器学会 AED 検討委員会  
日本心臓財団 「心臓」 vol.44 No.44 (2002)

<http://www.jhf.or.jp/aed/images/44-4shinzo.pdf>

- ・AED で助かる命 日本心臓財団

<http://www.jhf.or.jp/aed/what.html>

### 体育活動中の事故

- ・平成24年度版 体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKA モデル～平成24年9月30日 さいたま市教育委員会

[http://www.city.saitama.jp/003/002/011/p019665\\_d/fil/jiko\\_taiou\\_text.pdf](http://www.city.saitama.jp/003/002/011/p019665_d/fil/jiko_taiou_text.pdf)

- ・体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKA モデル～解説 [研修用資料付] 平成24年9月30日 さいたま市教育委員会

<http://www.city.saitama.jp/003/002/011/p020000.html>

- ・学校における体育活動中の事故防止のための映像資料 文部科学省

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbBZpfbIZpdamkuUGAZsFHsX>

- ・柔道の授業の安全な実施に向けて 平成 24 年 3 月 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/judo/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2012/03/19/1318541\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/judo/__icsFiles/afieldfile/2012/03/19/1318541_01.pdf)

- ・学校における水泳事故防止必携（新訂二版）平成 18 年 6 月 （独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school//taisaku/swim/tabid/115/Default.aspx](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school//taisaku/swim/tabid/115/Default.aspx)

- ・部活動の安全指導 平成 26 年 9 月 横浜市立大学 南部さおり

[http://judojiko.net/apps/wp-content/uploads/2010/03/bukatsu\\_anzen.pdf](http://judojiko.net/apps/wp-content/uploads/2010/03/bukatsu_anzen.pdf)

- ・ラグビー外傷・障害対応マニュアル 平成 23 年 9 月 日本ラグビーフットボール協会

<http://www.rugby-japan.jp/about/committee/safe/injury2.pdf>

#### アレルギーへの対応

- ・学校給食における食物アレルギー対応指針 平成 27 年 3 月 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2015/03/03/1355518\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2015/03/03/1355518_1.pdf)

- ・学校の管理下における食物アレルギーへの対応（教職員向け）平成 27 年 1 月号「教材カード」（独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H27.1\\_2.pdf](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H27.1_2.pdf)

- ・「食物アレルギー」って、なあ～に（小学校低学年向け）平成 27 年 1 月号「教材カード」（独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H27.1\\_1.pdf](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H26/H27.1_1.pdf)

- ・学校給食実施基準の一部改正について 平成 25 年 1 月 30 日 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/1332086.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1332086.htm)

## 参考資料

- ・食に関する指導の手引—第1次改訂版— 平成22年3月 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/syokuiku/1292952.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm)

- ・学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン 平成20年3月 日本学校保健会

[http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook\\_01/01.pdf](http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_01/01.pdf)

### 【報告書】

- ・今後の学校給食における食物アレルギー対応について 最終報告 平成26年3月 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/\\_\\_\\_icsFiles/afielddfile/2014/03/27/1345963\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/___icsFiles/afielddfile/2014/03/27/1345963_2.pdf)

- ・運動部活動の在り方に関する調査研究報告書 平成25年5月27日 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/jyujitsu/\\_\\_\\_icsFiles/afielddfile/2013/05/27/1335529\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/___icsFiles/afielddfile/2013/05/27/1335529_1.pdf)

- ・学校における体育活動中の事故防止について（報告書） 平成24年7月 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/jyujitsu/\\_\\_\\_icsFiles/afielddfile/2012/07/27/1323968\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/___icsFiles/afielddfile/2012/07/27/1323968_1_1.pdf)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/jyujitsu/\\_\\_\\_icsFiles/afielddfile/2012/07/27/1323968\\_2\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/___icsFiles/afielddfile/2012/07/27/1323968_2_1.pdf)

- ・学校の管理下の災害 平成26年版 平成26年11月 （独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school//tabid/1744/Default.aspx](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school//tabid/1744/Default.aspx)

- ・「体育活動における熱中症予防」 調査研究報告書 平成26年3月 （独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school/bousi\\_kenkyu/tabid/1729/Default.aspx](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/bousi_kenkyu/tabid/1729/Default.aspx)

- ・「学校の管理下における体育活動中の事故の傾向と事故防止に関する調査研究」—体育活動における頭頸部外傷の傾向と事故防止の留意点— 調査研究報告書 平成25年3月 （独）日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school/bousi\\_kenkyu/tabid/1651/Default.aspx](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/bousi_kenkyu/tabid/1651/Default.aspx)

・学校の管理下における食物アレルギーへの対応 調査研究報告書 平成 23 年 3 月 (独)  
日本スポーツ振興センター

[http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school/bousi\\_kenkyu//tabid/1419/Default.aspx](http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/bousi_kenkyu//tabid/1419/Default.aspx)

・課外指導における事故防止対策 調査研究報告書 平成 22 年 3 月 (独) 日本スポーツ  
振興センター

<http://www.jpnsport.go.jp/anzen/branch/tabid/1008/Default.aspx>

・平成 25 年度 学校生活における健康管理に関する調査事業報告書 日本学校保健会

[http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook\\_H260030/H260030.pdf](http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H260030/H260030.pdf)

・体育活動中の事故防止に関する調査研究における海外調査報告書 平成 24 年 3 月 株式  
会社三菱総合研究所 (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/jyujitsu/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2012/07/27/1323969\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/__icsFiles/afieldfile/2012/07/27/1323969_1_1.pdf)

・大川小学校事故検証報告書 平成 26 年 2 月 大川小学校事故検証委員会

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo5/012/gijiroku/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2014/08/07/1350542\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/012/gijiroku/__icsFiles/afieldfile/2014/08/07/1350542_01.pdf)

・調布市立学校児童死亡事故検証結果報告書 平成 25 年 3 月 調布市立学校児童死亡事故  
検証委員会

<http://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1363069358235/files/kensyou.pdf>





別 添



## 【別添 1】 事件事故災害が発生した場面時間帯区分(内訳)

## 場面・時間帯区分 (内訳)

授業中	体育	
	体育以外の科目	英語、数学、国語、家庭科、科目不明
	総合的な学習の時間	
	実習中	産業現場実習
	授業中(詳細不明)	詳細不明
通学中	登校中	
	通学中	登校か下校は不明
	帰宅中	
休憩時間	登校後	登校後から1時間目が始まるまでの時間(朝の会、読書当の時間を含む)
	休み時間	授業後の移動時間を含む
	給食	準備、直後の移動を含む
	昼休み	
	掃除	
	休憩時間(詳細不明)	詳細不明
特別活動 (学校行事除く)	放課後	授業/部活終了後から下校するまでの間
	特別活動(運動含む)	学級活動 (学年単位のものを含む)、ホームルーム、クラスマッチ、夏季休暇中のプール指導、運動会手伝い等
	特別活動(運動含まない)	学級活動 (学年単位のものを含む)、ホームルーム、クラスマッチ、防災訓練、訪問活動等
	特別活動(学外)	修学旅行、遠足、留学、学校外における活動
学校行事	特別活動(詳細不明)	詳細不明
	学校行事(運動含む)	運動会、体育大会、校内マラソン大会、駅伝大会等
	学校行事(運動含まない)	全校制作活動中、文化祭準備、卒業式、始業式等
部活	部活(日常的な活動)	
	部活(試合・合宿・練習試合等)	練習試合、公式試合、合宿、合同練習会(学内で行われたものを含む)
寄宿舎にある時	寄宿舎	
課外指導(部活除く)	課外指導(詳細不明)	詳細不明
不明	不明	記載がなく不明

別 添 2

【別添 2】 事件事故災害発生時に実施していたスポーツ(内訳)

スポーツ区分 (内訳)

柔道	
陸上	マラソン、駅伝含む
野球	
ラグビー	
テニス	
バスケットボール	
サッカー	
水泳	海水浴含む
バレーボール	
レスリング	
アメリカンフットボール	
剣道	
体操	マット運動、組立体操含む 準備体操含まず
卓球	
体力測定・スポーツテスト	
文科系部活	演劇、吹奏楽
その他スポーツ	登山、体力作り、走る以外の陸上競技(投てき, 高跳び)、カヌー、セーリング、スポーツ不明

**【別添 3】 2-1-4 設問 4-14 自由記述**

・学校側からの事件・事故災害に関する説明に対して、被災した児童生徒等の遺族・家族からの理解が得られにくかった説明内容としてはどのようなことがありましたか。

**【特になし・理解が得られている】**

- 学校の迅速な対応、入院後の連日の付添いや見舞いに感謝された。
- 誠意をもって説明したり、謝罪したりしたことにより理解が得られた。
- 練習やその後の対応などが時系列（分刻み）に記録されていたことで特に問題視されることはなかった。
- 頻繁に面会し説明を重ねたことで、比較的速やかに理解を得られた。

**【事前の状況の把握・事件事故災害防止の対応について】**

- 事故発生前の当該生徒の健康状態（通院歴）等の把握が不十分であったと指摘された。
- 安全に対する注意や事前の指導が不十分であったと指摘された。

**【原因やそれに至った経緯】**

- 目撃者がいなかったが、事故発生時の詳しい状況の説明を求められた。
- なぜこのような事故が起きたのか、事故原因を追及された。

**【事件事故発生時の学校側の対応】**

- 事故当時、部活動の担当顧問が不在であった。
- 救急車の出動要請を行わなかった。
- AEDを使用しなかった。
- 応急処置の開始より校長への連絡を優先した。
- 被害者家族への説明が遅かった。

**【被災した児童生徒の対応】**

- 入院治療による欠席日数の増加や学業（成績）についての配慮を求められた。

**【マスコミに関すること】**

- 新聞報道の内容が被害者家族の意に添わず、学校や設置者からの提供情報に原因があると思われた。

**【補償・金銭面】**

- 日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度の仕組みや手続の説明が不十分であった。
- 事故に対する補償（給付）の内容が不十分であった。

【その他】

- 事故原因がはっきり分かっていない時点で、学校に原因があるという不確実な内容が出回ってしまったことにより、学校の説明を信用してもらえなかった。
- 事故の報道がなかったことから、学校が事実を隠蔽しているのではないかという疑義をもたれた。
- 被害者家族が現場にいた生徒に独自に状況を聞いたことにより、誤解を生じた。
- 事故の発生状況を被害者家族に説明したところ、主たる原因が被災児童にあると言っているように捉えられてしまった。
- 一部の生徒から事故後対応について事実ではない情報が流されたことで、被害者家族に不信感を持たれた。
- 被害者家族より、事故の公表や他の生徒への説明を一切してほしくないとの強い要望があったため、事故検証・再発防止に向けた取組がしにくかった（病気に起因する死亡のため）。
- 被害者家族が事故そのものを受け入れることができない状況であったため、説明しても納得してもらえなかった。

#### 【別添 4】 2-3-4 事後対応における課題

- ・当該事件事故災害の事後対応において苦慮したことについての自由記述における意見等

##### 【当該生徒との関係・フォロー】

- 当該事故の 1 年前に一次事故があったにも関わらず、学校関係者がこの情報を共有していなかった結果、二次事故が発生してしまった。
- 当該生徒が休学から復帰した後の学校生活をフォローするために多くの困難があった。(学校施設の改修、安全管理、学習体制、学力の保障、進路指導(就職先探し)等)
- 心臓疾患等持病を抱えた児童生徒本人が運動したいとの意向を示したり、保護者もわが子の思いに添っていたりする場合、その対応の仕方に困難を伴う。意向に添った対応をするのであれば、事故が発生した場合の対応方針を明確にしておく必要がある。

##### 【被害者家族との関係】

- 被災生徒に後遺障害が残ると分かった時点で、保護者の態度が変わり、事故の原因究明や責任の所在を求められるようになった。
- 学校の説明を丁寧に聞くことはなく、重要なことを隠蔽していると最初から疑われていた。
- 保護者の意向に反した対応をとったために、その後面談を拒否される等不信感をもたれた。(面談の際、担任に会いたくないと言われていたのに、担任を同行させて謝罪させた等)
- 被害者家族の心理は変化するので、継続した対応が必要であると感じた。
- 被災児童生徒の兄弟姉妹が当該校に在籍している場合は配慮が必要である。

##### 【マスコミの対応】

- 一方的な情報に基づいたマスコミ取材に対し、事実を伝えることに苦労した。
- 被災家族や在校生徒への対応が最優先になる中、学校現場にマスコミに対応できる余裕がなかった。
- マスコミは学校側の公表内容を超えて憶測に基づいた記事を書く場合もあることに注意が必要である。

##### 【教員への対応】

- 事故対応について、職員間の継続的な共通理解が必要。校長としてこの事故をどう判断しているのか職員への明確なメッセージがあるとよい。
- 教育委員会から学校に対し何度も繰り返し事情聴取を行ったため、教員に教育委員会に対する不信感をもたれた。聴取方法等に注意が必要である。
- 教職員の疲労の蓄積に対する心のケアが課題だった。

- 教員の異動により、過去に起きた事故の確実な引継ぎと再発防止に向けた取組が継続されるかが課題である。

**【補償・金銭面】**

- 日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度の適用範囲を超えた補償に対する対応が難しかった。(災害発生から10年経過後の医療費、住宅リフォーム費用の請求等)

**【その他】**

- 事故発生時に教職員が現場にいなかった場合、事故現場が学校外の遠方であった場合の状況把握や対応が課題である。
- AEDが確実に使用できるよう設置場所の周知が必要。また、AEDが校舎内に設置してあるため、休日の事故発生の場合の対応が課題である。
- 事故発生後の被災児童生徒の状況や対応の記録をしっかりと残しておくべきである。
- 医学的な専門知識を理解している必要性を感じたが、教職員では限界も感じた。



## 【別添 5】調査票(1次調査)

## 学校事故対応に関する実態調査票（1次調査）

## [回答方法]

各質問の該当する選択肢をクリックし、チェックを入れてください。その他の質問項目はグレーにハイライトされた箇所に直接入力して下さい。本調査票は保護されていますので、パソコンの画面上で見た時に、グレー色にハイライトされている部分のみ入力・編集可能です。回答後、以下の回答先まで、メールの添付ファイルにて提出してください。

複数件の事件・事故災害が発生している場合は、該当する事件・事故ごとにワードファイルを作成し、回答してください。また、被災した児童生徒等が複数名いる場合も、該当する児童生徒ごとにワードファイルを作成し回答してください。ただし、同一事件・事故災害で被災児童生徒が複数いる場合は、回答内容が同じ項目は重複して回答いただく必要はありませんので、被災児童生徒の情報や保護者・遺族との関係等回答が異なる項目のみ別に作成したファイルに回答してください。

【回答先】大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター <anzen\_db@cc.osaka-kyoiku.ac.jp>

【回答期限】平成 26 年 10 月 24 日(金)

ご協力お願いいたします。

教育委員会/学校設置者（ ）所在地（ ）

回答者：氏名（ ）・役職（ ）

## (事故について)

**質問 1** 貴管下の学校で発生した事件・事故災害の内容についてお尋ねします。複数件の事件・事故災害が発生している場合は、該当する事件・事故ごとにワードファイルを作成し、回答してください。

◇ 回答者は、調査対象となっている事件・事故災害の対応に直接関与されましたか？

【 はい・いいえ 】

◇ 事件・事故災害が発生した年月日時：平成 年 月 日 (午前午後 時頃)

◇ 事件・事故災害が発生した学校種：幼稚園 小学校 中学校  
高等学校 中等教育学校 高等専門学校  
特別支援学校（小学部） 特別支援学校（中学部）

特別支援学校（高等部）

- ◇ 被災した児童生徒等の学年：年少・年中・年長  
1年・2年・3年・4年・5年・6年
- ◇ 被災した児童生徒等の性別：男・女
- ◇ 事件・事故災害が発生した場面：各教科等の授業（幼稚園の教育時間を含む）  
特別活動（学校行事を除く） 学校行事  
課外指導 休憩時間 寄宿舎にある時 通学中
- ◇ 死亡・障害等級：死亡  
障害（1級・2級・3級・4級・5級・6級・7級）
- ◇ 事件・事故の分類：事件  
事故（負傷によるもの 中毒(食中毒) 熱中症 溺水  
異物の嚥下等 突然死 その他）
- ◇ 当該事件・事故災害の発生状況について、以下になるべく詳しく記入してください。
- ◇ 当該事件・事故災害に関する記録文書（災害報告書以外の文書等）は残されていますか？  
【  はい・ いいえ 】

次に「質問1」で回答いただいた事件・事故災害について、その事前事後の対応状況についてお尋ねします。

**（事前の対応）**

「質問2」 該当学校園における**事件・事故災害発生前の状況**について最も近いと思われるところの数字を4段階評定で回答してください。

1 1  
2 2  
3 3  
4 4

- 1 学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能していたか。・・・1  2  3  4
- 2 地域住民や関係機関との連携を図るための連携組織（地域学校安全委員会等）が設置され、機能していたか。・・・1  2  3  4
- 3 学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されていたか。・・・1  2  3  4
- 4 毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていたか。・・・1  2  3  4
- 5 安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていたか。・・・1  2  3  4
- 6 安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされていたか。・・・1  2  3  4
- 7 事件・事故災害の予防を目的とした安全教育を実施する際、学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用していたか。・・・1  2  3  4
- 8 危険等発生時対処要領（以下、「危機管理マニュアル」）には、事件・事故災害発生後の対応が

- 含まれていたか。 . . . . . 1  2  3  4
- 9 危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されていたか。  
1  2  3  4
- 10 危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されていたか。 . . . . . 1  2  3  4
- 11 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていたか。 . . . . . 1  2  3  4
- 12 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていたか。  
1  2  3  4

**質問 3** 当該学校園において、事件・事故災害が発生した前年度の具体的な危機対応訓練等の実施状況について回答してください。

<1. 児童生徒・教職員対象の訓練>

◇ 実施されていた訓練の種類（複数回答可）

不審者対応訓練・地震避難訓練・火災避難訓練・その他の訓練（ ）

◇ 1年間の実施回数：（不審者： 回、地震： 回、火災： 回、その他： 回）

◇ 1回あたりの平均訓練時間：約 時間程度

◇ 訓練への参加者：保護者(PTA) 地域住民 警察 消防

（複数回答可）

<2. 教職員等対象の研修>

◇ 実施されていた研修の種類（複数回答可）

不審者対応訓練・地震避難訓練・火災避難訓練・その他の訓練（ ）

◇ 1年間の実施回数：（不審者： 回、地震： 回、火災： 回、その他： 回）

◇ 1回あたりの平均研修時間：約 時間程度

◇ 研修への参加者：校長 教頭・副校長 安全担当教諭 養護教諭

（複数回答可） その他教諭 職員 保護者(PTA)

地域住民

**（事件・事故災害後の対応：初期段階・発生後1週間について）**

**質問 4** 事件・事故災害の発生直後から1週間の対応状況について回答してください。（2～5は、その回答を選んだ理由についてもご回答ください。）

1 とても思う  
2 少し思う  
3 あまり思わない  
4 全く思わない

<初動>

- 1 当該の事件・事故災害は、事前に兆候（ヒヤリハットを含む）と考えられるような状況が観察されていきましたか？ . . . . . 1  2  3  4
- 2 当該の事件・事故災害発生直後、被害者の遺族・家族への対応は適切に行えました

別 添 5

か? . . . . . 1  2  3  4

(選択の理由: )

3 当該の事件・事故災害発生直後、教職員による応急対応（救急救命活動）は適切に行えましたか? . . . . . 1  2  3  4

(選択の理由: )

4 救急車の出動要請は適切に行えましたか? . . . . . 1  2  3  4

(選択の理由: )

5 事件・事故対策本部を設置する等、学校として組織的に適切な対応をとることができましたか? . . . . . 1  2  3  4

(選択の理由: )

<情報の収集>

6 当該の事件・事故災害発生直後、以下の関係者からの情報収集は速やかにかつ十分に行われたと思われますか?

被災した児童生徒から . . . . . 1  2  3  4

在校生から . . . . . 1  2  3  4

教職員から . . . . . 1  2  3  4

その他関係者から . . . . . 1  2  3  4

7 情報収集はどのような形で行われましたか? (だれがどのように等)

<情報の伝達>

8 教育委員会等の関係機関への通報・連絡は適切に行われましたか? . . . . . 1  2  3  4

9 被災した児童生徒等の家族への第一報はいつ行われましたか?

(事故発生後 時間後 or 日後)

10 被災した児童生徒等の遺族・家族に対して、学校側から事件・事故災害の具体的な経緯を説明したのはいつ頃でしたか? . . . . . (事故発生後 時間後 or 日後)

11 被災した児童生徒等の遺族・家族への学校側からの最初の説明は、だれがどのような内容について話されましたか?

12 被災した児童生徒等の遺族・家族に対して、学校側から事件・事故災害の経緯を説明する前に、教職員や学校関係者間における情報共有は十分でしたか? . . . . . 1  2  3  4

13 事件・事故災害発生後、被災した児童生徒等の遺族・家族への学校側からの面談による説明は合

計何回行われましたか? . . . . . 1回・2回・3回・4回・5回・6回以上

14 学校側からの事件・事故災害に関する説明に対して、被災した児童生徒等の遺族・家族からの理解が得られにくかった説明内容としてはどのようなことがありましたか?

できるだけ具体的な内容について回答してください。

15 在校生を対象とした事件・事故災害に関する説明会は開催されましたか? はい・いいえ

14で「はい」の場合、在校生を対象とした説明会はいつ実施されましたか?

(事故発生後 時間後 or 日後)

14で「はい」の場合、在校生説明会等を開催する前に、教職員や学校関係者間における事件・事故災害に関する情報共有は十分に行われましたか? . . . . . 1  2  3  4

14で「はい」の場合、被害者本人、その家族・遺族からの理解を十分に得て開催しましたか?

1  2  3  4

16 在校生に対する心のケアに対して留意した点がありますか?

以下の点についてできるだけ具体的な内容について回答してください。

【体制の構築】

【ケアの方法】

17 在校生の保護者を対象とした事件・事故災害に関する説明会は開催されましたか?

はい・いいえ

17で「はい」の場合、在校生の保護者を対象とした説明会はいつ実施されましたか?

(事故発生後 時間後 or 日後)

17で「はい」の場合、保護者説明会等を開催する前に、教職員や学校関係者間における事件・事故災害に関する情報共有は十分に行われましたか? . . . . . 1  2  3  4

17で「はい」の場合、被害者本人、その家族・遺族からの理解を十分に得て開催しましたか?

1  2  3  4

18 事件・事故災害に関するマスコミ等の取材に対応する当該の学校側の窓口は一元化され、効果的に機能しましたか? . . . . . 1  2  3  4

19 事件・事故災害に関する児童生徒に対するマスコミ等の取材に対して、何らかの対応をとりましたか? . . . . . はい・いいえ

20 事件・事故災害に関するマスコミ等の取材への対応について苦勞した点がありましたか。

できるだけ具体的な内容を回答してください。

**(事件・事故災害後の対応：中期段階について)**

**質問 5** 事件・事故災害の発生から1週間経過後の対応の状況について回答してください。

1 事件・事故災害の原因究明のための検証(調査)委員会を設置されましたか？

はい・いいえ

1で「いいえ」の場合、どのような方法で事件・事故の検証を行ったか、できるだけ具体的な内容を回答してください。

「はい」と回答された方は、下記2の質問にお進みください。

「いいえ」と回答された方は、質問6にお進みください。

2 検証(調査)委員会はいつ設置されましたか？ (事故発生後 時間後 or 日後)

3 検証(調査)委員会の事務局はどの組織が担当されましたか？(複数回答可)

学校設置者(教育委員会等)・当該学校・首長の直轄組織・部局

その他外部の第三者( )

4 検証(調査)委員会はどのようなメンバーで構成されましたか？(複数回答可)

学校設置者・当該学校教職員・当該学校保護者(PTA等)当該遺族・家族

外部有識者(弁護士・医者・大学教員・その他( ))

5 検証(調査)委員会の委員はどのようにして選定されましたか？(複数回答可)

学校設置者推薦・遺族推薦・首長推薦・その他( )

6 検証(調査)委員会では、被災した児童生徒等の遺族・家族から事故の内容や調査方法に対する要望・意見等を聴取しましたか？……………はい・いいえ

7 被災した児童生徒等の遺族・家族は検証(調査)委員会の活動に積極的に参加しましたか？

はい・いいえ

8 検証(調査)委員会における審議経過はマスコミに公表されましたか？……………はい・いいえ

**(事件・事故災害後の対応：後期段階について)**

**質問 6** 事件・事故災害の検証終了以降(後期段階)の対応の状況について回答してください。

1 当該の事件・事故災害に関わる検証結果(報告書)は公開されましたか？……………はい・いいえ

1で「はい」の場合、その検証結果(報告書)の公開対象はどの範囲までですか？(複数回答可)

遺族・家族 学校関係者 マスコミ その他( )

2 事件・事故検証結果(報告書)の中で、再発防止策としてあげられた内容の特徴について、具体的に回答してください。

- |  |           |          |             |            |
|--|-----------|----------|-------------|------------|
|  | 1         | 2        | 3           | 4          |
|  | とても<br>思う | 少し<br>思う | あまり<br>思わない | 全く<br>思わない |
- 3 当該事件・事故災害発生後の以下の対応は、速やかにかつ適切に行われたと思われませんか？
- ・被災した児童生徒の遺族・家族等への対応・・・・・・・・・・ 1  2  3  4
  - ・在校生への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  2  3  4
  - ・マスコミ等への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  2  3  4
- 4 現在、当該事件・事故災害で被災した児童生徒等の遺族・家族と当該学校及び学校設置者との関係性は良好ですか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  2  3  4
- 5 当該事件・事件災害への対応後、新たに明らかになった事後対応における課題や当該の事後対応において苦慮されたことがあれば、具体的に回答してください。

**質問7** 該当学校園における**事件・事故災害を契機とした現在の状況**について最も近いと思われるところの数字を4段階評定で回答してください。

- |  |           |          |             |            |
|--|-----------|----------|-------------|------------|
|  | 1         | 2        | 3           | 4          |
|  | とても<br>思う | 少し<br>思う | あまり<br>思わない | 全く<br>思わない |
- 1 学校園内の組織として学校安全委員会等が設置され、機能しているか。・・ 1  2  3  4
  - 2 地域住民や関係機関との連携を図るための連携組織（地域学校安全委員会等）が設置され、機能しているか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  2  3  4
  - 3 学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の活動の成果が学校安全計画の策定等に活用されているか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  2  3  4
  - 4 毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されているか。・・ 1  2  3  4
  - 5 安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われているか。・ 1  2  3  4
  - 6 安全点検の結果が教職員に共有され、指導に生かされているか。・・・・ 1  2  3  4
  - 7 事件・事故災害の予防を目的とした安全教育を実施する際、学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用しているか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  2  3  4
  - 8 危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれているか。 1  2  3  4
  - 9 危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されているか。  

1	<input type="checkbox"/>	2	<input type="checkbox"/>	3	<input type="checkbox"/>	4	<input type="checkbox"/>
---	--------------------------	---	--------------------------	---	--------------------------	---	--------------------------
  - 10 危機管理マニュアルの内容は教職員に周知されているか。・・・・・・・・・・ 1  2  3  4

別 添 5

11 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されているか。・・・ 1  2  3  4

12 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われているか。  
1  2  3  4

13 上記の取組等により、当該学校園における同様の事件・事故（死亡・重障害事案以外も含む）の再発が防止できているか。・・・ 1  2  3  4

**質問8** 当該学校園において、事件・事故災害を契機とした現在の具体的な危機対応訓練等の実施状況について回答してください。

<1. 児童生徒・教職員対象の訓練>

◇ 実施している訓練の種類（複数回答可）

不審者対応訓練・地震避難訓練・火災避難訓練・その他の訓練（ ）

◇ 1年間の実施回数：（不審者： 回、地震： 回、火災： 回、その他： 回）

◇ 1回あたりの平均訓練時間：約 時間程度

◇ 訓練への参加者：保護者(PTA) 地域住民 警察 消防  
（複数回答可）

<2. 教職員等対象の研修>

◇ 実施している研修の種類（複数回答可）

不審者対応訓練・地震避難訓練・火災避難訓練・その他の訓練（ ）

◇ 1年間の実施回数：（不審者： 回、地震： 回、火災： 回、その他： 回）

◇ 1回あたりの平均研修時間：約 時間程度

◇ 研修への参加者：校長 教頭・副校長 安全担当教諭 養護教諭  
（複数回答可） その他教諭 職員 保護者(PTA)  
地域住民

(その他)

**質問9** 当該事件・事故災害について、事故当時の学校設置者・学校関係者及び被災した児童生徒等の遺族・家族の方を対象としたヒアリング(面接)調査を実施したいと考えています。

ヒアリング調査にご理解とご協力をいただける方をご紹介いただければ、当方からご連絡を差し上げたいと考えています。是非ともご紹介いただきますようお願い申し上げます。

連絡先：氏名

メールアドレス

電話番号



ご紹介いただいた方の事件・事故災害との関わりを教えてください。

以上で調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

【別添 6】 調査票(2次調査)

質問紙(学校設置者/学校対象)

事件・事故に関する事後対応についてお尋ねします。回答のスペースが足りない場合は、スペースを広げて頂くか別の用紙にご記入下さい。

回答者：氏名（ ） ・ 役職（ ）  
事件との関係（ ）

1. 初期段階(発生後 1 週間以内)

事件・事故の発生直後から 1 週間の対応状況についてお尋ねします。

- ① 当該の事故を振り返って、被害者・家族・遺族との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

- ② 当該の事故を振り返って、被害児童生徒以外にその事故に関係する児童生徒がいた場合のその児童生徒との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

- ③ 当該の事故を振り返って、一般児童生徒との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

- ④ 当該の事故を振り返って、上記以外で初期段階(発生後1週間以内)における事件・事故対応において課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

## 2. 中期段階(発生後1週間以降)

事件・事故の発生から1週間経過後の対応状況についてお尋ねします。

- ① 当該の事故を振り返って、被害者・家族・遺族との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

- ② 当該の事故を振り返って、被害児童生徒以外にその事故に係る児童生徒がいた場合のその児童生徒との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

- ③ 当該の事故を振り返って、一般児童生徒との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

- ④ 当該の事故を振り返って、上記以外で中期段階(発生後1週間以降)における事件・事故対応において課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

### 3. 事件・事故検証段階

事件・事故検証段階の対応状況についてお尋ねします。

- ① 当該の事故を振り返って、被害者・家族・遺族との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

- ② 当該の事故を振り返って、被害児童生徒以外にその事故に関係する児童生徒がいた場合のその児童生徒との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

- ③ 当該の事故を振り返って、一般児童生徒との関わり方について課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

- ④ 当該の事故を振り返って、検証(調査)委員会の運営等に関わって課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。委員会を設置されなかった場合は、事故検証のための組織の委員選定や検証方法に関わって課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

- ⑤ 当該の事故を振り返って、上記以外の事故検証過程で課題となったことや、今後の教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

#### 4. 後期段階(検証終了後)

一連の事件・事故対応を終えて、現時点で残された課題や、今後の学校の管理下における事件・事故対応における教訓や改善点とすべきこと、事前に行っておいた方がよかったことについてお気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

以上 ご協力ありがとうございました。

質問紙(当事者／被害家族対象)

事故に関する事後対応についてお尋ねします。回答のスペースが足りない場合は、スペースを広げて頂くか別の用紙にご記入下さい。

回答者：氏名（ ） ・ 事件との関係（ ）

1. 当該の事故を振り返って、学校等の初期段階(発生後 1 週間以内)における事件・事故対応への評価や要望・課題、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

2. 当該の事故を振り返って、学校等の中期段階(発生後 1 週間以降)における事件・事故対応への評価や要望・課題、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

3. 当該の事故を振り返って、学校等の事故検証過程への評価や要望・課題、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

4. 当該の事故を振り返って、検証(調査)委員会の運営等に関する課題や教訓・改善点、事前に行っておいた方がよかったことについて、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。委員会が設置されなかった場合は、回答頂かなくても結構です。下記の質問 5 にお進み下さい。

5. 当該の事故を振り返って、事故の発生前と発生後における学校等の安全に関する取組状況に対する評価や要望・課題について、お気づきのことがあれば下欄にご記入下さい。

--

以上 ご協力ありがとうございました。





D. 教育委員会として各学校園の学校安全委員会等または地域学校安全委員会等の設置に関する指導を行っていますか。

1	幼稚園	1	2	3	4
2	小学校	1	2	3	4
3	中学校	1	2	3	4
4	高校	1	2	3	4
5	高等専門学校	1	2	3	4
6	特別支援学校	1	2	3	4

**質問 2** 校内安全点検の実施について

貴委員会管下の学校園における校内安全点検についてお尋ねします。

A. 毎学期1回以上の学校の施設・設備の安全点検は実施されていますか。

		とても 思う	少し 思う	あまり 思わない	全く 思わない
1	幼稚園	1	2	3	4
2	小学校	1	2	3	4
3	中学校	1	2	3	4
4	高校	1	2	3	4
5	高等専門学校	1	2	3	4
6	特別支援学校	1	2	3	4

B. 安全点検に基づいた改善改修・使用禁止等の安全対策が行われていますか。

1	幼稚園	1	2	3	4
2	小学校	1	2	3	4
3	中学校	1	2	3	4
4	高校	1	2	3	4
5	高等専門学校	1	2	3	4
6	特別支援学校	1	2	3	4

C. 安全点検の結果が学校園内で教員に共有され、指導に活かされていますか。

1	幼稚園	1	2	3	4
2	小学校	1	2	3	4
3	中学校	1	2	3	4
4	高校	1	2	3	4
5	高等専門学校	1	2	3	4
6	特別支援学校	1	2	3	4

D. 教育委員会として各学校園の安全点検の実施と改善に関わる指導を行っていますか。

1	幼稚園	1	2	3	4
2	小学校	1	2	3	4
3	中学校	1	2	3	4
4	高校	1	2	3	4
5	高等専門学校	1	2	3	4
6	特別支援学校	1	2	3	4

**質問 3 安全教育の実施について**

貴委員会管下の学校園における安全教育の実施状況についてお尋ねします。

**A. 事件・事故災害の予防を目的とした安全教育を実施する際、学校園内で過去に発生した事件・事故災害のデータを活用していますか。**

	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4

**B. 教育委員会として各学校園の事件・事故災害の発生を予防するための安全教育の充実方策について指導が行われていますか。**

1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4

**質問4 危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）について**

貴委員会管下の学校園における「学校管理下の事件・事故災害」に関する危険等発生時対処要領（以下、「危機管理マニュアル」）の状況についてお尋ねします。

**A. 危機管理マニュアルには、事件・事故災害発生後の対応が含まれていますか。**

1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4

**B. 危機管理マニュアルに「事後対応や事故の検証方法」について明確に規定されていますか。**

1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4

	とても 思う	少し 思う	あまり 思わない	全く 思わない
<b>C. 危機管理マニュアルの内容が教職員に周知されていますか。</b>				
1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4
<b>D. 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修が実施されていますか。</b>				
1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4
<b>E. 危機管理マニュアルに基づいた訓練や研修について事後評価が行われていますか。</b>				
1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4
<b>F. 教育委員会として、各学校園の危機管理マニュアルの作成・運用・改善に関する指導が行われていますか。</b>				
1 幼稚園	1	2	3	4
2 小学校	1	2	3	4
3 中学校	1	2	3	4
4 高校	1	2	3	4
5 高等専門学校	1	2	3	4
6 特別支援学校	1	2	3	4

以上で調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

